



平成29年度

年報 第32号

福島県立博物館

年報発刊に 寄せて



文化と観光を繋ぐ拠点として

時代は大きく動いています。博物館に求められる役割もまた、静かに、しかし根底から変わろうとしています。都市とミュージアムの新しい関係が多様なかたちで問われつつあります。最近、海外のミュージアムを見て回る機会に恵まれ、痛感したこともありました。元気な街には元気なミュージアムがあるのです。これからの県立博物館のあり方についても、そうした大きな視野のもとで議論を深めてゆく必要がありますが、なかなかそこには届かずに来ました。

文化創造都市という考え方が、日本でも広く知られるようになりました。文化や芸術が、その拠点としてのミュージアム（博物館や美術館）が、都市の再生や活性化のために大きな役割を果たす事例が欧米で報告されるようになり、そこからの刺激で日本においても模索が始まったのです。たとえば、金沢などは分厚い文化の伝統のうえに、近年は金沢21世紀美術館を中心とした文化芸術の活性化において注目されています。なにしろ、この現代アートの美術館は、日本でもっとも多くの入館者を集めるミュージアムとして知られているのです。東京竹橋から、国立の工芸館が移されることになり、さらに金沢は文化創造都市として名を馳せてゆくはずです。

福島県立博物館はいま、地域とのさまざまな連携のなかで、ひそかに文化創造都市の拠点としての姿を手探りし始めています。幸いなことに、低迷してきた入館者数が今年度は、久し振りに十万人台を回復しました。変化の兆しがようやく見えてきたのかもしれませんが。文化と観光とを繋ぐ拠点施設としての役割を求めて、地道な努力を重ねてきた成果が表われている、というささやかな自負はあります。

県博はこれからも、地域に開かれた文化芸術の拠点へと生まれ変わるために、果敢に試行錯誤を重ねていきます。地域の現実に根差し、地域の皆さまとともに議論を重ねながら、日々の活動を進めていきます。文化こそが地域社会を支え育む大切な糧であることを信じて。

福島県立博物館長 赤坂 憲雄

トピックス

冬の企画展「山水憧憬 一雪舟・蕪村・応挙 水墨の山野に遊ぶ」を開催

平成30年1月13日、福島県立博物館は5年ぶりに、冬季に企画展を開催しました。

本展覧会は、独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館平成29年度収藏品貸与促進事業として、東京国立博物館の特別協力により、同館から福島への文化的な復興支援として開催されました。

本展覧会では、雪舟等楊筆 国宝「秋冬山水図」を含む東京国立博物館の所蔵する「山水」をテーマとする水墨画と工芸品の名品18件23点を紹介しました。大型のB4版で図録を作成し、作品の全体像の写真に部分的なクローズアップ写真を添えて、作品細部の繊細な表現を伝える工夫をしました。

雪国のためか、冬季は観覧者の足が遠のき、観覧者数が減少することが多いのですが、水墨画と館外の雪景色を重ねた広報戦略が功を奏し、冬季に開催した企画展ではありましたが、好評を得ることができました。



観覧者でにぎわう展示室（内覧会）



解説に聞き入る観覧者（内覧会）

目 次

年報発刊に寄せて

福島県立博物館の使命

I 事業の概要	12
1. 資料収集事業	12
(1) 収集展示委員会	12
(2) 受贈・受託	12
(3) 購入	13
2. 保存管理事業	13
(1) 資料の収蔵	13
(2) 登録・整理	15
(3) 貸出	16
(4) 保存	17
3. 展示事業	18
(1) 常設展示	18
(2) 企画展示	20
(3) 特集展	25
(4) 移動展	28
(5) 指定文化財の公開	30
(6) 展示解説	30
(7) 体験学習室	31
(8) リニューアルの検討	32
4. 調査研究事業	33
(1) 展示資料調査研究	33
(2) その他の調査研究事業	34
(3) 職員の研究活動	35
5. 教育普及事業	39
(1) 講座・講演会	39
(2) 学校・文化施設との連携	46
(3) 生涯学習・研究支援	52
(4) 博物館友の会活動への支援	53
6. 広報公聴活動および出版事業	55
(1) 広報活動	55
(2) 公聴活動	58
(3) 出版事業	58
7. 東日本大震災からの復興支援	59
(1) 文化財・自然資料レスキュー	59
(2) ふくしま応援ミュージアムイベント	61
8. 次世代ミュージアム機能	64
(1) はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト	64
(2) ふくしま震災遺産保全プロジェクト	66
9. 連携事業	68
(1) 磐梯山ジオパーク推進事業	68
(2) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム	69
(3) 福島芸術計画 × Art Support Tohoku - Tokyo	71
(4) ふくしま歴史資料保存ネットワーク	72

II	管理運営	73
	1. 組織・職員	73
	2. 予算	74
	3. 委員会の開催	75
	(1) 運営協議会	75
III	利用状況	76
	1. 入館者統計	76
	(1) 平成29年度入館者統計	76
	(2) 入館者の推移	77
	(3) 企画展入館者統計	79
	2. 出版物販売	82
IV	法規	84
	福島県立博物館条例	84
	福島県立博物館運営協議会条例	85
	福島県立博物館条例施行規則	85
	福島県立博物館組織規則	89
	福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	90
	福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	90
	福島県立博物館資料所在調査要領	91
	福島県立博物館資料調査員設置要綱	91
	福島県立博物館友の会規約	91
V	施設の概要	93
	1. 建築概要	93
	2. 設備	93
	3. 平面図・各室一覧	94
	4. 施設の修理・改築	96
	5. 沿革	96
VI	利用案内	98

福島県立博物館の使命

平成19年7月公表 平成25年4月改正 平成26年6月改正 平成28年3月改正

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動を行ってきました。そして、平成19年には、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめ、その内容を公表しました。そこには、歴史・自然に関する資料の収集・保存・調査研究・活用という博物館の基本的な使命を核として、それらを実践するための活動指針が明示されていますが、平成23年3月に発生した東日本大震災以降、従来の博物館活動に加え、新たな視点に立った活動が不可欠になったと考えられることから、ここに改めて博物館の「使命」をとりまとめました。ついては、当館の社会に対する責務を明確にするとともに、皆さんに博物館活動について理解を深めていただくため、その内容を公表します。

目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

現在、特に浜通り地域では、平成23年3月に発生した東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故により、これまで地域社会のなかで培われてきた紐帯が崩壊し、未来に継承すべき地域の文化財や伝統文化の保全が困難な情勢となっています。このような危機的状況のなか、福島県立博物館では、地域社会の再生と活性化に向けた取り組みとして、従来から行ってきた博物館活動を継続するとともに、被災地域の関係機関や地域の人々と連携して、震災の資料化と地域内に残された文化財等の調査研究、救出・収集活動および文化的交流活動を行います。そしてそれらの成果をさまざまな形で発信していきます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

1. ふくしま発見 博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創りだす手助けをします。

2. 出合いふれあい 博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しなく、気軽に入れて人と人が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

3. あなたも主役 博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

4. ふくしまを元気に 博物館

東日本大震災によって危機的な状況に陥っている地域の文化・自然遺産を保存し、調査研究するとともに、それらを活用して、地域社会の再生と活性化に向けた新たな取り組みを行います。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その

成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

4. 楽しめて出会いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

7. 地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

【運営機能】

9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

11. 危機管理

災害の発生に備え、避難・誘導経路や手順を確認するための訓練を毎年実施します。また、博物館資料の保全のため、展示室および収蔵庫の環境を適切に保ちます。

【震災からの復興支援】

12. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努めます。

13. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図ります。

14. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図ります。

【次世代ミュージアム機能】

従来の博物館活動の枠組みを超えた機能の充実を目指して新設した活動の指針です。

15. 「震災遺産」の保全による震災の共有と継承

震災が産みだしたモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と呼び、これらの保全と資料化を通じて、東日本大震災で福島県に起きた多様な出来事を歴史として共有し継承してゆくことを目指します。

16. 新たな文化事業の創出と定着

博物館が蓄積してきた情報・手法・ネットワークなどを基盤に、県内各地域における文化事業の創出を支援し、地域への定着を目指します。

福島県立博物館 第2期中期目標

目標年度：平成30年度

福島県立博物館では、使命に沿った「活動の指針」に基づき、それぞれに「重点目標」を掲げ、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な活動計画（中期目標）を定め、毎年度ごとに実績の評価を行ってきました。この中期目標は平成25年度に最終年度を迎えたため、これまでの実績を精査し、それに基づいて重点目標の見直しを行いました。そして、それを踏まえ、震災からの復興支援と博物館リニューアルの具体化を重要な課題として、新たに平成26年度から30年度までの5年間で達成するための第2期中期目標を策定しました。年間の利用者数については、従来どおり概ね9万人を目指し努力します。

平成29年度はこの計画に沿って事業を実施し、年度終了時に「評価指標」に基づいて実績を評価し、年報やホームページなどで公表します。評価の低かった項目についてはその原因を分析し、事業内容や実施方法を改善し、次年度には設定した指標を達成できるように努めます。利用者のみなさんには引き続き中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

また平成27年度には、東日本大震災後の館活動をめぐる変化に伴い、新たに始まった震災遺産や文化連携に関するプロジェクトを「活動の指針」の中に位置づけました。さらに、従来の利用者数以外に、職員が館外に出て行ったアウトリーチ事業やプロジェクト等の事業への参加者についても「館外事業利用者数」として把握し、当館の社会的な貢献度をはかる指標の試みとして公表することになりました。

中期目標

	第1期		第2期				説明
	平成25年度 (実績)	平成26年度 (実績)	平成27年度 (実績)	平成28年度 (実績)	平成29年度 (実績)	平成30年度 (目標)	
①館内事業利用者数	109,838	63,739	67,490	61,073	71,463	90,000	常設展・企画展・移動展など展示への入場者、講座・講演会など行事への参加者 ※平成26年度以前は「利用者数」としてカウント
累計利用者数	4,325,720	4,389,459	4,456,949	4,518,022	4,589,485		昭和61年の開館以後の累計
②館外事業利用者数1	—	—	1,765	2,109	2,346		職員の講師派遣・ゲストティーチャーなどアウトリーチ事業への参加者 ※平成27年度から新規
③館外事業利用者数2	—	—	9,881	23,124	19,593		当館が構成団体になっている組織（実行委員会・協議会など）が主催し、当館職員が主体的に関わった行事などへの参加者 ※平成27年度から新規
②③合計	—	—	11,646	25,233	21,939		※平成27年度から新規
①②③合計	—	—	79,136	86,306	93,402		上記①②③を合計したもの ※平成27年度から新規

利用者の内訳 ※（ ）内の数字は実施回数

		28年度	29年度		
①館内事業利用者数	常設展	43,727	42,028	()	
	企画展	2,955	(1)	16,513	(4)
	無料入館者	14,391		12,922	()
	①合計	61,073		71,463	()
②館外事業利用者数1	学校派遣（ゲストティーチャー）	568	(7)	757	(17)
	館長出前講座	61	(1)	0	(0)
	講師派遣	1,480	(28)	1,589	(25)
	②合計	2,109	(36)	2,346	(42)

利用者の内訳 ※ () 内の数字は実施回数

		28年度	29年度	
③館外事業利用者数2	ふくしま震災遺産保全プロジェクト	17,916(37)	0(0)	28年度で実行委員会が終了したため、29年度は①②として集計
	はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト	4,989(43)	19,549(34)	別表3参照 県内外4ヶ所(郡山、福島、別府、京都)で開催した展覧会・トークイベント等への来場者数
	磐梯山ジオパーク	134(4)	44(2)	別表4参照 地質の日ジオツアー・ガイド研修など参加者数
	ふくしまサイエンスぷらっとフォーラム	85(1)	0(0)	29年度は、サイエンス屋台村を当館を会場に開催したため、①として集計
	③合計	23,124(85)	19,593(36)	
②③合計		25,233(121)	21,939(78)	

別表1 ゲストティーチャー

No.	実施日時	派遣先	受講者数	内 容	対象・科目	担当学芸員
1	6月14日(水) 14:00~14:45	会津若松市立東山小学校	67	会津から世界へ〜見つけよう宝人]	6年・総合的な学習の時間	田中 伸一(歴史)
2	9月13日(水) 10:35~12:10	会津若松市立第二中学校	103	地域に根ざす日本の伝統文化を学ぶ	2年・総合的な学習の時間	小林めぐみ(美術)
3	9月27日(水) 9:50~10:50	福島県立医科大学	15	博物館からみた地域文化「ガイダンス」	1年・芸術と文化	高橋 充(歴史)
4	10月 3日(火) 13:40~14:30	会津坂下町立坂下中学校	36	絵画資料から見る幕末の政治・社会(東北社会科教育協議会公開授業の事前授業)	2年・社会科	川延 安直 小林めぐみ(美術)
5	10月 4日(水) 9:50~10:50	福島県立医科大学	15	博物館からみた地域文化「博物館と美術館①」	1年・芸術と文化	川延 安直(美術)
6	10月10日(火) 13:00~14:40	福島県立南会津高等学校	169	課題探求力養成講座「震災遺産に学ぶ震災の記憶・記録と防災」	全学年・総合的な学習の時間	高橋 満 田中 伸一(震災)
7	10月11日(水) 9:45~10:35	会津坂下町立坂下中学校	36	絵画資料から見る幕末の政治・社会(東北社会科教育協議会公開授業)	2年・社会科	川延 安直 小林めぐみ(美術)
8	10月11日(水) 9:50~10:50	福島県立医科大学	15	博物館からみた地域文化「檜枝岐文書の世界」	1年・芸術と文化	高橋 充(歴史)
9	10月11日(水) 10:00~10:30	慈光第二幼稚園	49	環境教育ー自然に学ぶ「柱状節理」の岩はどうやって出来たの?山はどうやってできたの?		相田 優(自然)
10	10月13日(金) 10:00~10:30	会津慈光こども園	72	環境教育ー自然に学ぶ「柱状節理」の岩はどうやって出来たの?山はどうやってできたの?		相田 優(自然)
11	10月18日(水) 9:50~10:50	福島県立医科大学	15	博物館からみた地域文化「妊娠と出産をめぐる民俗」	1年・芸術と文化	内山 大介(民俗)
12	10月25日(水) 9:50~10:50	福島県立医科大学	15	博物館からみた地域文化「死と葬送をめぐる民俗」	1年・芸術と文化	内山 大介(民俗)
13	11月11日(土) 7:00~19:00	福島県立会津高等学校	39	被災地フィールドワーク会津高校「一歩踏み出す会津高生」事業との連携	1・2年・総合的な学習の時間	田中 伸一 大里 正樹 猪瀬 弘瑛 栗原 祐斗(震災)
14	11月15日(水) 9:50~10:50	福島県立医科大学	15	博物館からみた地域文化「化石の宝庫・福島県①」	1年・芸術と文化	猪瀬 弘瑛(自然)
15	11月22日(水) 9:50~10:50	福島県立医科大学	15	博物館からみた地域文化「化石の宝庫・福島県②」	1年・芸術と文化	猪瀬 弘瑛(自然)
16	12月 6日(水) 9:50~10:50	福島県立医科大学	15	博物館からみた地域文化「伊達政宗からの手紙」	1年・芸術と文化	高橋 充(歴史)
17	12月13日(水) 9:20~11:10	会津若松市立城北小学校	66	昔の道具	3年・社会科	民俗分野(民俗)
平成29年度 受講者総数			757			
平成28年度 受講者総数			568			
受講者総数の増減			189			

別表2 講師派遣

No.	実施日時	派遣先	受講者数	対象	内容	担当
1	5月11日(木) 19:00~21:00	会津坂下青年会議所	12	受講者・講演	会津坂下青年会議所5月例会「地域の魅力を見つめなおそう～身近な地域の伝統的な祭事を学ぶ～」	大里 正樹(民俗)
2	5月25日(木) 9:30~11:00	磐梯町教育委員会	25	受講者・講演	磐梯大学・会津の歴史講座「会津の歴史」	荒木 隆(考古)
3	5月26日(金) 10:00~11:30	会津坂下町教育委員会	30	受講者・講演	坂下学講座「会津三十三観音巡礼歌について」	高橋 充(歴史)
4	6月1日(木) 15:30~16:45	東北労働金庫喜多方支店 ろうきん友の会	50	受講者・講演	ろうきん友の会歴史探訪事業「会津三十三観音」	高橋 充(歴史)
5	6月1日(木) 13:30~15:30	会津若松市教育委員会	40	受講者・講演	まなべこ歴史文化講座「会津盆地と磐梯山、その生い立ちを探る」	竹谷陽二郎(自然)
6	6月9日(金) 13:30~15:00	会津美里町公民館	30	受講者・講演	いさすみ学園学習会「茶の湯の歴史と会津本郷焼」	小林めぐみ(美術)
7	6月10日(土) 13:30~15:00	磐梯町恵日寺資料館	40	受講者・講演	磐梯山恵日寺資料館歴史講座「会津三十三観音と御詠歌」	高橋 充(歴史)
8	6月17日(土) 13:00~17:30	ふくしま歴史資料保存 ネットワーク	111	受講者・講演	シンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝えるー歴史・文化・震災遺産の保全と活用の今ー」「博物館資料としての「震災遺産」～場所・モノ・物語の継承のために～」	内山 大介(震災)
9	6月29日(木) 10:55~12:10	文化庁	27	受講者・講演	文化庁指定文化財企画・展示セミナー	高橋 満(震災)
10	7月5日(水) 10:00~11:30	会津坂下町教育委員会	38	受講者・講演	坂下学講座「会津三十三観音巡礼歌について2」	高橋 充(歴史)
11	7月5日(水) 10:00~12:00	会津美里町教育委員会	50	受講者・講演	歴史講座(会津の御田植祭)「伊佐須美神社御田植祭の歴史と民俗」	内山 大介(民俗)
12	7月9日(日) 14:30~16:30	猪苗代の偉人を考える会	200	受講者・講演	保科家の歴史を知る講演会「保科家の歴史」	阿部 綾子(歴史)
13	7月28日(金) 9:30~11:00	磐梯町教育委員会	25	受講者・講演	磐梯大学・会津の歴史講座「会津の歴史」	荒木 隆(考古)
14	8月13日(日) 10:00~17:00	福島民報社	50	参加者・体験	第2回夏休みキッズワールド「紙漉き体験」	江川トヨ子 大里 正樹 弦巻 優太(民俗)
15	8月23日(水) 10:00~11:30	喜多方市中央公民館	22	受講者・講演	喜多方市中央公民館きたかた中央大学大学院講座「忘れかけた年中行事」	山口 拡(民俗)
16	9月2日(土) 13:00~17:00	人間文化研究機構	89	受講者・講演	シンポジウム「地域歴史資料救出の先へ」「民俗資料の保全をめぐる限界と可能性～福島県における民具の救出を事例に～」	内山 大介(民俗)
17	10月11日(水)	いわき市アンモナイトセンター	80	受講者・講演	化石講演会	猪瀬 弘瑛(自然)
18	10月28日(土) 13:30~15:00	仙台市博物館	200	受講者・講演	特別展「伊達政宗ー生誕450年記念」記念講演会「伊達政宗と奥羽の大名たち」	高橋 充(歴史)
19	11月14日(火) 9:30~11:30	会津美里町公民館	25	受講者・講演	美里大学「資料で読む戊辰戦争」	高橋 充(歴史)
20	12月2日(土) 13:00~17:50	科学研究費基盤研究(S) 「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」	50	受講者・講演	シンポジウム「被災地フォーラム新潟」[福島県における震災・原発被災と博物館活動～文化財の救出から「震災遺産」の保全へ～]	内山 大介(震災)
21	1月28日(日) 13:30~15:00	須賀川市	148	受講者・講演	須賀川市歴史文化基本構想特定事業講演会「石背国建国1300年と国指定史跡上人壇廃寺跡整備事業」	荒木 隆(考古)
22	2月10日(土) 13:30~16:30	横浜開港資料館・横浜市歴史博物館	80	受講者・講演	シンポジウム「銭湯と横浜」[銭湯で働く人々～浴場業者のライフヒストリー～]	山口 拡(民俗)
23	2月17日(土) 13:30~15:00	喜多方市教育委員会	127	受講者・講演	喜多方市史セミナー「会津三十三観音と御詠歌」	高橋 充(歴史)

別表2 講師派遣

No.	実施日時	派遣先	受講者数	対象	内容	担当
24	2月18日(日) 10:00~12:30	NPO法人wunderground	9	参加者・体験	地域を結ぶアートプロジェクト 「ミクロの化石からアートへ」	竹谷陽二郎(自然)
25	3月4日(日) 10:00~12:00	NPO法人wunderground	31	参加者・体験	地域を結ぶアートプロジェクト 「ミクロの化石からアートへ」	竹谷陽二郎(自然)
		平成29年度 受講者総数	1,589			
		平成28年度 受講者総数	1,480			
		受講者総数の増減	109			

別表3 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2017来場者数一覧

No.	開催月日	プロジェクトNo.	プロジェクト名	イベント形態	イベント名	会場	来場数 *概数を含む
1	8月4日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	アートで伝える考える 福島の今、未来展 in KYOTO 「記憶の共有 心の共感」 プレトークイベント第1部：福島に寄り添った証言者たち	ちおん舎	35
2	8月5日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	アートで伝える考える 福島の今、未来展 in KYOTO 「記憶の共有 心の共感」 プレトークイベント第2部：痛みの記憶を伝えるために	KYOTO-BA 京都場	23
3	9月9日	1	福島交流・発信プログラム	ギャラリートーク	芸術文化で伝える考える 福島の今、未来 in KORIYAMA ギャラリートーク	郡山女子大学記念講堂 展示ロビー	24
4	9月9日	1	福島交流・発信プログラム	トーク+公演	芸術文化で伝える考える 福島の今、未来 in KORIYAMA トークイベント+標葉せんだん太鼓公演「文化でつなぐふるさと」	郡山女子大学記念講堂 小ホール	48
5	9月17日	1	福島交流・発信プログラム	トーク+ワークショップ	芸術文化で伝える考える 福島の今、未来 in KORIYAMA トーク+ワークショップ「福島祝いの膳 土地の恵み、人の知恵」	郡山女子大学調理室	19
6	9月17日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	芸術文化で伝える考える 福島の今、未来 in KORIYAMA トークイベント「福島祝いの膳 土地の恵み、人の知恵」	郡山女子大学講堂展示ロビー	44
7	9月18日	1	福島交流・発信プログラム	トーク+ライブ	芸術文化で伝える考える 福島の今、未来 in KORIYAMA トークイベント+ライブ「被災地のあなたへー今、郡山で話す福島」	安積歴史博物館ギャラリー	23
8	9月6日 ~18日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	芸術文化で伝える考える 福島の今、未来 in KORIYAMA	郡山女子大学記念講堂 展示ロビー	1,159
9	9月13日 ~29日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	芸術文化で伝える考える 福島の今、未来 in KORIYAMA	安積歴史博物館ギャラリー	233
10	10月5日	1	福島交流・発信プログラム	シンポジウム	シンポジウム「厄災の記憶 その表象可能性」	いわき芸術文化交流館 アリオス中劇場	54
11	10月12日 ~29日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	アートで伝える考える 福島の今、未来 in FUKUSHIMA×FUREアーカイブ事業成果展 第1期	福島大学附属図書館1階 資料展示エリア	1,370
12	11月2日	1	福島交流・発信プログラム	ギャラリートーク	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU ギャラリートーク①	末広温泉公民館	21
13	11月2日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU オープニングトークイベント「旅と別府とアーティスト」	末広温泉公民館	21

別表3 はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト 2017来場者数一覧

No.	開催月日	プロジェクトNo.	プロジェクト名	イベント形態	イベント名	会場	来場数 *概数を含む
14	11月3日	1	福島交流・発信プログラム	ギャラリートーク	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU ギャラリートーク②	platform05	5
15	11月3日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU オープニングトークイベント「伝えるためのアート」	喫茶ムムム	15
16	11月19日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU クロージングトークイベント「公民館とアート」	末広温泉公民館	13
17	11月3日～19日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU	platform05	137
18	11月3日～19日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU	末広温泉公民館	102
19	11月3日～19日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU	別府市公会堂	1,580
20	11月3日～19日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU	清島アパート	90
21	11月3日～19日	1	福島交流・発信プログラム	ワークショップ	アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU ワークショップ「くじびきドロッキング」	BEPPU PROJECT 事務局 清島アパート 南部児童館	—
22	11月15日～28日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	アートで伝える考える 福島の今、未来 in FUKUSHIMA×FUREアーカイブ事業成果展 第2期	福島大学附属図書館1階 資料展示エリア	814
23	12月1日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	語りがたきものに触れて オープニングトークイベント「波の記憶、暮らしの記憶」	GALLERY ARTISLONG	19
24	12月2日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	語りがたきものに触れて トークイベント「悼みと共感の文化」	MEDIA SHOP ギャラリー	15
25	12月2日～17日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト成果展 語りがたきものに触れて	賀茂御祖神社	12,253
26	12月2日～17日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト成果展 語りがたきものに触れて	有斐斎 弘道館	308
27	12月2日～17日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト成果展 語りがたきものに触れて	GALLERY ARTISLONG	149
28	12月3日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	語りがたきものに触れて トークイベント「作り手から伝え手へ」	MEDIA SHOP ギャラリー	19
29	12月4日～17日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト成果展 語りがたきものに触れて	ART OFFICE OZASA/ ozasakyoto	155
30	12月9日～21日	1	福島交流・発信プログラム	展覧会	アートで伝える考える 福島の今、未来 in FUKUSHIMA×FUREアーカイブ事業成果展 第3期	福島大学附属図書館1階 資料展示エリア	604
31	12月10日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	語りがたきものに触れて 京都: Re-Search×福島: はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト 「地域“に”向き合う、地域“と”向き合う～アーティスト・イン・レジデンスから、未来に向けた対話～」 第一部はま・なか・あいつ文化連携プロジェクトトーク「福島に向き合う・福島を伝える」	京都文化博物館	70

別表3 はま・なか・あいつ文化連携プロジェクト 2017来場者数一覧

No.	開催月日	プロジェクトNo.	プロジェクト名	イベント形態	イベント名	会場	来場数 *概数を 含む
32	12月16日	1	福島交流・発信プログラム	トーク+上映会	語りがたきものに触れて トークイベント+上映会「祀る・ 鎮めるー黒塚から」	賀茂御祖神社 公文所	50
33	12月17日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	語りがたきものに触れて トークイベント「地域を内包する 文化都市ー京都で考える福島・東 北・日本」	有斐斎 弘道館	30
34	12月17日	1	福島交流・発信プログラム	トークイベント	語りがたきものに触れて トークイベント「祀る・鎮めるー 向き合う文化」	有斐斎 弘道館	47
合計人数							19,549

別表4 磐梯山ジオパーク事業

③館外事業利用者数2	行事	実施日	会場	当館担当職員	参加者
磐梯山ジオパーク事業	地質の日 ジオツアー	平成29年 5月 9日(火)	猪苗代水環境センター・ 猪苗代町各地	竹谷陽二郎(自然)	34
	ガイド研修「猪苗代の 成り立ち」講演・解説	平成29年11月14日(火)	猪苗代水環境センター・ 猪苗代町各地	竹谷陽二郎(自然)	10
計					44

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	29年度評価指標	29年度実績	達成度
専	1. 地域の文化遺産の収集と継承	①博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進	収集方針に沿って系統的に資料を収集し、受け入れた資料の整理・登録を行う。	5年間で収蔵資料5,000件の整理登録達成	中期目標の5,000件の登録は既に達成したが、各分野の整理計画に基づき引き続き実施。5分野合計で1,000件の整理・登録。	考古96件、民俗221件、歴史427件、美術1件、自然279件、合計1,024件の資料登録を実施した。	◎
		②二次資料の整理とデータベース化の促進	司書を継続雇用し、学芸員の研究に資するため、新規収蔵図書、整理・登録を進める。また、5年後までに既存図書の未修正データの修正を完成する。さらに、増加する図書の収蔵スペースを確保するための計画を立てる。	5年後までに既存図書の未修正データ4,394件の修正完了。	既存図書のデータ900件の修正を行う。	既存図書のデータ903件の修正を行った。	◎
		③博物館資料に関する情報の公開	平成25年度において資料管理システムの更新が完了したため、収蔵資料情報の確認と修正が済んだデータから順次インターネットで公開する。	5年間で25,000件のデータをインターネットで公開する。	5分野合計で5,000件のデータをインターネットで追加公開する。	考古769件、民俗1,008件、歴史2,284件、美術0件、自然1,215件、合計5,276件の資料データを追加公開した。	◎
		④資料の安全な保存	収蔵資料数の増加に伴い収蔵スペースの確保が課題となってきたため、収蔵庫内の再整理を行うとともに、関係機関と協議して、新たな収蔵場所確保に努める。	資料の新たな収蔵場所を確保する。	効率的な資料受入と保管のため、未燻蒸資料の燻蒸計画を作成し、年1回以上の燻蒸を実施する。収蔵庫内の整理を計画的に進め、特に震災遺産の収納場所を検討する。第2収蔵庫の増設について検討を進めるとともに、予算要求の準備を行う。	燻蒸処理の進捗を把握するため、要燻蒸資料の月次集計を実施した。7月にトラック燻蒸を1回実施し、115件燻蒸した。さらに2月・3月に各1回、持ち出し燻蒸を行い、72件処理し、処理合計は187件である。平成29年度末の未燻蒸資料は、前年度末の177件に年度内増加分527件を加えた計704件に対し187件の燻蒸を実施した結果、517件となった。燻蒸の時間が限られることと、必要に応じた燻蒸スケジュールが計画できないことから、多く燻蒸待ち資料が発生している。資料の収蔵については、震災遺産の収納場所の確保及び第2収蔵庫および第3収蔵庫の増設について検討して予算要求を行ったが、認められなかった。	△
		⑤新たな視点に立ったIPM（総合的有害生物管理）の導入	資料の生物被害を防止するために使用する化学物質の排出量を最小限に抑える方策を具体化する。	IPM活動の観点から、収蔵庫の定期清掃など、環境整備を行う体制を確立する。	実行的な清掃計画を確立する。	清掃の効果を把握するため、文化財害虫の生息密度に基づく行動指針を検討した。	○
機	2. 最新の研究による資料価値の発見	①連携した研究活動の推進	研究活動の充実を図るため、大学や文化施設、民間の研究団体等との共同研究を進める。また、それらの研究成果をさまざまな場で公開する。	共同研究の継続実施と研究成果の公開	引き続き、さまざまな機関との共同研究を実施し、その成果を館内外で公開する。	筑波大学・国立歴史民俗博物館・明治大学・南相馬市博物館との共同研究に参画し、シンポジウムでの研究発表や海外視察成果発表を館内外で実施した。	◎
		②多様な外部資金の確保	調査研究事業などの博物館事業を円滑に推進するため、引き続き財源確保に努める一方、外部助成資金の導入など新たな財源の確保を図る。	調査研究事業などの博物館活動を円滑に推進するために、新たな資金確保のシステムを構築する。	それぞれの研究分野に応じた研究助成について情報を収集し、2件以上の研究助成等を獲得する。	研究助成の獲得はできなかった。	×
能	3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	①リニューアルの推進	次世代博物館のあるべき姿を検討するため、新設館や先進的な取り組みをしている他館の状況を現地調査する。そして、その結果などを踏まえ、後半期にはリニューアルに関わる検討委員会を設置し、基本構想および基本計画の策定に着手する。	博物館リニューアル基本計画の策定	基本構想の原案を作成し、館内での協議・検討を行う。前年度にできなかった検討委員会設置の準備をはじめめる。	基本構想の原案を作成し、館内での協議を進めた。外部有識者による検討委員会の設置について次年度予算要求をしたが認められなかった。	△
		②誰にでもわかりやすい常設展の展開	学校で学ぶ子供たちがより利用しやすくなるように、展示室内の表示の工夫や解説の改善を展示室ごとに順次実施してゆく。さらに、外国語による解説の充実に向けて検討を進める。	すべての展示室において、学校団体向けの表示や解説の改善を完了させる。	新たな学校団体向けプログラムを実施する。外国語パンフレット作成のための予算化を図るとともに、展示室の外国語解説の手法について検討する。	学校団体からの受入について、学習効果が高まるオーダーメイドの学習プログラムを44校に提案し、実施した。外国語パンフレットを含めて館内での多言語表示の手法について検討し、インバウンド対策事業の中で予算要求したが、認められなかった。	○
		③魅力あふれる企画展・特集展の開催	福島の復興や再生に寄与するテーマ・内容を優先し、時間をかけて準備するオリジナル企画と、タイムリーな企画などをバランスよく組み合わせ、企画展・特集展を計画的に実施する。	バラエティーに富んだ企画展・特集展を計画的に実施する。	オリジナル企画による企画展や特集展を最低1回実施。	オリジナル企画による企画展4回（「自然をうつす」「ふくしま5億年の自然史」「発掘ふくしま4」「山水憧憬」）と特集展2本（「震災遺産を考える」「はまなか・あいつ文化連携プロジェクト成果展」）を実施した。	◎
		④来館者とのコミュニケーションを大切にした展示解説の推進	来館者と職員が直接に触れ合い、コミュニケーションを図ることを重視した展示解説を今後心がける。	きめ細かな展示解説のシステムを維持するため、展示解説員の人員を確保する。	対話型解説システム「けんぱくハイライトツアー」を、土・日・祝日を中心に毎月6回実施する。	「けんぱくハイライトツアー」を、83回実施した（月平均7回）。各解説員が独自のコースを確立しており、解説員ごと特徴ある解説を行った。	◎
		⑤継続性のある講座の開催	講座の体系化とストーリー性をもたせたシリーズ化を引き続き進め、利用者の継続参加を促進する。また、企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。	生涯学習に効果的な魅力ある講座・講演会を継続開催する。	引き続き、魅力的な講座・講演会を企画する。回数は100回程度とし、参加者数は一昨年度並みの7,000人を目標とする。	講座等の開催回数は157回、参加者は10,111人であった。うち企画展・特集展関連事業は34回を実施した。また、館外活動として、学校派遣（ゲストティーチャー）17件、講師派遣25件を行い、参加者は2,346人であった。	◎

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	29年度評価指標	29年度実績	達成度
交流	4. 楽しめて出会いのある空間の創出	①利用者の快適性と利便性の促進	ミュージアムショップを友の会を活用して設置することは困難な状況のため、その運営のあり方をリニューアルに向けた計画案を策定するなかで検討する。	ミュージアムショップの設置を目指す。	ミュージアムグッズの開発と販売の試行を行う。	オリジナルグッズの内容を検討したが、グッズの開発・販売の試行まではできなかった。	×
		②体験型学習機会の促進	新たな体験学習メニューを開発し、学校団体の選択肢を増やすとともに、内容を充実させる。学校との連携強化を図るため、ワークショップなどの体験型学習を効果的に取り入れたイベントを企画する。	学校との連携を強化し、利活用を容易にする。	ワークショップなどの体験学習を取り入れたイベントに取り組む。	中学校の美術部との連携をはかり、企画展の解説を受けた後、博物館内で製作活動を実施する新たな体験学習メニューを開発した。また、体験学習室を利用した、家族で楽しめる体験的メニューとして、ミニミニ博物館を2回開催した。	◎
機能	5. 博物館事業への住民参加	①各種団体との連携促進	NPOなど地域の文化団体や各種学会などからの展示会や講演会の開催依頼には、博物館活動の趣旨に沿うことを条件に積極的に対応する。また、共同企画を立ち上げるなど、事業の連携を進める。	共催事業などの受け入れを行う。	外部団体からの要請に対して、引き続き積極的に対応する。友の会の事業を積極的に受け入れる。	県内各種学会や市民団体の要請を請け、共催事業10回、後援事業12回を行った。また、友の会事業としては映画会、コンサート、研修旅行などを実施した。共催・後援・友の会事業への参加者数の合計は2703人であった。	◎
		②ボランティアの受入	資料整理を中心としたボランティアの受け入れを推進するとともに、今後のボランティアのあり方について検討する。	自然資料整理ボランティア(通年)、古文書整理ボランティア(月1回)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援	自然資料整理(通年)・古文書整理(月1回程度)・民俗資料整理(月2回程度)を中心としたボランティアの受け入れと活動支援。	ボランティアは、自然分野では資料整理(1人×5日)、企画展展示作業補助(1人×12日、1人×3日)を受け入れ、作業への協力を得た。古文書整理は毎月1回、民俗資料整理は毎月2回、定期的に作業を行った。	◎
機能	6. 博物館情報の発信と公開	①効果的な広報の展開	外部の各種メディアおよび学校や社会教育施設への情報提供を継続する。また、ホームページによる広報も継続するとともに、新しい広報媒体も活用する。	ホームページによる広報の強化を図るとともに、新しい広報媒体を活用する。	館フェースブック、県ツイッターをさらに活用し、HPのリニューアルを検討。新たな広報媒体による展開を検討。企画展・特集展・催し物担当者との事前打合せにより、アピールポイントを把握し、試行する。	博物館フェースブックについては、およそ週一回のペースで更新し、博物館の日常的活動も含め広く発信した。ツイッターについては、県社会教育課程由で、催し物情報を中心に週一回程度発信した。展示班、企画展担当と企画展準備会議を開催した。冬の企画展「山水憧憬」では折り込みチラシ配布を実施した。	◎
		②地域ネットワークの拠点	調査研究・展示・学習支援・広報活動などの場をとおして、県内の社会教育・生涯学習施設などとの連携をさらに促進させて事業を展開する。	県内市町村関係機関との連携事業を計画的に実施する。	引き続き、県内の学校教育・社会教育・生涯学習担当者を対象とした研修会などの連携事業を実施する。移動展実施に努める。	県教育センターや会津教育事務所、耶麻地区小中学校校長会や会津若松市内中学校校長会などにおいて、新たな学習プログラムについての説明会を実施した。また、教育委員会を通して「博物館を活用した学校教育プログラム研修会」を8月に実施した。移動展「東北の仕事着コレクション」(6月3日～7月2日)をいわき市暮らしの伝承郷で実施した。	◎
運営	8. 新しい観光ニーズへの対応	①観光集客力の回復	東日本大震災以降低迷が続いている学校団体による学習旅行件数を回復させるため、また、新たな地域からの集客数増加を目指すため、県内関係機関や観光事業団体とも連携して、効果的な広報のあり方を検討する。	学習旅行などの観光集客力の回復と新たな地域からの集客数の増加を目指す。	観光ポータルサイト等への掲載、会津地域のイベントに柔軟に対応した広報展開を検討する。学校団体の動向を分析し、対応の改善について検討する。	観光ポータルサイト「ぐるっと会津」への情報提供を行った。平成30年4月からスタンプラリーを市内10ヶ所で開催することとした。学校向けニュースメールによる情報発信の調査検討に着手し、会津若松市内小中学校33校を対象に試行を始めた。	◎
		②利用者ニーズの把握と対応	運営・設備・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートや統計調査を実施し、結果を分析することで、博物館活動における課題や利用者のニーズを把握する。その結果は広報活動や各種事業の企画立案に反映させる。	各種アンケートの結果を分析して、博物館活動の課題および利用者ニーズを的確に把握する。そして、それらに対する具体的な対応状況をホームページで公表する。利用者満足度80%以上達成の維持。	アンケートや日報に書かれた利用者の声に対しては、可能な範囲ですみやかに対応・検討する。集計や分析、公表の方法について再検討する。	アンケートや日報に書かれた意見には、可能な範囲で対応・検討した。アンケートの集計・分析の結果は、館内会議で随時報告した。アンケート回答者に缶バッジを配布したところ多くの回答が得られたが、迅速な集計や分析が課題となった。	○
機能	9. 使命の明示と事業の点検	①使命・目標の策定	使命に基づき、平成30年度を目標年度とした中期目標を作成する。目標はその達成度などから評価・点検を毎年行い、それをもとに事業計画の修正を行うとともに、評価・点検の結果を年報やホームページで公表する。	第2期中期目標に基づいた評価・点検の実施と5年間の総括	平成28年度の達成状況を年報・ホームページで公表する。	平成28年度の達成状況を年報・ホームページで公表した。	◎
		②利用者ニーズの把握と対応	運営・設備・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートや統計調査を実施し、結果を分析することで、博物館活動における課題や利用者のニーズを把握する。その結果は広報活動や各種事業の企画立案に反映させる。	各種アンケートの結果を分析して、博物館活動の課題および利用者ニーズを的確に把握する。そして、それらに対する具体的な対応状況をホームページで公表する。利用者満足度80%以上達成の維持。	アンケートや日報に書かれた利用者の声に対しては、可能な範囲ですみやかに対応・検討する。集計や分析、公表の方法について再検討する。	アンケートや日報に書かれた意見には、可能な範囲で対応・検討した。アンケートの集計・分析の結果は、館内会議で随時報告した。アンケート回答者に缶バッジを配布したところ多くの回答が得られたが、迅速な集計や分析が課題となった。	○
機能	10. 人材の育成と機能的な組織	①学芸員の専門性の重視	各種学会や研修会に積極的に参加し、新しい博物館活動を進めていく上で学芸員に求められる多様な能力の向上に努める。	各種学会や研修会に参加し、その成果を学芸員全体で共有するとともに、博物館業務へも効果的に反映させる。	各種学会や研修会への参加(5回以上)と報告会など館員への情報提供を行う。	学会・シンポジウム等への出席11回、研修会・講習会等への参加5回。情報共有が可能なテーマ・内容については学芸員会議等で報告を行った。	◎
		②施設の安全管理	建築物および設備の劣化状況を、建築基準法第12条に基づき定期的に点検する。	保守管理の徹底による施設の安全性確保に努める。	再度館内の施設や設備を点検しながら、より精度の高い長期保全計画を作成する。	長期保全計画に基づいて、法規制・劣化の状態・緊急性等を勘案し、次年度予算要求を行った。くんじょう庫新設・積層棚設置は認められなかったが、空調・送配風機の修繕が予算化された。	○
機能	11. 危機管理	①来館者の安全確保	火災や地震に備えて避難手順や救命措置を確認するため、各種訓練を実施する。	防災訓練およびAED研修の年1回実施	より現実的な訓練内容に更に改善しながら、関係機関との連絡体制も具体的にを行うなど、実際の災害を想定した訓練になるようにする。	AED研修と自衛震災訓練を6月20日に実施した。地震対応訓練、地震によって発生した火災の避難・誘導・消火器による消火等の訓練を実施した。	◎
		②施設の安全管理	建築物および設備の劣化状況を、建築基準法第12条に基づき定期的に点検する。	保守管理の徹底による施設の安全性確保に努める。	再度館内の施設や設備を点検しながら、より精度の高い長期保全計画を作成する。	長期保全計画に基づいて、法規制・劣化の状態・緊急性等を勘案し、次年度予算要求を行った。くんじょう庫新設・積層棚設置は認められなかったが、空調・送配風機の修繕が予算化された。	○

達成度の記入方法 ○：達成 ○：ほぼ達成 △：一部達成 ×：達成できず

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	30年度目標	29年度評価指標	29年度実績	達成度
震災からの復興支援	12. ふくしまの宝の発掘と保全	①被災文化財等の救出と保全	県や市町村の関係機関、文化施設、大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、当該地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・研究し、その価値を明らかにすることに努める。	博物館活動の一環として、被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料の保全を図るとともに、それらに関する調査研究の成果を報告書としてまとめる。	被災文化財等に対する活動の継続とともに、今後の災害に備えたしくみづくりについて検討し、報告書作成の準備を行う。	福島県被災文化財等救援本部に参画し、被災文化財等の対応に当たった。対応のべ日数6日、人数8人。今後の災害に備えたしくみづくりについてチーム内で検討した。報告書については、次年度の救援本部作成予定の報告書に協力する。	○
	13. ふくしまの宝の公開と活用	①救出文化財等に関する情報公開	救出および新たに収集した文化財等やそれらに関する研究成果を、さまざまな形で発信する。関係機関からの協力を得ながら、被災地域から救出された資料を中心に、常設展などで公開する。	被災地域から救出・収集された文化財や自然史資料を常設展資料の重要な核と位置づけ、新たな展示手法を駆使して公開する。	被災地域から救出・収集された文化財・自然資料等を展示公開する機会をできるだけ多く設ける。併せて文化財レスキューの活動も紹介する。	夏の企画展「ふくしま5億年の自然史」・秋の企画展「発掘ふくしま4」、テーマ展「ふるさとの考古資料7【榎葉町歴史資料館】移動展」、テーマ展「託されたおもい 寄贈・寄託の名品たち」の中で、救出・収集された文化財・自然資料を展示公開した。これまでの文化財レスキューの活動を紹介するため、館内でのパネル展示や、館外での事例報告を行った。	◎
	14. ふくしまの再生と活性化	①文化資源を活用した各種事業の開催および支援	県や市町村の関係機関、各種文化団体等と連携し、地域の復興と再生、活性化に向けたさまざまな文化事業を実施するとともに、各種団体が企画する文化事業への支援も行う。特に被災地域の歴史・文化活動への支援を充実させる。	館内外において、地域の復興と再生、活性化に向けた各種支援事業を実施する。	各種団体からの要請に対してはハードルを低くして対応する。引き続き避難者を誘客する講座等を開催する。	復興応援パートナー事業として、会津短期大学・大熊町教育委員会などによるパネル展「ちいさな黄色い手紙プロジェクト—福島・愛知・ウクライナをつなぐ—」をエントランスホールで行った。また、震災後の漁業者の生活を描いたドキュメンタリー映画「新地町の漁師たち」の上映会を行うとともに、監督を招待してトークライブを行った。同時に、高校生を対象に、ドキュメンタリーの撮り方を学ぶワークショップを開催した。	○
次世代ミュージアム機能	15. 「震災遺産」の保全による震災の共有と継承	①震災遺産の保全と活用のための基盤整備	東日本大震災で生じた震災遺産を歴史資料及び博物館資料と位置付けるため、総合博物館の特色を活かした横断的な組織「震災遺産」分野を構築し、調査・保全および普及事業を実施する。	核となる職員を配置した「震災遺産」分野を確立し組織的な事業展開を実施する。	核となる職員の配置と「震災遺産」分野確立に向けて、他機関との連携・資料収集保全・調査研究・展示・普及事業などの各事業を既存の博物館活動に位置づけるとともに、その試行を進める。	組織の確立に向け30年4月採用予定の災害史を担当する学芸員募集を行った。連携としてはふくしま史料ネット等のシンポジウムや科研費調査へ参画した他、県アーカイブ施設関係部局や大熊町などの市町村とも連携を進めた。特集展では既存の博物館資料と震災遺産とを融合した展示の試行を実現した。	○
	16. 新たな文化事業の創出と定着	①県内各地域における文化事業の創出支援、運営の協働	博物館が蓄積してきた情報、手法、ネットワークを基盤に、「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」等を効果的に活用し、県内各地域で新たな文化事業を創出・定着させる。	創出した事業を地域に定着させ、実施団体や事務局によって安定的に運営されるようにする。	成果展等各事業の実施を通して実行委員会の企画・運営力を向上し、次年度以降の各地域での事業創出に取り組む。	実行委員会の企画・運営協力を得ながら県内外4か所（郡山、福島、別府、京都）での成果展を実施した。実行委員会による運営体制の強化により、各会場とも充実した成果を残すことができた。事業の一部については、実行委員会構成団体による実施を協議、各地域での新たな事業案を検討した。	◎

●平成29年度総評

本年度は、目標達成を平成30年度に設定した第2期中期目標の4年目に当たる。

- 利用者数については、①館内事業利用者数は昨年より約1万人増加したが、当初の目標である9万人には至らなかった。前年度より企画展の開催数が多く、小中高校生の企画展観覧を無料としたため、企画展の入館者数が大幅に増えて、利用者数全体の増加の要因になった。②③館外事業利用者数については、前年度より約3千人減少。内訳をみると、ゲストティーチャー・講師派遣等がいずれも微増。実行委員会主催の事業は、「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」が終了したものの、「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト」が各地で成果展等を開催して多くの参加者があった。①②③館内・館外の利用者数を合計すると、前年度より約7千人ほど増えて、9万人を超える数字となった
- 「専門機能」では、2-②「多様な外部資金の確保」が、学芸員が研究助成に応募したが獲得はできなかったため、「×（達成できず）」となった。1-④「資料の安全な保存」と3-①「リニューアルの推進」が「△（一部達成）」にとどまった。達成できなかったのは、おもに特別な予算措置を伴う部分であり、それ以外の内容については可能な限り進めた結果である。資料の燻蒸や安全な収納など博物館の基本的な機能が十分に果たせなくなっている点は、当館が抱える深刻な問題である。
- 「交流機能」では、4-①「利用者の快適性と利便性の促進」が「×」。ミュージアムショップは、前年度から続く課題で、改善の方向が見いだせなかった。7-①「市町村の関係機関との連携促進」、8-①「観光集客力の回復」については改善がみられた。
- 「運営機能」「震災からの復興支援」「次世代ミュージアム機能」の各項目は、いずれも達成度が高かった。
- 次年度が第2期中期目標の最終年度になるが、「30年度目標」の達成に向けて事業内容が改善されたり、より充実してきた項目が増えている。一方で、さまざまな条件等によって、目標達成が困難な見通しになっている項目もある。このような達成状況にも留意しながら、次年度には第2期中期目標の総括を進めながら、第3期目標の設定作業を行いたい。

I 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

福島県立博物館収集展示委員会 委員名簿

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授・東京藝術大学客員教授	委員長
野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石 雅之	岩手県立博物館研究協力員、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田 清一	東北福祉大学大学院嘱託教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
原田 一敏	東京藝術大学大学美術館教授	委員
三上 喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田 俊雄	東北大学名誉教授、東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
玉川 一郎	福島県考古学会会長	委員
北野 博司	東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授	委員

イ. 会議

平成29年8月3日(木)

議題

- ① 今後3年間の展示計画について
- ② 平成29年度冬 及び30・31年度開催予定企画展について
- ③ 平成28・29年度購入・寄贈資料について
- ④ その他

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受贈

米軍ビラほか	21件	個人
渋谷源蔵旧蔵資料	6件	個人
商家教誡秘録	1件	個人
土津神社告文（鳥羽伏見開戦一同奮戦につき）ほか	7件	個人

(イ) 受託

藤原尚古筆 会津藩白虎殉難図ほか	54件	個人
------------------	-----	----

松平容保肖像ほか	3件	個人
松平容保書状（原田対馬宛）ほか	2件	個人
石井家文書ほか	7件	個人
会津藩弾薬箱	1件	個人
松平容保肖像 説明板	1件	個人
会津藩蝨漆制度秘書	1件	個人

イ. 美術資料

(ア) 受贈

金地松喰鶴漆絵屠蘇器七ツ揃	1件	個人
一分銀ほか	4件	個人
盆踊り漆絵盃 附黒漆板ほか	12件	個人
遠藤香村他書画寄書	1件	個人
遠藤香村筆「十六橋図」ほか	2件	個人
朱塗高砂図沈金三ツ組盃	1件	個人
藤蒔絵平棗ほか	4件	個人
遠藤香村筆「山水図屏風」ほか	17件	個人

(イ) 受託

佐竹永海筆「太公望図」ほか	3件	個人
開発好明制作写真・造形作品「新世界ピクニック(福島篇)」	1件	個人
小平瀧天神御本殿七分の一之建図ほか	10件	個人
聖徳大神鐘 天人像 拓本ほか	5件	個人
稲穂小判図ほか	37件	個人
竹内澤与「朝陽図」	1件	個人

ウ. 民俗資料

(ア) 受贈

掛け時計ほか	14件	個人
図面類ほか	17件	個人
木製スキー板ほか	2件	個人
前掛け(森永牛乳)	1件	個人
家相図	1件	個人
手漉き和紙一式ほか	2件	個人
真空管ラジオ(叡山号四号)ほか	2件	個人
万石	1件	個人
蓑ほか	27件	個人
手回し式計算機	1件	個人
鋸ほか	7件	個人
鋸ほか	20件	個人
必要上曲線自由定規	1件	個人
諸織物覚帳ほか	2件	個人
写真(アルバム等)ほか	4件	個人
電気掃除機	1件	個人

(イ) 受託

旧修験高橋家所蔵修験資料（県指定重要有形民俗文化財含む） 2件 個人

エ. 考古資料

(イ) 受託

荒屋敷遺跡出土品 18件
三島町教育委員会教育長

オ. 自然資料

(ア) 受贈

浅貝層産玄能石 1件 個人

(イ) 受託

南相馬地域産化石標本 36件 個人

カ. 震災遺産

(ア) 受贈

避難所対応関係文書 7件
公益財団法人福島県都市公園・緑化協会
理事長
久之浜商店街案内板 1件
西武企画株式会社 代表取締役
久之浜ふるさとの記憶模型 1件
いわき市立久之浜第一小学校長
久之浜街並み模型（小型） 1件
久之浜大久地区まちづくりサポートチーム

(3) 購入

ア. 民俗資料

民俗文化映像研究所 映像民俗学
シリーズ DVD「日本の姿」 1件

イ. 美術資料

竹内澤與筆「朝陽図」 1件

ウ. 自然資料

放散虫アクリル樹脂立体模型 2件
ペルム紀魚類化石（レプリカ）ほか 8件

エ. 図書資料

(ア) 一般図書

考古分野28冊、民俗分野33冊、美術分野15冊、自然分野29冊、保存分野10冊、共通2冊
計122冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト (平成30年3月31日現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	民具研究	民俗
4	ナショナルジオグラフィック	共通
5	第四紀研究	自然
6	ヒストリア	歴史
7	考古学雑誌	考古
8	日本民俗学	民俗
9	信濃	共通
10	ミュゼ	共通
11	史林	共通
12	史学雑誌	歴史
13	歴史評論	歴史
14	地方史研究	歴史
15	日本史研究	歴史
16	日本歴史	歴史
17	歴史学研究	歴史
18	美術手帳	美術
19	芸術新潮	美術
20	国華	美術
21	古代文化	考古
22	文化財発掘出土情報	考古
23	考古学ジャーナル	考古
24	季刊考古学	考古
25	日経サイエンス	自然
26	科学	自然
27	化学	保存科学
28	海洋	自然
29	地球	自然
30	月刊文化財	共通
31	たくさんのふしぎ	共通
32	ニュートン	共通

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収蔵資料数

(平成30年3月31日現在)

分野	件数	備考
考古	20,419	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,509	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	22,242	書籍・文書資料ほか
美術	6,566	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	42,183	化石・岩石・鉱物ほか
震災遺産	39	被災遺物、文書資料、写真ほか
合計	104,958	

平成29年度収蔵指定文化財一覧

(平成30年3月31日現在)

連番	指定者	指定種別	資料種類	指定番号	資料名	点数	単位	備考
1	国	重要文化財	絵画	1903	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	国	重要文化財	絵画	6	紙本着色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	国	重要文化財	工芸品	2065	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	国	重要文化財	工芸品	2187	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	国	重要文化財	工芸品	981	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	国	重要文化財	工芸品	2055	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託
7	国	重要文化財	考古資料	352	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	福島県	重要文化財	絵画	7	絹本着色仏涅槃図・如意輪観音像・愛染明王像	3	幅	寄託
9	福島県	重要文化財	絵画	10	絹本着色松平築翁像	1	幅	館蔵
10	福島県	重要文化財	絵画	25	絹本着色達磨図	1	幅	寄託
11	福島県	重要文化財	絵画	26	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
12	福島県	重要文化財	絵画	9	絹本着色十六善神像	1	幅	寄託
13	福島県	重要文化財	絵画	3	紙本着色千葉妙見寺縁起	2	巻	寄託
14	福島県	重要文化財	絵画	13	絹本着色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
15	福島県	重要文化財	絵画	27	絹本着色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
16	福島県	重要文化財	絵画	28	絹本着色普賢菩薩像	1	幅	寄託
17	福島県	重要文化財	絵画	2	紙本着色両界種子曼荼羅	2	幅	寄託
18	福島県	重要文化財	絵画	6	絹本着色土津神社霊神画像	1	幅	指定9幅中の1幅寄託
19	福島県	重要文化財	彫刻	4	木造大日如来坐像	1	軀	寄託
20	福島県	重要文化財	彫刻	29	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
21	福島県	重要文化財	彫刻	81	銅造聖観音菩薩立像(羽黒山湯上神社)	1	軀	寄託
22	福島県	重要文化財	彫刻	23	銅造聖観音菩薩立像(福聚寺)	1	軀	寄託
23	福島県	重要文化財	工芸品	58	銅鉢	1	口	寄託
24	福島県	重要文化財	工芸品	55	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
25	福島県	重要文化財	工芸品	18	鉄製釣燈籠	1	箇	寄託
26	福島県	重要文化財	工芸品	40	十一面観音版木	1	枚	寄託
27	福島県	重要文化財	工芸品	42	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
28	福島県	重要文化財	工芸品	53	大名家婚礼調度等	47	件	寄託
29	福島県	重要文化財	書跡	8	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
30	福島県	重要文化財	書跡	10	相馬家系図	1	巻	寄託
31	福島県	重要文化財	典籍	3	家世実紀	277	冊	館蔵
32	福島県	重要文化財	古文書	10	築田家文書	一括		寄託
33	福島県	重要文化財	考古資料	35	流麿寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
34	福島県	重要文化財	考古資料	1	福島信夫山出土品	一括		館蔵
35	福島県	重要文化財	考古資料	14	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
36	福島県	重要文化財	考古資料	21	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
37	福島県	重要文化財	考古資料	28	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
38	福島県	重要文化財	考古資料	2	田村山古墳出土品	一括		寄託
39	福島県	重要文化財	考古資料	46	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
40	福島県	重要文化財	考古資料	23	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託
41	福島県	重要文化財	考古資料	20	五職神經塚出土銅製経筒 附 石製外容器 3口	3	口	寄託
42	福島県	重要文化財	考古資料	33	森北1号墳出土品	一括		寄託
43	福島県	重要文化財	考古資料	40	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
44	福島県	重要文化財	歴史資料	4	絹本着色恵日寺絵図	1	幅	寄託
45	福島県	重要文化財	歴史資料	5	陸奥国会津城絵図	1	鋪	館蔵
46	福島県	重要文化財	歴史資料	15	絹本着色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
47	福島県	重要有形民俗文化財	民俗資料	16	上行合人形	368	点	寄託
48	福島県	重要有形民俗文化財	民俗資料	3	(宇内薬師堂)古絵馬	3	面	指定6面中の3面寄託
49	福島県	重要有形民俗文化財	民俗資料	31	旧修験高橋家所蔵修験資料	241	点	寄託
50	福島県	天然記念物	化石	63	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数 (平成30年3月31日現在)

考古分野：26,963冊 民俗分野：4,884冊
 歴史分野：10,581冊 美術分野：4,361冊
 自然分野：17,209冊 保存分野：1,758冊
 その他：56,610冊 合計：122,366冊

(イ) 収蔵映像資料数 (平成30年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,373点

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは県教育委員会のFKS回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、それまで使用してきた資料管理システム専用LAN回線はFKS回線に一本化した。

新システムでは多数のデータの一括登録や一括修正が可能となり、また、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となった。

資料管理システム本来の目的である資料の登録および資料情報の外部公開に関しては運用が軌道に乗り、各種登録作業などがほぼ順調に進められるようになった。しかし運用が本格化するにつれ、使用中に発見される書式や登録方法の設定ミス等は引き続き散見され、これらはそのつど修正に努めており、自力で修正出来ないものについては内容を書き出しており、一括して早稲田システムに修正を依頼する必要がある。また、有償の改修が必要な一部項目の再構成については、予算措置を待って改修する予定である。

イ. 資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。また、システムの資料情報外部公開機能を使用し、インターネット上で公開する所蔵資料情報を新たに追加した。本年度は収蔵資料の登録数および資料情報の外部公開数ともに中期目標の評価指標を達成した。ただし各分野により達成度にばらつきが見られる。引き続き資料情報の外部公開において検索機能をより使いやすく改良することが望まれるが、システムがASP方式であるため実施可能な修正に制限があり、相当の工夫と時間が必要となる。

登録資料数・資料情報の外部公開数

(平成30年3月31日現在)

資料類別	登録資料 (平成29年度)	登録資料 (累計)	資料情報の外部公開 (平成29年度)	資料情報の外部公開 (累計)
考古資料類	96	12,130	769	3,532
民俗資料類	221	14,251	1,008	3,405
歴史資料類	427	41,468	2,284	8,520
美術工芸品類	1	6,229	0	23
自然標本類	279	24,969	1,215	10,398
合計	1,024	99,047	5,276	25,878

ウ. ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

(ア) 自然資料整理

桑原 功 企画展「ふくしま5億年の自然史」展示作業補助 12日、化石標本整理 5日
 星総一郎 企画展「ふくしま5億年の自然史」展示作業補助 3日

(イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち9名が延べ54日参加し、斎藤美恵子家文書・本田徳壽家文書・本田信英家文書の整理作

業(表題・年代・法量などのデータ採取)を行った。終了したのは460点。参加者は五十嵐晴日子、大堀義子、小関栄助、小檜山裕二、佐藤敏子、佐野喜惣次、鈴木清二、馬場純、星弘明の諸氏。

(3) 貸出

ア. 博物館資料

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
蒲生記 2冊 蒲生氏郷画像(当館受託資料) 1幅	仙台市博物館	平成29年 9月～12月	特別展「伊達政宗―生誕450年記念」
原山1号墳出土埴輪のうち 冠を付けた男子像 1点 琴を弾く男子像 1点 女子像 1点 円筒埴輪 1点 円筒埴輪 1点	福島県文化財センター白河館	平成29年 9月 5日～ 12月15日	企画展「はにわ行進曲」
三貫地貝塚出土品のうち 縄文土器深鉢 2点 縄文土器台付鉢 1点 縄文土器浅鉢 1点 縄文土器注口土器 1点 骨角器ヤス 4点	宮畑遺跡史跡公園 じょーもびあ宮畑	平成29年 7月13日～ 11月30日	企画展「上岡遺跡発掘物語」
浦上玉堂「山林読書図」1幅 浦上玉堂「野橋可立図」1幅 浦上玉堂「青山弾琴図」1幅	足利市立美術館	平成29年10月27日～ 平成30年 1月10日	企画展「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」
蒲生羅漢「虚空蔵菩薩像・十一面観音像」2幅 浦上玉堂「布袋山水図」3幅	白河集古苑	平成29年8月～11月	特別企画展「文晁門人蒲生羅漢―白河のまちを飾った絵師―」
棚倉町流廃寺跡出土品のうち 13号平場 土師器杯 1点 13号平場 土師器高台付杯 1点 13号平場 鉄剣 1点	大田原市なす風土記の丘湯津上資料館	平成29年 8月29日～ 12月28日	特別展「那須の人々の心とほとけ」
正直9号墳出土石製模造品「斧」2点	新潟市文化財センター	平成29年 9月19日～ 12月27日	企画展「古墳時代のお祭り」
木造建築継ぎ手一式	福島県森林保全課	平成29年 9月24日～25日	平成29年度「福島県もりの案内人養成講座」
富岡町関連震災遺産(当館保管) 4点	大安場史跡公園	平成29年10月19日～ 12月17日	企画展「遺跡と災害」
久之浜張り子 熊乗り金太郎 1点 久之浜張り子 馬 1点 久之浜張り子 お多福面 1点	いわき市暮らしの伝承郷	平成29年11月29日～ 平成30年 3月25日	企画展「久之浜張子の世界展」
桐蒔絵鼓 1点 紫檀能尽蒔絵煙草盆 1点 松平容保書「和致芳」1点 京都戦争之図 1点 松平容保書状 文久4年2月18日付 1点	桑名市博物館	平成29年 8月～12月	特別企画展「幕末維新と桑名藩」
近習人別帳(当館受託資料) 1冊 外様人別帳(当館受託資料) 1冊 告文(中将様京都守護職正四位下被仰付二付報告状)(当館受託資料) 1通 告文(守護職中御役知五万石被下金三万両拝借二付報告状)(当館受託資料) 1通	若松城天守閣郷土博物館	平成29年 9月 1日～ 11月30日	秋季企画展「戌辰前夜」
家訓 1幅 藤蒔絵提重 松平容保所用 1具 夕顔蒔絵 松平容保所用 1挺	茨城県立歴史館	平成29年 9月27日～ 12月12日	特別展I「志士のかたち―桜田門、天狗党、そして新選組」
野口英世千円冊3番券 1点 日本の古代の貨幣 12点 日本の中世の渡来銭 21点 日本の近世の渡来銭 49点 日本の近世の藩札 9点	いわき市勿来関文学歴史館	平成29年12月15日～ 平成30年 2月	企画展「銭の話」
浦上玉堂「山林読書図」1幅 浦上玉堂「野橋可立図」1幅 浦上玉堂「青山弾琴図」1幅	沖縄県立博物館・美術館	平成30年 1月11日～ 平成30年 6月24日	「涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展」

貸出資料一覧

資料名	貸出先	貸出期間	展覧会名
会津戦争記聞 3枚続 会津軍記 3枚続 家訓 1幅 会津藩弾薬箱(以下、当館受託資料) 1箱 斗南移転海行人別 1冊 戸南移転際行衛不知人別 1冊 戸南移転陸行人別 1冊 斗南藩記録 1冊 斗南藩家族移転ニ付ケ条書 1冊 会津藩戦死人別 1冊 会津藩士人別帳 1冊	高知県立高知城歴史博物館	平成30年 2月～ 平成30年 6月	特別企画展「明治元年の日本と土佐～戊辰戦争それぞれの信義～」
追鳥狩図 1点 会津藩士人別帳 1冊	若松城天守閣郷土博物館	平成30年 3月 1日～ 平成30年12月31日	企画展
十二天図(恵日寺旧蔵)旧軸木2本(修復銘有) ①延宝三年銘 ②文政九年銘	磐梯町磐梯山恵日寺資料館	平成30年 3月28日～ 平成30年12月 4日	常設展
阿弥陀二十五菩薩来迎図 1幅	埼玉県立歴史と民俗の博物館	平成31年 2月20日～ 平成31年 5月20日	特別展「東国の地獄極楽」

イ. 写真資料

総数：143件261点

考古：13件 29点 民俗：14件41点

歴史：83件143点 美術：26件36点

自然：7件 12点

化学物質(環境モニター、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度)及び湿度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため、6月18日～7月15日、12月3日～1月8日の2回にわたり実施した。

(4) 保存

収蔵資料を適切に保存するため、収蔵庫および展示室など主要箇所の保存環境の定期調査、新規収蔵資料の生物被害防除を実施している。

ア. 保存管理

(ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、

(イ) 生物被害防除

7月、2月、3月に各1回、新収蔵資料などを対象に燻蒸処理を実施した。燻蒸処理件数は、合計187件であった。平成29年度は7月にトラックの荷台内部にビニールシートを貼り付けて、仮設の被覆とした。2月、3月は、専門業者の設備へ搬入して燻蒸処理を実施した。

12月、新規に受託した民俗資料を文化財用のシート(エスカル)にパックして、文化財害虫発生の監視を始めた。

3. 展示事業

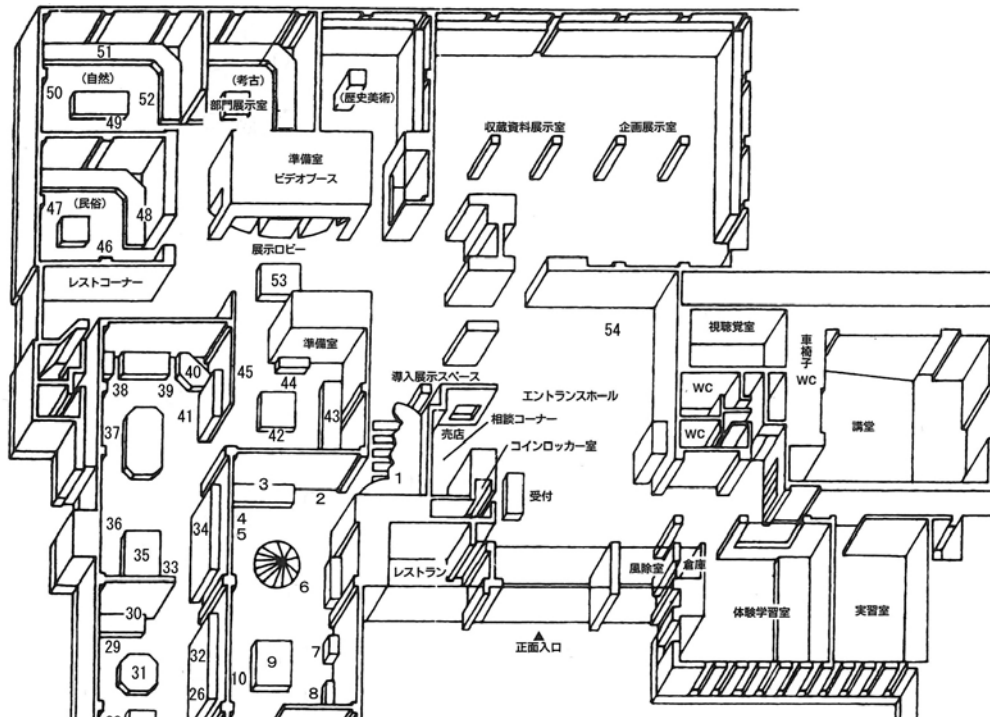
(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間

の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。平成21年度から、常設展示室内においてテーマ展・ポイント展を実施している。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



【総合展示室】

- 1 清戸迫横穴墓壁画
- 原始
- 2 福島最古の人間
- 3 氷河時代の生活
- 4 最終氷期後半の環境
- 5 環境の変化と生業
- 6 縄文のムラ
- 7 縄文人
- 8 信仰と墓地
- 9 稲作の開始
- 10 再葬の墓
- 古代
- 11 会津大塚山古墳
- 12 原山1号墳の主
- 13 群集する古墳
- 14 ムラの暮らし
- 15 陸奥国の成立
- 16 公民の生活
- 17 在地の仏教
- 中世
- 18 阿津賀志山の合戦
- 19 神仏習合の世界
- 20 好嶋庄の村むら
- 21 南党と北党
- 22 国人一揆
- 23 戦国の群雄

- 近世
- 24 奥羽仕置と諸藩の成立
- 25 学問と文化
- 26 庶民の信仰
- 27 会津農書の世界
- 28 町のにぎわい
- 29 山国の神と人
- 30 産業の発達
- 31 海のなりわい
- 32 ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- 33 戊辰戦争
- 34 自由民権運動
- 35 福島県の成立
- 36 安積開拓事業
- 37 庶民の生活
- 38 日本の花形産業
- 39 15年戦争下の生活
- 40 戦後の生活
- 41 変わりゆく社会
- 自然と人間
- 42 福島の盆地と平野
- 43 福島の鉱山
- 44 福島の火山と湖
- 45 福島の河川

【部門展示室】

- ◆民俗（ふくしまの子供の世界）
- 46 七歳まではカミのうち
- 47 遊びをせんとや生まれけむ
- 48 小さき者の声
- ◆自然（県土の形成）
- 49 基盤形成の時代
- 50 海の時代
- 51 山脈形成の時代
- 52 段丘形成の時代
- ◆考古（ふるさとの考古資料）
- ◆歴史・美術（福島の美術）
- ロビー・エントランスホール
- 53 白水阿弥陀堂模型
- 54 二本松提灯祭竹田町太鼓台

イ. テーマ展

常設展示室内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。平成29年度が9年目である。全7回実施。うち「檜枝岐村文書の世界」は公益財団法人福島県文化振興財団との連携事業として実施した。

- ①「ふるさとの考古資料6【飯舘村】遺跡探訪展」
(部門：考古展示室)

前年度～5月14日(日)

- ②「心の四季 美術工芸に見る春・夏・秋・冬」
(部門：歴史・美術展示室)

4月22日(土)～6月4日(日)

- ③「託されたおもい 寄贈・寄託の名品たち」
(部門：歴史・美術展示室)

6月10日(土)～7月17日(月・祝)

- ④「ふるさとの考古資料7【檜葉町歴史資料館】移動展」
(部門：考古展示室)

7月1日(土)～平成30年5月20日(日)

- ⑤「祈りのふくしま～収蔵仏教美術展～」
(部門：歴史・美術展示室)

8月5日(土)～9月18日(月・祝)

- ⑥「檜枝岐村文書の世界」
(部門：歴史・美術展示室)

9月23日(土・祝)～12月10日(日)

- ⑦「けんぱくの宝2017」
(部門：歴史・美術展示室)

12月23日(土)～平成30年2月18日(日)



ふるさとの考古資料7【檜葉町歴史資料館】移動展



けんぱくの宝2017

ウ. ポイント展

常設展示室内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。平成29年度が9年目である。全14回実施。

- ①「収蔵史料にみる戦国の群雄」
(総合：中世展示室)

4月15日(土)～7月16日(日)

- ②「端午の節供と五月飾り」(部門：民俗展示室)
4月21日(金)～6月21日(水)

- ③「いろんなダルマ集まれ！」(部門：民俗展示室)
6月23日(金)～8月30日(水)

- ④「ふくしまの戦争資料」(総合：近現代展示室)
7月15日(土)～8月21日(月・祝)

- ⑤「会津石譜」(総合：近世展示室)
7月15日(土)～9月18日(月・祝)

- ⑥「お日市のお札～会津・夏の風物詩～」
(部門：民俗展示室)

9月1日(金)～11月22日(水)

- ⑦「戊辰戦争回顧の足跡」(総合：近現代展示室)
9月2日(土)～10月1日(日)

- ⑧「斎藤一の肖像写真」(展示ロビー)
9月16日(土)～9月24日(日)

- ⑨「近代学校の誕生」(総合：近現代展示室)
10月21日(土)～11月24日(金)

- ⑩「東山水力発電所－自然を技術で利用する－
若松に電灯がともった！」(エントランス)
会期：10月28日(土)～12月3日(日)

- ⑪「会津農書の世界」(総合：近世展示室)
11月1日(水)～平成30年3月31日(土)

- ⑫「火をつかう昔の道具」(部門：民俗展示室)
11月24日(金)～平成30年2月28日(水)

- ⑬「鉱山の鉱物」(展示ロビー)
平成30年1月27日(土)～3月4日(日)

- ⑭「安産・成長へのねがい～会津のカサボコ」
(部門：民俗展示室)

平成30年3月1日(木)～3月28日(水)



火をつかう昔の道具



東山水力発電所—自然を技術で利用する—
若松に電灯がともった！



ふくしまの戦争資料

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。平成29年度は、4本の企画展示を開催した。福島県立博物館は季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。春は、会津をテーマにした展示をとおして会津の魅力を再発見できるような内容。夏は、学校の夏休みの時期に、子どもたちが興味を持ち、家族や親子で楽しめる内容。秋は、福島をテーマにした展示をとおして県民が広く文化や歴史に親しむ機会を提供する内容。

ア. 春の企画展「寄贈記念 自然をうつす 漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性」

(ア) 会 期

平成29年4月29日(土・祝)～6月4日(日)
開館日数：33日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 2,439人

(エ) 担当学芸員 美術分野：小林めぐみ

(オ) 趣 旨

福島県文化功労賞受賞者で会津を代表する漆芸家・関谷浩二。福島県川俣町出身で、会津若松市の蒔絵師・関谷彦蔵に学び、後にその養子となり、養父の没後は日本を代表する漆芸家・六角大壤、田口善国の門下となった。

日々、自然に向き合い、対象の質感、気配までうつし取ろうとするかのように丹念に行われた写生と秀逸な技が融合した関谷浩二の漆の新たな表現。

本展は、近年、本人よりご寄贈いただいた漆芸作品約40点の当館での初公開と代表作の展示により、関谷浩二の漆表現への挑戦の軌跡を紹介した。会津伝統の漆の技、日本を代表する技術、それらを基盤とした漆表現の数々。会津が生んだ珠玉の作品たちをご覧ください。ただく機会とした。

(カ) 展示構成

関谷浩二の漆芸作品67点、写生帖、図案等。主な展示作品「湿原蒔絵飾箱」(個人蔵)、「霧氷蒔絵飾箱」(当館蔵)、「出穂の頃蒔絵飾箱」(当館蔵)、「ごぜんたちばな割貝蒔絵飾箱」(当館蔵)、「穂波蒔絵盤」(当館蔵)など。

(キ) 関連事業

アーティストトーク「漆との出会い、自然との出会い」

講師：関谷浩二氏(漆芸家)

日時：4月29日(土)13時30分～14時30分

会場：企画展示室、申込不要（一般・大学生は要企画展チケット）

ワークショップ「自然を描く・漆で描く 第1部写生編」全2回

講師：古川弓子氏（アーティスト）、古川裕司氏（野鳥研究家）

日時：5月6日（土）13時30分～16時30分、
5月7日（日）9時30分～12時30分

会場：実習室、定員：15名（要申込・先着順）、
参加費：無料

ワークショップ「自然を描く・漆で描く 第2部蒔絵編」全3回

講師：八木由紀子氏（蒔絵師）

日時：5月14日（日）、5月21日（日）、5月28日（日）3日間とも13時30分～16時30分

会場：実習室、定員：15名（要申込・先着順）、
参加費：1,000円

（ク）成果と課題

会津を拠点に活躍した漆芸家・関谷浩二の作品とその制作の背景となる思想を伝える展示は、作家の制作姿勢を通して、あらためて自然との向き合い方を問いかけるものとなった。

あわせて、本展が作家を知るきっかけとなったことへの評価もいただいた。

会期中に行った作家本人による講演会、また作家の制作の一端を体験することを目的として行った2種類のワークショップは、展示を補完し、展示の意図への理解をより深めるものとして高評価を得るとともに、体験への要望や当館への期待を認識する場ともなった。

年度初めの開催のため広報が遅れたことは、今後の課題である。また、会期中、学習支援班との連携により、学校団体向けの鑑賞の仕掛けを行えたことは今後の可能性を探る大きな試行となった。



展示風景 2



アーティストトークの様子



ワークショップ写生編の様子



展示風景 1



ワークショップ蒔絵編の様子

イ. 夏の企画展「ふくしま 5 億年の自然史」

(ア) 会 期

平成29年7月15日(土)～9月18日(月)

開館日数：59日間

(イ) 会 場 福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 6,637人

(エ) 担当学芸員 自然分野：相田優、猪瀬弘瑛

(オ) 趣 旨

この展示は、これまで当館で地学分野を担当してきた学芸員が、博物館設立準備時代より30数年に渡り、県内をくまなく歩き、本県の自然史に関する調査、研究と資料収集を積み重ねてきた成果の集大成であった。これまでに当館で収集した豊富な自然史資料に基づき、ふくしまのたどってきた自然史の位置づけを具体的に紹介した。

(カ) 展示構成

- (1) 古生代のふくしま
- (2) 中生代のふくしま
- (3) 新生代のふくしま
- (4) 現在のふくしま—地震・火山・津波—
- (5) 化石にさわってみよう

出品点数 松ヶ平変成岩、阿武隈花崗岩類、カルデラ火山岩類、古生代腕足類、三葉虫、ジュラ紀アンモナイトほか軟体動物、白亜紀アンモナイトほか軟体動物、チンタオサウルス全身骨格復元、新生代植物、パレオパラドキシア、ナウマンゾウ全身骨格復元、活断層断面剥ぎ取りなど1,023点

(キ) 関連事業

- ・企画展展示解説会「化石の見方、教えます！」
日時：7月16日(日)、7月23日(日)、8月6日(日)、8月13日(日)、9月17日(日)
(各日) 13時30分～14時30分
場所：企画展示室
講師：当館学芸員
- ・ワークショップ「一ふくしま最古の岩石がもらえる！—アンモナイトの名前を当てよう！」
日時：7月30日(日)、8月20日(日)
(各日) 13時30分～15時
場所：企画展示室
講師：当館学芸員
- ・気象庁福島地方气象台出前講座
演題：「地震と津波について」
日時：8月10日(木) 13時30分～14時30分
場所：講堂
講師：大和田淳氏(福島地方气象台 地震津波防災官)

(ク) 成果と課題

最新の研究成果を基に福島県の大地の成り

立ちを紹介することができた。1,500枚以上回収されたアンケートの集計結果によれば、85%以上の観覧者が本展を「おもしろかった」と評価しており、観覧時間も30分以上の人が50%を越えている。展示内容では「化石にさわってみよう」が特に高い人気を得ており、体験型展示の有効性が示された。一方、「解説文が長く難しい」、「鉱物にさわれなかった」などの改善を求める意見もあったので、今後の展示の参考にしていきたい。



展示風景 1



展示風景 2



展示風景 3

ウ. 秋の企画展「発掘ふくしま4 一土中の声に耳をすませば」

(ア) 会 期

平成29年10月7日(土)～11月26日(日)

開館日数：44日間

(イ) 会 場 福島県立博物館企画展示室

(ウ) 入館者数 3,741人

(エ) 担当学芸員 考古分野：森幸彦

(オ) 趣 旨

「発掘ふくしま」シリーズの第4回目。「発掘ふくしま3」から14年ぶりの開催で、近年10年間の県内発掘調査成果を紹介する展示。旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代・中世、近世以降近代までの70遺跡を扱った。また、古墳時代の特別展示として5年間の再修理を経た会津大塚山古墳出土品全資料を展示し、さらに、近年国史跡に指定された縄文時代の福島市和台遺跡、宮畑遺跡、南相馬市浦尻貝塚、中世の伊達市宮脇遺跡を扱った。

(カ) 展示構成

- I 旧石器時代 ー浜通りの旧石器時代人ー
- II 縄文時代ーふくしまが列島文化の中心だった!?ー
- III 弥生時代 ー墓は語るー
- IV 古墳時代 ー新資料が語るふくしま古墳文化の成り立ちー
- V 奈良・平安時代 ー県内ぐるっと郡家の旅ー
- VI 中世 ー進む中世城館の調査
- VII 近世以降 ー城・城下・産業遺跡
出品点数 大谷上ノ原遺跡出土ナイフ形石器など74遺跡 1,104点

(キ) 関連事業

・記念講演会

○「ふくしまの考古学この10年」

日時：10月7日(土)13時30分～15時

講師：福島県考古学会会長 玉川一郎氏

○「最新 ふくしまの古墳時代研究」

日時：11月3日(金・祝)13時30分～15時

講師：福島大学行政政策学類教授

菊地芳朗氏

○「世界初！核DNA抽出に成功ー三貫地貝塚の人骨は語る」

日時：11月23日(金・祝)13時30分～15時

講師：国立遺伝学研究所教授 斎藤成也氏

・ゲスト解説会

日時：11月18日(土)13時30分～14時30分

講師：中央大学文学部教授 小林謙一氏

・展示解説会

日時：10月7日(土)15時15分～16時15分

10月22日(日)15時15分～16時15分

11月3日(金・祝)15時15分～16時15分

11月12日(日)13時30分～14時30分

11月23日(金・祝)15時15分～16時15分

講師：当館考古担当学芸員

(ク) 成果と課題

世界で初めて縄文人の核DNAが解析された新地町三貫地貝塚出土人骨は興味深く観覧する人が多く縄文人と現代人の関係を改めて認識したようである。弥生時代末から古墳時代初期にかけての湯川村桜町遺跡や喜多方市家西遺跡の資料は、今後の議論の材料として意義ある展示であった。5年の修復期間を経て一同に展示した会津大塚山古墳出土品の人気は高かった。

講演会講師玉川一郎氏の言を借りれば、この10年の考古学的成果を総括すると、大規模開発事業が収束し、各地域の歴史資料として各遺跡の再評価がなされ、地域の財産として主要遺跡の史跡整備などが進められた時期と言える。

アンケートでは、キャプションが総じて小さかった点と距離のある壁面のパネルの文字が小さかった点の指摘が多かった。



講演会 世界初！核DNA抽出に成功ー三貫地貝塚の人骨は語る



展示光景

エ. 冬の企画展「山水憧憬 ―雪舟・蕪村・応挙 水墨の山野に遊ぶ―」

(ア) 会 期

平成30年1月13日(土)～2月18日(日)

開館日数：32日間

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 特別協力 東京国立博物館

(エ) 入館者数 3,696人

(オ) 担当学芸員

美術分野：川延安直、小林めぐみ

(カ) 趣 旨

本展では、東京国立博物館の協力により同館が所蔵する「山水」をテーマとする水墨画の名品から10件、工芸品から8件を紹介。日本美術の主要な画題の一つである「山水」を描いた作品から、日本人の自然への憧憬、畏怖を捉えなおした。

水墨画の大成者とされる雪舟等楊の「秋冬山水図」(国宝)をはじめ、江戸時代の与謝蕪村、円山応挙らの作品を通して水墨画の多様な表現と画家の個性に触れ、平安時代から江戸時代にわたる工芸品の数々から人々の思いを受け止めて表現してきた日本の工芸の技と美の素晴らしさを伝えた。

本展にあわせて、常設展では、当館が収蔵する水墨画・工芸品を紹介するテーマ展「けんぱくの宝」を開催。地域の文化史理解を深める場も同時に設けた。

(キ) 展示構成

雪舟等楊筆「秋冬山水図」(国宝)、与謝蕪村「山野行楽図屏風」(重要文化財)、雪村周継「鷹山水図屏風」(重要美術品)、「山水蒔絵鏡箱」、「楼閣山水蒔絵宝石箱」など18件23点

(ク) 関連事業

講演会「国宝とは何か―文化財保護・博物館・美術工芸品」

日時：平成30年1月13日(土)13時30分～15時

講師：佐藤康宏氏(東京大学教授)

会場：福島県立博物館 企画展示室

(ケ) 成果と課題

独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館平成29年度収藏品貸与促進事業として開催した本展は、東京国立博物館から福島への文化的な復興支援として開催された。

東京国立博物館が収蔵する名品を一堂にご覧いただく機会とすることができた。

来場者からは名品を間近に観覧できたことに高い評価をいただいた。

冬季の開催であったが、水墨画と館外の雪景色を重ねた広報戦略で、冬季開催への好印象を得ることもできた。



展示室の様子1



展示室の様子2



講演会の様子

(3) 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会である。平成29年度は、第2期中期目標で掲げている次世代ミュージアム機能の充実を図る活動として、冬に「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展」および「震災遺産を考える」を同時に開催した。福島県立博物館は、季節毎に年間の展示のコンセプトを設定している。冬は、東日本大震災や復興に関連する内容。

企画展示のように特別の観覧料金を設定せずに、特集展ごとに常設展観覧料で観覧できるか、無料で観覧できるように対応した。

ア. 特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展 アートで伝える考える福島の今、未来 at Fukushima Museum」

(ア) 会 期

第1会場：平成29年2月4日(土)～
4月11日(火)
開館日数：57日間(平成29年度の会期11日間)
第2会場：平成29年2月11日(土・祝)～
4月11日(火)
開館日数：51日間(平成29年度の会期11日間)

(イ) 会 場

第1会場：常設展部門歴史美術展示室
第2会場：企画展示室

(ウ) 観覧者数

1,020人(会期中の累計観覧者数3,616人)

(エ) 担当学芸員

川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子

(オ) 趣 旨

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発

電所事故から5年を迎え、その記憶も薄れつつある。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人々が共有し続けなければならない課題である。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から平成23年以降福島が抱えている課題に向き合ってきた。地域に新たなアートを定着させ、アーティストとともに被災地の記憶をとどめ、未来そのものである子供たちにアートワークショップを通じて触れあってきた。平成23年以降の福島を伝え、ともに考えることを目的に制作されたはま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの5年間の成果をまとめて公開した。

(カ) 展示構成

岡部昌生「被爆樹×被曝し続ける樹、他」
【フロタージュ作品】、片桐功敦「sacrifice」
【写真作品】等、出品点数約100点

イ. 特集展「震災遺産を考える～6本の年輪～」

(ア) 会 期

平成29年2月11日(土・祝)～4月11日(火)
開館日数：51日間
(平成29年度の会期11日間)

(イ) 会 場

エントランスホール・企画展示室

(ウ) 観覧者数

1,020人(会期中の累計観覧者数3,616人)

(エ) 担当学芸員 森幸彦・栗原祐斗

(オ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバショを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年から実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した震災遺産からふくしまが経験した東日本大震災を振り返り、未来のふくしまについて考える機会にしようとして実施したものである。

(カ) 展示構成

1. あの日・あの時から
2. 断絶する「日常」
3. 思いがけない「未来」

※出品点数 火災で溶けた街頭、富岡町災害対策本部のホワイトボード、東京電力女子サッカー部マリーゼのマスコットキャラクター「マリちゃん」の着ぐるみ、飯舘村綿津見神社大杉の輪切り、津波で被災したJR常磐線

の線路など107件

(キ) 関連事業

・展示解説会

会期中に2回実施した。参加者は15名である。

・柏崎市被災者サポートセンター「あまやどり」活動報告パネル展示

エントランスホールにおいて3月5日(日)から4月11日(火)にかけて実施した。

・参加型パネル展示「はじまりのごはん」

3.11オモイデアーカイブ・3がつ11にちをわすれないためにセンター(せんだいメディアテーク)が企画し、エントランスホールにおいて2月16日(木)から4月11日(火)にかけて実施した。この展示は東日本大震災発生翌日の朝ごはんの思い出や震災当時のことを付箋に記し、ブースに貼り付けていく参加型展示である。

ウ. 特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展 アートで伝える考える福島の今、未来 at Fukushima Museum」

(ア) 会 期

平成30年3月3日(土)～4月11日(水)

開館日数：33日間(3月31日時点で24日間)

(イ) 会 場

部門歴史美術展示室・収蔵資料展示室

(ウ) 観覧者数

1,677人(3月31日時点)

(エ) 担当学芸員

川延安直・小林めぐみ・塚本麻衣子

(オ) 趣 旨

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故から7年を迎え、その記憶も薄れつつある。しかし、巨大地震と原子力発電所事故が福島に限らない課題であることはこの国の多くの人が共有し続けなければならない課題である。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトは、文化・芸術の視点から平成23年以降福島が抱えている課題に向き合ってきた。地域に新たなアートを定着させ、アーティストとともに被災地の記憶をとどめ、未来そのものである子供たちにアートワークショップを通じて触れあってきた。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトで生まれた作品は、どれも、平成23年以降の福島を伝え、ともに考えようと語りかけている。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの6年間の成果の一部を展示公開し、芸術文化を通して福島の経験を共有し、共に考える場とした。

(カ) 展示構成

岡部昌生「被曝続ける樹」他【フロッタージュ作品】、安田佐智種「みち≪未知の道≫」「みち≪未知の地≫」【写真作品】、岩根愛「Island in my mind, Futaba」【写真作品】、土田ヒロミ「願う者は叶えられるか」【写真作品】、藤井光「福島・文化・文化財～被災地のミュージアムと文化財のこれから～」【映像作品】。出品点数 約100点。

(キ) 関連事業

ギャラリートーク「アートで伝える考える」

日時：3月3日(土)14時～

会場：企画展示室・部門展示室歴史美術

講師：当館学芸員

グランド・ラウンドテーブル「岡部昌生フロッタージュプロジェクトの6年」

日時：3月4日(日)14時～

会場：福島県立博物館企画展示室

講師：岡部昌生(美術家)×港千尋(著述家)×赤坂憲雄(福島県立博物館長/実行委員会委員長)

進行：川延安直(福島県立博物館専門学芸員/実行委員会事務局)

(ク) 成果と課題

平成23年から6年間に渡って実施してきた事業の成果を公表・共有する場として開催した成果展。平成23年からの福島の復興の様子と変化を伝えることを意図した。3月11日を挟んだ会期の間には、作品という形での東日本大震災と原発事故の記録への協力者も数多く来場し、あらためて将来に伝える残し伝えることの意義を考えることができた。

また、本展にはこれまでの当該事業の県外での協力者も遠方より来場し、本事業を通じて築かれた県外の大学や文化団体とのネットワークが「福島」を共有の場として堅固なものとなっていることを改めて認識させた。

県立の博物館として、震災と大事故をいかに伝え残していくか、共有の議論の場を設けていくかは、今後、当館にとってより重要な役割となっていくと思われる。



展示の様子 1



展示の様子 2



トークイベントの様子

エ. 特集展「震災遺産を考える－災害の歴史と東日本大震災－」

(ア) 会 期

平成30年 3月3日(土)～4月11日(水)

開館日数：33日間(3月31日時点で24日間)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 共 催 大熊町、双葉町、浪江町

(エ) 特別協力

久之浜・大久地区復興対策協議会、いわき市立久之浜第一小学校、久之浜大久地区まちづくりサポートチーム、久之浜町商工会、いわき市

(オ) 観覧者数 1,677人(3月31日時点)

(カ) 担当学芸員

猪瀬弘瑛、大里正樹、栗原祐斗(震災遺産保全チーム)

(キ) 趣 旨

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、東日本大震災を「歴史」と位置づけ、震災が産み出したモノや震災を示すバシヨを「震災遺産」と名付けて、収集・保全、そして公開する取り組みを平成26年度から平成28年度まで実施してきた。本展示では、これまでに収集・保全した「震災遺産」と過去に起こった災害に関する資料を合わせて展示し、震災を地域の歴史としてとらえ直した。

(ク) 展示構成

(第1章) 歴史の中の災害

(第2章) 東日本大震災の“歴史”

※出品点数 69件 津波堆積物断面剥ぎ取り(小高区、広野町)、浪江・大熊・双葉関連資料、浜風商店街関連資料、久之浜地区町並み模型、久之浜地区案内看板、被災街灯(久之浜)、磐梯山噴火図(各種)、書状(御屋敷普請につき)、九州大悪風津波大破損之事、白垂紀津波化石、ワークショップの成果物など

(ケ) 関連事業

・展示解説会

展示解説会は各回にテーマを設け、企画展示室において当館学芸員を講師として実施した。ただし、3月4日の回については大熊町、双葉町、浪江町の担当者、3月15日の回については、久之浜大久地区まちづくりサポートチームの方々にも解説していただいた。

日時「テーマ」:

3月3日(土)13時～13時30分

「歴史の中の災害」

3月4日(日)13時～13時30分

「大熊・双葉・浪江の取組み」

- 3月11日(日)11時～11時30分
「久之浜から見る震災の前と後」
3月15日(木)14時45分～15時15分
「久之浜「ふるさとの記憶」模型について」
3月18日(日)13時30分～14時
「災害からの避難」
3月25日(日)11時～11時30分
「会津の災害」
・ワークショップ「段ボールトイレを作ろう」
日時：3月18日(日)10時～11時30分
場所：企画展示室
講師：宮崎賢哉氏
(一般社団法人 防災教育普及協会)

(コ) 成果と課題

会期中に実施したアンケートには「過去の災害と対比できることなどがよかったです」、「形に残すということがいかに重要か7年たった今ずっと考えています」といったように、展示や取り組みに対して好意的なご意見を頂いた。その一方で、「物も重要だが体験者の言葉が真実を伝えると思う」といったご意見も寄せられた。今後の活動を考える上で参考にしたい。



ワークショップ



大熊町・双葉町・浪江町の展示



いわき市久之浜地区大型町並み模型

(4) 移動展

県立博物館と市町村の博物館・資料館との連携を促進するために、移動展を共催して県立博物館の企画展、収蔵品を展示公開している。

ア. 移動展「東北の仕事着コレクション」

主催：いわき市暮らしの伝承郷／福島県立博物館

(ア) 会 期

平成29年6月3日(土)～7月2日(日)

開館日数：26日間

(イ) 会 場

いわき市暮らしの伝承郷 企画展示室
(いわき市鹿島町下矢田散野14-16)

(ウ) 入館者数 1,095人

(エ) 担当学芸員

大里正樹・山口拓 (以上 当館)、長谷川由美・渡邊彩(以上 いわき市暮らしの伝承郷)

(オ) 趣 旨

日本海と太平洋に面した東北地方は、気候的にもそれぞれ独自の風土を持ち、気候の相違は、伝統的な服装にも表れている。東北地方という寒冷積雪地における労働時の服装、仕事着は東北地方の風土をよく示す資料といえる。

当館には、故・渡部つとむ氏が長年にわたり収集された東北地方の仕事着コレクション1,320点が寄託されており、会津地方はじめ、広く東北地方各地の仕事着が含まれている。

本移動展では、渡部つとむコレクションを中心に東北地方各地の仕事着を展示し、東北地方の風土やその厳しい自然に生きた人々の衣服と暮らしを紹介した。また今回は開催地(いわき市)にちなんだ資料として、漁師の祝い着であるマイワイ(万祝)を展示した。

(カ) 展示構成

- 1、マイワイと漁業の仕事着 ～海の男たちのユニフォーム～
- 2、福島県内の仕事着 ～仕事着が語るメッセージ～
- 3、様々な素材と手仕事の美 ～麻や木綿だけじゃない？多様な素材と、東北の刺し子の美～
- 4、庄内地方の仕事着 ～実用性に裏付けられたデザイン～

(キ) 関連事業

展示解説会

講師：大里正樹（当館学芸員）

日時：6月17日（土）13時30分～14時

会場：いわき市暮らしの伝承郷 企画展示室

(ク) 成果と課題

・出品点数

37点（当館寄託資料「東北地方の仕事着コレクション」（全1,320点）から34点、当館所蔵資料3点）

・主な展示資料

マイワイ（いわき市、宮城県）、ジバン（会津若松市、新潟県）、ヌノモモヒキ（昭和村）、モモヒキ（青森県）、サキオリソデナシ（山形県）、コギンキモノ（青森県津軽地方）、南郷サシコ（南会津町）など

・展示内容

当館寄託資料である「東北地方の仕事着コレクション」（1,320点）を中心に暮らしの中で発達した衣服の民俗を紹介。当館所蔵資料を加え、全37点の資料を展示した。

展示観覧者の反応はおおむね好意的であった。来館者アンケートからは、いわき市内の手仕事サークルの人々が複数訪れていたことが分かった。東北地方各地の古い刺し子の実物を展示したことから、単に歴史への興味関心を持つ人々のみならず、広く手仕事に興味を持つ人々の観覧につながったと考えられる。他方、アンケートでは一部、パネル類の文字の大きさや展示方法について見にくいとのご意見もあった。

なお今回、いわきへの「里帰り」資料として、戦前期に小名浜で作られたマイワイ（万祝＝漁師の祝い着）を展示したところ、船名などから新たに資料の来歴が判明、開催地に密着した情報を得ることができたのは移動展ならではの利点であった。

特別展 福島県立博物館移動展

東北の仕事着コレクション

2017年
6月3日（土）～7月2日（日）



展示解説
6月17日（土）13時30分～14時
解説 大里正樹氏
（福島県立博物館副主任学芸員）

観覧料 一般330円（270円）高・高専・大学生210円（170円）
小・中学生170円（110円）※（ ）内は20名以上の団体割引料金
市内在住の65歳以上、身障者手帳・療育手帳・精神障がい者保健福祉手帳をお持ちの方は観覧無料。市内の計・登・高・専修・高専生は土・日に限り無料。
※受付で身分を証明する手帳等をご提示ください。
開館時間 9時～17時（入館16時30分まで）
休 日 火曜日

主催 福島県立博物館 いわき市暮らしの伝承郷
いわき市暮らしの伝承郷
〒970-8043 福島県いわき市中央台・県立いわき公園内
（いわき市東島町下米田字数野14-16）
TEL 0246-29-2230 FAX 0246-29-2235
URL: <http://www.denshogo.jp> E-mail: info@denshogo.jp

移動展 リーフレット



移動展 展示室入口

(5) 指定文化財の公開

平成29年度の展示で以下の指定文化財の公開を行った（館蔵・寄託品などは除く）。

ア. 国指定

〈国宝〉

(1) 「秋冬山水図」（雪舟等揚筆）二幅 東京国立博物館

〈重文〉

(2) 「山水図」（岳翁蔵丘筆・天隠龍澤賛）一幅 東京国立博物館

(3) 「山野行楽図屏風」（与謝蕪村筆）六曲一双 東京国立博物館

（以上、3件は企画展「山水憧憬—雪舟・蕪村・応挙 水墨の山野に遊ぶ—」で展示公開）

〈重文〉

(4) 磐城榎葉天神原遺跡出土品のうち92点 榎葉町教育委員会（福島県）（テーマ展「ふるさとの考古資料7」で展示公開）

(5) 磐城榎葉天神原遺跡出土品のうち2点 榎葉町教育委員会（福島県）（総合：原始展示室）

イ. 県指定（福島県指定）

(1) 和台遺跡出土人体文土器及び狩猟文土器 2箇 福島市教育委員会

(2) 夏井廃寺跡出土品のうち10点 いわき市教育委員会

(3) 根岸官衙遺跡出土品のうち4点 いわき市教育委員会

（以上、3件は企画展「発掘ふくしま4—土中の声に耳をすませば—」で展示公開）

(4) 関和久官衙遺跡出土品のうち2点 福島県教育委員会（総合：古代展示室）

(5) 森北1号墳出土品のうち4点 会津坂下町教育委員会（総合：古代展示室）

(6) 展示解説

ア. 展示解説員

平成29年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算を確保したが、展示解説員の増員を図ることができなかった。企画展についても、展示予算の中で監視員1名を予算化し、通常の展示解説員1名に監視員1名を交えた体制で展示室の対応をせざるをえない状況であった。

さらに、企画展開催時には企画展示室の入口のモグリに人数を割かれるなどするため、常設展示室内に対応できる人員が不足する状況が恒常的に続いている。これらの状況に対して、学

芸員による解説活動を増やし、定数減の状況を乗り切る対策をとっている。

このような展示解説員の減員により、過去に実施されていた解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員1人で対応しなければならないエリアが広がった関係で十分な解説活動ができない場合が少なくなく、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。きめ細やかな展示解説活動をはじめとしたより質の高い行政サービスを保障するために、展示解説員に対する研修を実施するなど、質的向上に向けた努力を行っているが、展示解説員の人数不足という量的課題については、引き続き検討をしていく必要がある。

展示解説員の業務は、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応をはじめとして展示や館内の業務をよく知っている職員でなければ担当できない内容がほとんどである。現在の減員状況の中でどうにか対応している状況であるが、現在の定数では通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来す可能性が出てくる。

(ア) けんぱくハイライトツアー

展示解説員による常設展の定時解説で、平成28年度に開館30周年記念行事としてそれまで実施していた「やさしい展示解説会」をリニューアルさせたものである。原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日・祝日の午前11時、午後2時の2回開催を基本に実施している。1回の所要時間は約30分。各解説員が独自の解説ルートを開発し、それぞれ展示解説員ごとのテーマで解説会を実施している。今年度の「けんぱくハイライトツアー」は5月3日から3月25日の期間実施した。

〈実施状況〉実施日数：67日

総参加人数：335人

(イ) 通し解説

不定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：11回

(ウ) 部屋送り解説

不定期の常設展・企画展の解説。主として来

館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。
実施回数：19回

(工) 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成29年度も実施されなかった。

ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

また、ゴールデンウィークを中心に時代衣装の試着体験に加え、期間限定で甲冑の試着体験も行うなど、体験的な活動の充実を図っている。

イ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示解説のために職員を配置する場が増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できない状況であるため、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。29年度は年間で475回を数えた。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。

また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

ウ. 展示解説のための資料等

①『今月のおすすめ』

展示室見学の参考とするため、常設展示総合展示室（A～F）の各部屋から月別に1点ずつおすすめ資料を選定し、資料に関するキャッチコピーと簡単な紹介を展示室内の表示と常設展示入り口にデジタルフォトフレームによる表示を行っている。月別に紹介する資料が変わり、見学するポイントが分かることから、常設展示に対する観覧者の興味・関心を高めることに役立っている。

②福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説したものの（28ページ）で、館活動についても紹介している。昭和61年に発行され、一部改訂をしながら観覧補助資料として有償配布している。

③Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

ガイドブックを要約した英文の展示解説パン

フレット（14ページ）で、平成18年に発行され、一部改訂を行いながら観覧補助資料として、希望する来館者に無償配布している。

(7) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。



体験学習室

ア. 衣装

(ア) 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

①衣装着付け件数 499件

②着付けた衣装

春：打掛・番具足 夏：水干・半袴

秋：壺装束・武士旅姿 冬：白拍子・山伏

衣装の着付けはかなり本格的なものであるため、そのため解説員の研修時間も長くなり、多人数の要望には一度に応え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映したり、デジカメで撮影したりして満足する来館者が多く見られる。

(イ) 衣装展示

春：小直衣・十二単

夏：大鎧・稚児鎧

秋：町人旅姿・南蛮装束

冬：推古朝朝服・天武朝女官朝服

イ. 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り／12月：クリスマスツリー／
1月：団子さし／3月：手作り雛人形

ウ. おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：39件

エ. ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー。春と秋は、企画展に関連した資料を展示した。

平成29年4月～平成29年6月

「漆器の工程」(美術分野)

平成29年7月～平成29年9月

「蚊帳体験」(民俗分野)

平成29年10月～平成29年12月

「古代の土器にさわってみよう」(考古分野)

平成29年12月～平成30年3月

「雪国のはきもの・かぶりもの」(民俗分野)

(8) リニューアルの検討

リニューアルに向けて、調査・研究を行うためにリニューアル推進チームを設置して活動した。会議は通年で18回実施し、下記の内容について協議した。

- ①リニューアル基本構想原案の作成・検討
- ②検討委員会の設置など次年度以後の事業について検討

今年度は、チームで基本構想原案を作成し、館内で協議・検討しながら、よりよい基本構想案の形に整えてゆく作業を進めた。

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然・保存の各分野がテーマを設定して調査を実施している。また分野合同での研究テーマも設定し、併せて調査研究を進めている。平成29年度は、以下の7テーマの調査を実施した。

ア. 山口弥一郎調査資料の研究

(ア) 分野 民俗

(イ) 趣旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

(ウ) 調査概要

磐梯町と福島県立博物館で取り交わした協約書にもとづいて資料の整理を進めた。調査ノートや文書類について標題・年代等を目録化し、写真撮影等を行った。また早くから当該資料の調査を行い、また研究者資料アーカイブについても実績のある辻本侑生氏(浜銀総合研究所研究員)に指導を依頼し、助言を仰いだ。

イ. 考古資料による原始・古代の画期の再検討

(ア) 分野 考古

(イ) 趣旨

I. 縄文時代後半期から弥生時代初頭とII. 古墳時代終末期から奈良時代(6世紀末～8世紀)の2つの時期を取り上げ、当館収蔵の当該期の考古資料を中心に資料の有する社会的背景を考察し、本県における原始・古代の画期を検討し考古地域史の確立を目指すものである。

(ウ) 調査概要

縄文時代では、「複式炉文化の再検討」として昨年度抽出した南相馬市東町遺跡の複式炉土壌サンプル内の炭化種実同定を行った。結果は、オニグルミが主体でこれにクルミが伴う状況が

明らかになった。「福島県内出土古人骨の研究」では、南相馬市宮田貝塚及び浦尻貝塚出土古人骨の年代測定を東京大学と共同研究として実施し、同位体分析の成果を年代軸で検討する準備を整えた。また手計測の実測が困難な荒屋敷遺跡出土編組製品と原山古墳出土埴輪のデジタル写真計測による図化を行った。

ウ. 福島県産中生代軟体動物化石の研究

(ア) 分野 自然

(イ) 趣旨

福島県内には相馬地方にジュラ系相馬中村層群、いわき地方に白亜系双葉層群という中生代の地層が分布している。これらの地層からはアンモナイトや二枚貝や巻貝といった軟体動物化石を豊富に産することが知られ、特に近年は地元の化石収集家の努力によって多くの標本が発見されてきた。

しかし、これらの標本については鑑定が不十分なものもあり、論文などで発表されていないものも多い。そこで、これらの中生代軟体動物化石について鑑定内容を確認した上で成果を論文として記録・公表し、当館所蔵標本を充実させることを目指す。また、新たに追加した標本を展示する機会を設け、さらなる標本の発見・評価につなげる。

(ウ) 調査概要

相馬地方のジュラ系相馬中村層群の化石産地について現地調査を行った。現地調査の際には、特に巻貝の産状を確認、採取した。福島県立博物館に所蔵されている巻貝化石について鑑定作業を行った。いわき地方の白亜系双葉層群から新たに発見したアンモナイト化石について紀要で報告した。

エ. 戊辰戦争資料の研究

(ア) 分野 歴史

(イ) 趣旨

平成30年に戊辰戦争から150年の節目をむかえる。戦争の激戦地となり、日本の歴史が転換する舞台となった本県でも、改めて戊辰戦争の意義について問い直す必要がある。そのため戦争の経過及び戦後の復興過程までを対象として3年計画で資料調査を進め、新たな資料の発掘を行い、3年目の平成30年には調査成果を盛り込んだ企画展の開催を目指す。

(ウ) 調査概要

研究の2年目となる本年は、戦争の勝敗を分けたいわゆる錦旗の調査、新政府側の分捕品として伝来した会津藩旗の調査、奥羽列藩同盟側の政権構想を示す新資料、籠城戦の最中のようすを記した貴重な絵画資料などの調査を行った。いずれも平成30年度の当館企画展への出品依頼をあわせて行った。

オ. 会津の三十三観音めぐりの調査研究

(ア) 分野 美術・民俗

(イ) 趣旨

会津の三十三観音めぐりは、近世以降、女性を中心に連綿と行われてきた。仏教信仰のみならず、観音講におけるコミュニティ形成や御詠歌など多様な要素を含む非常に重要な文化と言える。その一方で、参加人口の減少などにより、継承が危惧されてもいる。本調査研究では、聞き取り調査等を実施し、会津の信仰文化・民俗を掘り下げ、地域の文化の新たな見直し・活用を目指す。

(ウ) 調査概要

会津の三十三観音を構成する観音堂を実際にめぐり、各観音堂の歴史や地域において果たしてきた役割等について現地調査を行った。また、三十三観音めぐり経験者に、観音講の運営や観音めぐりの実施方法等について聞き取り調査を行った。

カ. 災害史の学際的研究と災害史展示の構築

(ア) 分野 震災遺産保全チーム

(イ) 趣旨

東日本大震災の発生以来、災害史の研究はこれまで以上に盛んに行われるようになった。これまで当館では、慶長大地震や磐梯山噴火などに関する資料の収集や会津藩の社倉制の研究、山口弥一郎資料の研究など多様な災害に関わる調査研究を進めてきたが、いずれも個々の分野が断片的に行ってきた活動であった。東日本大震災や原発事故のような大規模災害の経験を後世に語り継いでいくためには、自然史や歴史、民俗、考古、保存科学等の分野が総合的に資料を調査研究していく必要があり、また学際的な見地から歴史上の災害を整理し直し、資料調査を進めたうえで展示に反映していくことも求められる。本研究では東日本大震災と災害史に関する資料の収集や調査研究を分野横断的なチームで進め、将来的な常設展示のリニューアルにおいてそれらを福島県の歴史として位置づけることを目指す。

(ウ) 調査概要

本年度は主に東日本大震災に関連する資料の保全と、それを特集展に反映するための調査研究を進めた。具体的には南相馬市における津波堆積物の剥ぎ取り標本の製作や、原発事故により置き去りにされた牛が餌代わりに齧った木柱のレプリカ製作などを進めた。いずれも自然史や民俗学・考古学的な手法による調査と、保存科学的な手法を用いた資料保全であった。さらにこれらの一部を特集展「震災遺産を考えるー災害の歴史と東日本大震災ー」に展示した。

キ. 古墳出土金属製品の現代保存修復と展示公開

(ア) 分野 保存科学分野

(イ) 趣旨

発掘調査で出土した金属製品は、歴史学上、過去の社会・経済・産業・流通などを考える上で貴重な資料であり、博物館等の収蔵施設での保存・展示のために、クリーニング、埋没環境下で進行した腐食の安定化（脱塩処理）、形態を保つための樹脂含浸、破片の復元等の一連のプロセス（保存処理）が要求される。保存処理の後は、温度、湿度、空気質（金属の腐食促進ガス、塵埃等）、照明等の環境を適切に構築することによって、保存処理の効果が持続する。

維持管理において、適切な環境構築手法を検討する。

(ウ) 調査概要

本年度は、福島市梅本古墳出土象嵌刀装具の保存修復、福島県立博物館展示室における金属腐食ガスの実態を把握するため、パッシブインジケーターを用いて半定量分析した。

(2) その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理・登録作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成29年度は、前年度に引き続き斎藤美恵子家寄託資料（会津藩土篠澤家文書）および安斎勇雄コレクションの整理を継続して実施したほか、新たに浅羽興一家寄贈資料、本田徳壽家寄託資料、本田信英家寄託資料の整理を行った。また整理済みで未登録であった久米幹男家寄贈

資料（絵はがき類）と松崎達夫家寄贈資料（若松城下薬種問屋資料）の一部を登録し、登録済みだが未公開であった田中野狐禅コレクションの公開も併せて行った。マイクロ撮影は、前年度に引き続き「築田家追加寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア. 研究成果の公表（職員の氏名あいうえお順）

(ア) 印刷物（単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌）

- 相田 優・猪瀬弘瑛・香内 修・竹谷陽二郎
2017.7 福島県立博物館企画展図録『ふくしま 5億年の自然史』88p. 福島県立博物館
- 荒木 隆・高橋 満・田中 敏・藤原妃敏・森幸彦 2017.10 福島県立博物館企画展図録『発掘ふくしま4』福島県立博物館
- 荒木 隆 2018.3 「学校支援を中核とした博物館における多様な社会教育活動の実践と展望—学校・博物館・地域・市町村教育委員会の連携を模索して—」『福島県立博物館紀要』第32号 p.1-32 福島県立博物館
- 荒木 隆 2018.3 「平安時代の山林寺院に表された神仏習合の姿—史跡流廃寺後の仏堂・社殿遺構から検証する—」『福島県立博物館紀要』第32号 p.33-62 福島県立博物館
- 荒木 隆 2018.3 「江戸時代交通路からみた南奥州の諸藩配置の意味—南奥州における幕府支配体制確立期における丹羽家の役割—」『福島県立博物館紀要』第32号 p.63-82 福島県立博物館
- J. Tazawa, H. Inose and N. Kaneko 2017.8 「*Cyrtospirifer ainosawensis* sp. nov., from the Upper Devonian Ainosawa Formation, Soma, Abukuma Mountains, northeastern Japan」『地質学雑誌』第123巻p.653-656 日本地質学会
- 猪瀬弘瑛 2018.3 「福島県いわき市の上部白亜系双葉層群足沢層大久川部層から産出したアンモナイト *Yezoites perrini* (Anderson, 1902)」『福島県立博物館紀要』第32号p.93-96 福島県立博物館
- 内山大介 2018.1 「博物館資料としての『震災遺産』—場所・モノ・物語の継承のために—」ふくしま歴史資料保存ネットワーク事務局編『ふくしまの未来へつなぐ、伝える シンポジウム記録集◆2017』p.21-26
- 内山大介 2018.2 「博物館における『民俗分野』の位置—震災を起点とした活動から—」『日本民俗学』第293号p.146-151 日本民俗学会

- 内山大介 2018.3 『会津の御田植祭』（共著）会津の御田植祭調査委員会
- 内山大介 2018.3 『間々田のジャガマイタ調査報告書』（共著）小山市教育委員会
- 内山大介 2018.3 「民俗資料の保全をめぐる限界と可能性—福島県における民具の救出を事例に—」西村慎太郎編『新しい地域文化研究の可能性を求めて』Vol.5 地域歴史資料救出の先へ（人間文化研究機構広領域連携型基幹研究プロジェクト「日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築」ブックレット）p.8-19
- 内山大介 2018.3 「福島県における震災・原発被災と博物館活動—文化財の救出から『震災遺産』の保全へ—」科学研究費補助金基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて」研究グループ編『被災地フォーラム新潟2017報告書』p.16-19
- 内山大介 2018.3 「展示批評 千葉県立関宿城博物館『鯛は弱いが役に立つ—肥料の王様干鯛—』」『民具研究』第157号 p.91-94 日本民具学会
- 内山大介 2018.3 「書評 中原正男『白河踊り—奥州白河からふるさとへ伝えた盆踊り』」『福島の民俗』第46号 p.90-91 福島県民俗学会
- 大里正樹 2017.9 「第3章 衣食住2 食生活」『野田市民俗調査報告書10 二川・関宿地区の民俗』pp.81-97 野田市
- 大里正樹 2017.9 「第4章 人生儀礼4 葬送」『野田市民俗調査報告書10 二川・関宿地区の民俗』pp.52-65 野田市
- 大里正樹 2018.3 「郷友会の存続と村落社会—沖縄県内の郷友会数調査から—」古家信平編『現代民俗学のフィールド』p.259-273 吉川弘文館
- 大里正樹 2018.3 「書評 鈴木節子『どごんわらしえ—故郷福島県「正直」の言葉』」『福島の民俗』第46号 p.91-92 福島県民俗学会
- Motoyama, I., Itaki, T., Kamikuri, S., Taketani, Y. and Okada, M. 2017.10 Cenozoic biostratigraphy, chronostratigraphy and paleoceanography in the Boso Peninsula and Bandai Volcano in the Aizu region, East Japan. (InterRad XV in Niigata 2017 Excursion Guide). Sci. Rep., Niigata Univ. (Geology), no. 32 (Supplement), p.1-27.
- 高橋 充 2018.3 「郡山陣中からの伊達政宗書状」『南奥中世史への挑戦』p.76-85 福島県

中世史研究会

高橋 充 2018.3 「墨書のある部材について」
『名勝会津松平氏庭園御茶屋御殿修理工事報告書』p. 70-80 会津若松市教育委員会

時枝 務・高橋 充 2018.3 「信夫山頂遺跡出土品の研究(6)」『福島県立博物館紀要』第32号 p. 83-92 福島県立博物館

高橋 満 2017.9 「縄文時代土器製塩研究の展開と課題」『縄文の塩—土器製塩の技術と展開—シンポジウム予稿集』p. 1-8

(イ) 学会発表

安藤佑介・御前明洋・猪瀬弘瑛・服部創紀・古野竹志・森木和則・疋田吉識・嶋田智恵子・加藤久佳 2017.6 「道北地域の白垂系および新第三系から産出した十脚類化石の追加記録」日本古生物学会2017年年会 於 北九州市立自然史・歴史博物館

内山大介 2017.6.17 「博物館資料としての『震災遺産』—場所・モノ・物語の継承のために—」シンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝える—歴史・文化・震災遺産の保全と活用の今—」ふくしま歴史資料保存ネットワーク主催 於 郡山市民プラザ

内山大介 2017.9.2 「民俗資料の保全をめぐる限界と可能性—福島県における民具の救出を事例に—」シンポジウム「地域歴史資料救出の先へ」人間文化研究機構広領域型基幹研究プロジェクト国文学研究資料館ユニット「人命環境アーカイブズの過去・現在・未来に関する双方向的研究」主催 於 いわき市文化センター

内山大介 2017.10.13 「東北における傘と吊るし物の奉納習俗—会津と庄内の比較から—」第4回山鉾屋台研究会 於 京都市職員会館かもがわ

内山大介 2017.10.15 「奉納物としてのカサボコー観音・地藏信仰と吊るし物の民俗—」(グループ発表「祭礼・行事の傘・鉾・傘ブク」)日本民俗学会 第69回年会 於 佛教大学

内山大介 2017.12.2 「福島県における震災・原発被災と博物館活動—文化財の救出から『震災遺産』の保全へ—」シンポジウム「被災地フォーラム新潟」科学研究費基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立—東日本大震災を踏まえて」、新潟大学災害・復興科学研究所 地震・火山噴火予知研究協議会史料・考古部会「日本海沿岸地域を中心とした地震・火山噴火災害関連史料の収集と分析」研究グループ主催 於 新潟大学
大里正樹 2017.10.15 「行事の継承におけるコ

スト—福島県郡山市『笹川のあばれ地藏保存会』の事例—」日本民俗学会 第69回年会 於 佛教大学

杉崎佐保恵・高橋 満・松田隆嗣 2017.6 「象嵌線に潜む古墳時代の象嵌技法の顕在化」日本文化財科学会第34回大会 於 東北芸術工科大学

杉崎佐保恵・高橋 満・松田隆嗣 2017.6 「象嵌線の観察から導く古墳時代の象嵌技法」文化財保存修復学会第39回大会 於 金沢歌舞伎座

高橋 充 2017.11 「馬の流通からみた戦国期奥羽の城下町」城下町科研総括シンポジウムⅡ 於 大阪市立大学(科学研究費助成事業「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」)

高橋 満 2017.6 「東日本大震災と博物館—福島県立博物館の取組み—」文化庁第10回指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー 於 東京国立博物館

高橋 満 2017.10 「縄文時代土器製塩研究の展開と課題」明治大学資源利用史研究クラスター研究成果公開シンポジウム「縄文の塩—土器製塩の技術と展開—」於 明治大学

安藤佑介・御前明洋・猪瀬弘瑛・服部創紀・古野竹志・森木和則・疋田吉識・嶋田智恵子・加藤久佳 2017.6 「道北地域の白垂系および新第三系から産出した十脚類化石の追加記録」日本古生物学会2017年年会 於 北九州市立自然史・歴史博物館

Taketani, Y. 2017.10 Lowermost Cretaceous radiolarian assemblage from the South Kitakami Terrane, Northeast Japan. InterRad XV in Niigata 2017, General Symposium Session 19 (Poster) (第15回国際放散虫研究集会 ポスター発表)

イ. 他団体による委嘱等

阿部綾子：青森県史編さん調査研究員 青森県
阿部綾子：相馬市史編さん調査執筆員 相馬市教育委員会

阿部綾子：郡山市文化財保護審議委員

荒木 隆：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

荒木 隆：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員 湯川村教育委員会

猪瀬弘瑛：ふくしまサイエンスぷらっとフォーラム連携コーディネーター

内山大介：共同研究員 共同研究「地域における歴史文化研究拠点の構築」国立歴史民俗博

物館

内山大介：非常勤講師 福島県立医科大学医学部
 内山大介：評議員 日本民具学会
 内山大介：委員 第42回日本民具学会大会実行委員会
 内山大介：副委員長 会津の御田植祭調査委員会
 内山大介：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会
 内山大介：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会
 内山大介：委員 郡山市文化財保護審議委員会
 内山大介：事務局 福島県民俗学会
 内山大介：委員 小山市国選択無形民俗文化財間々田のジャガマイタ調査委員会
 大里正樹：研究協力者 科研費基盤研究(C)「民俗文化の継承におけるコストとモチベーションに関する基礎的研究」聖徳大学
 大里正樹：三島町史編さん専門委員 三島町教育委員会
 大里正樹：会津坂下町史編さん専門委員 会津坂下町教育委員会
 大里正樹：事務局 福島県民俗学会
 大里正樹：野田市史編さん調査研究員 野田市
 川延安直：喜多方市美術館収集委員会委員 喜多方市教育委員会
 川延安直：「ふるさとの風景展」審査員 喜多方市美術館
 川延安直：いわき市文化財保護審議委員会委員 いわき市教育委員会
 川延安直：須賀川市文化財保護審議委員会委員 須賀川市教育委員会
 川延安直：白河市文化財保護審議委員会委員 白河市教育委員会
 川延安直：福島県文学賞エッセー・ノンフィクション部門審査委員
 川延安直：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学
 川延安直：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員
 小林めぐみ：福島芸術計画 × Art Support TOHOKU-TOKYO 運営委員会委員 福島県、東京都
 小林めぐみ：会津漆器技術後継者訓練校講師 会津漆器協同組合
 小林めぐみ：やないづ町立斎藤清美術館運営協議会委員 柳津町
 小林めぐみ：会津若松市文化のまちづくり事業委員会委員 公益財団法人会津若松文化振興

財団

小林めぐみ：只見町ユネスコエコパーク支援委員会委員 只見町ユネスコエコパーク推進協議会
 小林めぐみ：福島大学芸術による地域創造研究所研究員 福島大学
 小林めぐみ：調査委員会委員 会津の御田植祭調査委員会
 小林めぐみ：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会
 小林めぐみ：西会津町歴史文化基本構想等策定委員会委員 西会津町
 佐藤洋一：南会津町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員
 佐藤洋一：共同研究「『聆涛閣集古帖』の総合資料学的研究」共同研究員 国立歴史民俗博物館
 高橋 充：二本松城跡整備検討委員会委員 二本松市教育委員会
 高橋 充：向羽黒山城跡調査整備委員会委員 会津美里町教育委員会
 高橋 充：相馬市史編さん専門委員 相馬市教育委員会
 高橋 充：会津藩主松平家墓所及び名勝会津松平氏庭園整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
 高橋 充：阿津賀志山防塁調査・整備指導委員会委員 国見町教育委員会
 高橋 充：伊達市宮脇廃寺跡保存管理計画策定委員会委員 伊達市教育委員会
 高橋 充：伊達市立博物館（仮称）整備検討委員会委員 伊達市教育委員会
 高橋 充：棚倉城跡調査指導委員会委員 棚倉町教育委員会
 高橋 充：会津坂下町史編さん委員会委員 会津坂下町
 高橋 充：北塩原村城館等保存・整備・活用検討委員会委員 北塩原村教育委員会
 高橋 充：小峰城跡石垣検討委員会委員 白河市
 高橋 充：堂後遺跡及び勝常寺跡調査指導委員会委員 湯川村教育委員会
 高橋 充：日本学術振興会「中世・近世移行期における守護所・城下町の総合的研究」大阪市立大学
 高橋 充：医学部講義「芸術と文化（博物館からみた地域文化）」福島県立医科大学
 高橋 充：只見町教育振興基本計画検討委員会委員 只見町教育委員会
 高橋 満：会津坂下町史編さん委員 会津坂下

町教育委員会

高橋 満：「日本先史文化の多視点的研究」研究推進員 明治大学

高橋 満：富岡町アーカイブ施設検討町民会議委員（会長） 富岡町

高橋 満：富岡町アーカイブ施設整備識者検討部会委員 富岡町

竹谷陽二郎：原町市史編さん専門委員 相馬市教育委員会

竹谷陽二郎：南相馬市博物館協議会委員 南相馬市博物館

竹谷陽二郎：南相馬市博物館「小高の自然」調査員 南相馬市博物館

竹谷陽二郎：磐梯山ジオパーク協議会運営委員長 磐梯山ジオパーク協議会

竹谷陽二郎：ジオパーク支援委員 日本地質学会

竹谷陽二郎：ふくしまサイエンスぷらっとフォーム運営協議委員

竹谷陽二郎：サポートセンター員 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター

田中 敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

田中 敏：郷土研究奨励賞選考委員 会津若松市教育委員会

田中 敏：喜多方市立美術館運営協議会委員 喜多方市教育委員会

藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員 会津若松市教育委員会

藤原妃敏：原町市史編さん専門研究委員 南相馬市教育委員会

藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美里町教育委員会

藤原妃敏：喜多方市文化財保護審議委員会委員 喜多方市教育委員会

藤原妃敏：笹山原No.16遺跡調査指導委員 郡山女子短期大学

藤原妃敏：福島県考古学会副会長 福島県考古学会

藤原妃敏：南相馬市博物館運営協議会委員 南相馬市博物館

藤原妃敏：会津坂下町史編さん委員 会津坂下町教育委員会

森 幸彦：福島県の森林文化に係わる調査検討委員会委員 福島県森林計画課

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼しさまざまな講座・講演会等を実施している。また、新規事業として「子育て世代対応支援事業」を立ち上げた。平成29年度の各講座開催数

は157回、総参加者数は10,111人であった。

前年度（平成28年度）の開催回数は120回で今年度は37回多かった。総参加者数は前年度8,229人で、1,882人の増加、前年比約120%であった。以下は個別講座・講演等の一覧である。

平成29年度講座・講演会等行事一覧

テ - マ	回数	参加者数
(1) 館長講座	12	721
(2) 考古学講座	22	403
(3) 民俗講座	4	103
(4) 歴史講座	8	842
(5) 自然史講座	3	91
(6) 保存科学講座	1	6
(7) 美術講座	3	107
(8) ギャラリートーク	8	162
(9) 指導者向け研修	1	8
(10) 実技講座	5	32
(11) 実演	2	44
(12) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）	34	1,049
(13) ミュージアムイベント	9	1,370
(14) 子育て世代対応事業	14	2,262
(15) 共催事業	10	913
(16) 後援事業	12	1,232
(17) 企画展・特集展内覧会（友の会）	7	558
(18) 復興応援パートナー事業	2	208
計	157	10,111

平成28年度講座・講演会等行事一覧

(1) 館長講座

テ - マ	講師・所属等	期 日	参加人数
『北のはやり歌』①「リンゴの唄」	赤坂憲雄（館長）	4月20日（木）	56
『北のはやり歌』②「北上夜曲」	赤坂憲雄（館長）	5月18日（木）	59
『北のはやり歌』③「北帰行」	赤坂憲雄（館長）	6月15日（木）	57
『北のはやり歌』④「ああ上野駅」	赤坂憲雄（館長）	7月20日（木）	70
『北のはやり歌』⑤「港町ブルース」	赤坂憲雄（館長）	8月17日（木）	65
『北のはやり歌』⑥「浜昼顔」	赤坂憲雄（館長）	9月21日（木）	49
『北のはやり歌』⑦「北国の春」	赤坂憲雄（館長）	10月19日（木）	52
『北のはやり歌』⑧「津軽海峡・冬景色」	赤坂憲雄（館長）	11月16日（木）	42
『北のはやり歌』⑨「俺ら東京さ行ぐだ」	赤坂憲雄（館長）	12月21日（木）	60
『北のはやり歌』⑩「みだれ髪」	赤坂憲雄（館長）	1月18日（木）	80
『東日本大震災を考える』① クロストーク「語りがたきものに触れて」	赤坂憲雄（館長）・久保田翠（クリエイティブサポート レッツ理事長）・小松理虔（ヘキレキ舎主宰）	2月15日（木）	56
『東日本大震災を考える』② 対談「歌と能－鎮魂はいかにして可能か」	赤坂憲雄（館長）・笠井賢一（演出家）	3月15日（木）	75

(2) 考古学講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
ハニワ大王の講談スーパー古事記1	荒木 隆 (学芸員)	4月16日(日)	16
パワーアップ サロンド 考古学1	荒木 隆 (学芸員)	4月22日(土)	12
ハニワ大王の講談スーパー古事記2	荒木 隆 (学芸員)	5月21日(日)	19
パワーアップ サロンド 考古学2	荒木 隆 (学芸員)	5月27日(土)	10
ハニワ大王の講談スーパー古事記3	荒木 隆 (学芸員)	6月18日(日)	19
パワーアップ サロンド 考古学3	荒木 隆 (学芸員)	6月24日(土)	10
ハニワ大王の講談スーパー古事記4	荒木 隆 (学芸員)	7月16日(日)	32
パワーアップ サロンド 考古学4	荒木 隆 (学芸員)	7月22日(土)	8
縄文土器を作ろう!①	森 幸彦 (学芸員)	8月 5日(土)	11
縄文土器を作ろう!②	森 幸彦 (学芸員)	8月 6日(日)	11
ハニワ大王の講談スーパー古事記5	荒木 隆 (学芸員)	8月20日(日)	22
パワーアップ サロンド 考古学5	荒木 隆 (学芸員)	8月26日(土)	20
ハニワ大王の講談スーパー古事記6	荒木 隆 (学芸員)	9月17日(日)	10
出張 パワーアップ サロンド 考古学 in 会津まつり	荒木 隆 (学芸員)	9月24日(日)	25
縄文土器の野焼き	森 幸彦 (学芸員)	10月15日(日)	11
ハニワ大王の講談スーパー古事記7	荒木 隆 (学芸員)	10月15日(日)	10
交通路からみた幕藩体制確立期における丹羽氏の役割	荒木 隆 (学芸員)	10月22日(日)	17
パワーアップ サロンド 考古学7	荒木 隆 (学芸員)	10月28日(土)	10
ハニワ大王の講談スーパー古事記8	荒木 隆 (学芸員)	11月19日(日)	32
パワーアップ サロンド 考古学8	荒木 隆 (学芸員)	11月25日(土)	10
縄文と弥生	田中 敏・森 幸彦 (学芸員)	3月10日(土)	68
勾玉・ガラス玉を作ろう	高橋 満 (学芸員)	3月24日(土)	20

(3) 民俗講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
おもしろ民俗学ゼミナール1「どうして玄関では靴を脱ぐの? -住まいと暮らしの民俗入門-	内山大介 (学芸員)	5月27日(土)	34
おもしろ民俗学ゼミナール2「昔はみんなお見合い結婚だったの? -家族と結婚の民俗入門-	大里正樹 (学芸員)	7月 1日(土)	10
おもしろ民俗学ゼミナール3「なぜ七・五・三にお祝いをするの? -子供と成長祈願の民俗入門-	山口 拡 (学芸員)	11月4日(土)	21
おもしろ民俗学ゼミナール4「大正月と小正月はどうちがうの? -暦と行事の民俗入門-	江川トヨ子 (学芸員)	1月13日(土)	38

(4) 歴史講座

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
はじめてさんの古文書講座①	阿部綾子 (学芸員)	6月17日(土)	32
はじめてさんの古文書講座②	高橋 充 (学芸員)	7月15日(土)	31
はじめてさんの古文書講座③	栗原祐斗 (学芸員)	8月19日(土)	30
史料でよむ戊辰戦争 第1回「会津藩雪辱の書～渋谷源蔵「雪冤一弁」をよむ～」	阿部綾子 (学芸員)	9月16日(土)	150
史料でよむ戊辰戦争 第2回「戦場・会津の7日間～「酒井安右衛門覚書」をよむ～」	高橋 充 (学芸員)	10月21日(土)	156
史料でよむ戊辰戦争 第3回「民政局とは何か?～築田家文書「公用簿籍」をよむ～」	田中伸一 (学芸員)	11月18日(土)	151
史料でよむ戊辰戦争 第4回「県庁文書にみる戦後の会津～若松県「日誌」をよむ～」	栗原祐斗 (学芸員)	12月16日(土)	117
史料でよむ戊辰戦争 第5回「新島八重の回顧談～「男装して会津城に入りたる当時の苦心」をよむ～」	佐藤洋一 (学芸員)	1月20日(土)	175

(5) 自然史講座

テ - マ	講師・所属等	期 日	参加人数
野外講座「化石をさがそう」	相田 優 (学芸員)	10月 7日(土)	40
実技講座「化石標本をつくろう」	香内 修 (学芸員)	10月 8日(日)	36
野外講座「鶴ヶ城の野鳥」	古川裕司 (野鳥研究家)	11月12日(日)	15

(6) 保存科学講座

テ - マ	講師・所属等	期 日	参加人数
犯人はおまえだ！一原因を見極めて博物館資料の寿命を延ばすー	杉崎佐保恵 (学芸員)	4月22日(土)	6

(7) 美術講座

テ - マ	講師・所属等	期 日	参加人数
仏像のキホン①	塚本麻衣子 (学芸員)	8月11日(金・祝)	38
仏像のキホン②	塚本麻衣子 (学芸員)	8月25日(金)	33
仏像のキホン③	塚本麻衣子 (学芸員)	9月 8日(金)	36

(8) ギャラリートーク

テ - マ	講師・所属等	期 日	参加人数
ハニワ大王のさわってギャラリー1	荒木 隆 (学芸員)	4月 2日(日)	36
ハニワ大王のさわってギャラリー2	荒木 隆 (学芸員)	5月 7日(日)	18
ハニワ大王のさわってギャラリー3	荒木 隆 (学芸員)	6月 4日(日)	16
ハニワ大王のさわってギャラリー4	荒木 隆 (学芸員)	7月 2日(日)	24
ハニワ大王のさわってギャラリー5	荒木 隆 (学芸員)	8月 6日(日)	25
ハニワ大王のさわってギャラリー6	荒木 隆 (学芸員)	9月 3日(日)	11
ハニワ大王のさわってギャラリー7	荒木 隆 (学芸員)	10月 1日(日)	12
ハニワ大王のさわってギャラリー8	荒木 隆 (学芸員)	11月 5日(日)	20

(9) 指導者向け研修

テ - マ	講師・所属等	期 日	参加人数
博物館利用指導者研修会	荒木 隆 (学芸員)	8月18日(金)	8

(10) 実技講座

テ - マ	講師・所属等	期 日	参加人数
須賀川の絵のぼり・小旗をつくろう	大野青峯・大野久子 (伝統技術保持者)	5月5日(金・祝)	11
会津・三島の編み組み細工1・2	渡部ユキ子・角田キイ子 (三島町生活工芸館)	7月8日(土)・9日(日)	10
唐人和風をつくろう	斎藤誠一 (伝統技術保持者)	7月29日(土)	4
縄文時代の編み物を再現しよう！	本間一恵 (バスケットリー作家)	11月11日(土)	7

(11) 実演

テ - マ	講師・所属等	期 日	参加人数
大堀相馬焼の絵付け	山田慎一 (いかりや商店白河工房)	6月18日(日)	30
昔語り	横山幸子 (語り部)	9月30日(土)	14

(12) 企画展関連行事（記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等）

テ　　マ	講師・所属等	期　　日	参加人数
漆との出会い、自然との出会い	関谷浩二（漆芸家）	4月29日（土・祝）	115
自然を描く・漆で描く I部写生編1	古川弓子（アーティスト）	5月 6日（土）	16
自然を描く・漆で描く I部写生編2	古川弓子（アーティスト）	5月 7日（日）	13
自然を描く・漆で描く II部蒔絵編1	八木由紀子（蒔絵師）	5月14日（日）	15
自然を描く・漆で描く II部蒔絵編2	八木由紀子（蒔絵師）	5月21日（日）	15
自然を描く・漆で描く II部蒔絵編3	八木由紀子（蒔絵師）	5月28日（日）	15
企画展「自然をうつす」より自然のものをスケッチする	小林めぐみ（学芸員）	6月 6日（火）	21
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	7月16日（日）	22
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	7月23日（日）	6
ワークショップ「一ふくしま最古の岩石がもらえる！一 アンモナイトの名前を当てよう！」	自然分野学芸員	7月30日（日）	47
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	8月 6日（日）	24
気象庁福島地方気象台出前講座「地震と津波について」	大和田 淳（福島地方気象台地 震津波防災官）	8月10日（木）	34
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	8月13日（日）	35
ワークショップ「一ふくしま最古の岩石がもらえる！一 アンモナイトの名前を当てよう！」	自然分野学芸員	8月20日（日）	48
企画展「ふくしま5億年の自然史」展示解説会	自然分野学芸員	9月17日（日）	24
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 記念講演会1	玉川一郎（福島県考古学会会長）	10月 7日（土）	30
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会1	高橋 満（学芸員）	10月 7日（土）	20
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会2	荒木 隆（学芸員）	10月22日（日）	4
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 記念講演会2	菊地芳朗（福島大学行政政策学 類教授）	11月3日（金・祝）	63
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会3	荒木 隆（学芸員）	11月3日（金・祝）	30
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会4	森 幸彦（学芸員）	11月12日（日）	2
楯葉町上ノ台遺跡の発掘調査	小林謙一（中央大学文学部）	11月18日（土）	38
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 記念講演会3	斎藤成也 （国立遺伝学研究所教授）	11月23日（木・祝）	70
企画展「発掘ふくしま4～土中の声に耳をすませば～」 展示解説会5	森 幸彦（学芸員）	11月23日（金・祝）	20
講演会「国宝とは何か？」	佐藤康宏（東京大学教授）	1月13日（土）	136
特集展解説会「歴史の中の災害」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月 3日（土）	22
ギャラリートーク「アートで伝える考える」	はま・なか・あいづ文化連携プ ロジェクト担当学芸員	3月 3日（土）	13
グランド・ラウンドテーブルファイナル「岡部昌生プロ ッタージュプロジェクトの6年」	岡部昌生（美術家）・港千尋（著 述家）・赤坂憲雄（館長）	3月 4日（日）	41
特集展解説会「大熊・双葉・浪江の取組み」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月 4日（日）	41
特集展解説会「久之浜から見る震災の前と後」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月11日（日）	9
特集展解説会久之浜「ふるさとの記憶」模型について	久之浜大久地区まちづくりサポ ートチームの皆さん	3月15日（木）	15
特集展ワークショップ「段ボールトイレを作ろう」	宮崎賢哉（防災教育普及協会）	3月18日（日）	20
特集展解説会「災害からの避難」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月18日（日）	10
特集展解説会「会津の災害」	震災遺産保全チーム担当学芸員	3月25日（日）	15

(13) ミュージアムイベント

テ　　マ	出演・講師	期　　日	参加人数
民謡 会津磐梯山と玄如節	玄如節顕彰会	6月24日(土)	79
夏休み子ども野外映画会「ペット」	学芸員	7月17日(月・祝)	40
会津磐梯山・市民盆踊り大会	会津磐梯山盆踊り保存会	8月15日(火)	130
夏休みナイトミュージアム	学芸員	8月19日(土)	78
ハワイアン in けんぱく	モハル・ハワイアンズ	8月26日(土)	130
会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」コンサート～ものがたりの音楽～	会津室内楽団アンサンブル「Coderanni」	9月18日(月・祝)	275
クリスマス ジャズ ライブ	羽賀秀樹・眞鍋伸	12月17日(日)	191
会津の彼岸獅子	本滝沢獅子舞保存会	3月11日(日)	161
会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」コンサート～懐かしい歌 心の旅&管楽器の魅力II～	会津室内楽団アンサンブル「Coderanni」	3月25日(日)	286

(14) 子育て世代対応事業

テ　　マ	講　　師	期　　日	参加人数
博物館でも読み聞かせ1	読み聞かせグループ	4月8日(土)	45
子供ミニミニ博物館	学習支援班	4月29日(土・祝) ～5月7日(日)	806
博物館でも読み聞かせ2	読み聞かせグループ	5月13日(土)	38
博物館でも読み聞かせ3	読み聞かせグループ	6月10日(土)	48
博物館でも読み聞かせ4	読み聞かせグループ	7月8日(土)	50
博物館でも読み聞かせ特別編	会津短大幼児教育学科	7月9日(日)	18
博物館でも読み聞かせ～夏休み編	会津短大幼児教育学科	8月6日(日)	18
子供ミニミニ博物館	学習支援班	8月11日(金・祝) ～8月17日(木)	923
博物館でも読み聞かせ5	読み聞かせグループ	8月12日(土)	42
博物館でも読み聞かせ6	読み聞かせグループ	9月9日(土)	31
博物館でも読み聞かせ7	読み聞かせグループ	10月14日(土)	38
親子でやすらぐ子守唄コンサート	西館好子・稲村なお子・川口京子・長谷川芙美子(NPO法人日本子守唄協会)	10月20日(金)	152
博物館でも読み聞かせ8	読み聞かせグループ	11月11日(土)	38
博物館でも読み聞かせ 特別編	会津短大幼児教育学科	1月20日(土)	15

(15) 共催事業

テ　　マ	主　　催	期　　日	参加人数
ふくしま史料ネットシンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝える」	ふくしま歴史資料保存ネットワーク	6月17日(土)	108
福島県博物館連絡協議会総会		7月6日(木)	28
福島県博物館連絡協議会 研修会		10月12日(木)	22
福島県高等学校家庭クラブ連盟研究発表大会	福島県高等学校家庭クラブ連盟	10月18日(水)	80
平成29年度 文化財保護指導者研修会	公益財団法人福島県文化振興財団	10月24日(火)	85
平成29年度 文化財保護指導者研修会	公益財団法人福島県文化振興財団	10月25日(水)	63
子どもの読書活動推進ネットワークフォーラム	社会教育課	11月21日(火)	105
福島県考古学会大会	福島県考古学会	11月25日(土)	70
福島県考古学会総会・大会	福島県考古学会	11月26日(日)	52
spff サイエンス屋台村 in 会津	ふくしまサイエンスぷらっとフォーム運営協議会	12月24日(日)	300

(16) 後援事業

テ ー マ	主 催	講師・所属	期 日	参加人数
温故知新の旅4 漆工職人五十二年 今想う事・好奇心 (会津漆器協同組合青年部)	会津漆器協同組合青年部	佐藤阡朗 (工芸家)	6月23日(金)	85
ふくしま 星と宇宙の展覧会「日新館天文台跡と天文遺産」	日新館天文台跡保護推進プロジェクト	渡部潤一 (国立天文台副台長)	7月22日(土)	121
ふくしま 星と宇宙の展覧会「正しい宇宙人の探し方」	日新館天文台跡保護推進プロジェクト	鳴沢真也 (西はりま天文台天文科学専門員)	7月23日(日)	48
福島県造形サークル連合大会	福島県造形サークル	三浦浩喜 (福島大教授)	7月29日(土)	31
会津熱中塾	会津熱中塾	河合祐子 (日本銀行金融機構局城跡考査役) 阪井和夫 (明治大学サービス創新研究所所長)	9月17日(日)	34
「夢あるき」創立20周年事業	特定非営利活動法人夢あるき		10月 8日(日)	86
あいづまちなかアートプロジェクト講演会	あいづまちなかアートプロジェクト	四柳嘉章 (輪島漆芸美術館長)	10月14日(土)	68
会津史学会講演会「平成の風土記～奥会津書房の立ち上げとその後」	会津史学会	遠藤由美子	10月29日(日)	100
五色百人一首福島県大会	五色百人一首福島県協会		11月 5日(日)	70
会津史談会公開文化史講座「戊辰戦争と錦旗」	会津史談会	栗原祐斗 (学芸員)	11月22日(水)	155
青木山を守る会講演会「青木山麓の歴史と文化」	青木山を守る会	滝沢洋之・長尾 修・東瀬紘一	12月 3日(日)	118
会津民俗研究会公開講演会「会津三十三観音を歩く」	会津民俗研究会	吉田邦吉、吉田博子、塚本麻衣子 (学芸員)	2月25日(日)	316

(17) 企画展・特集展内覧会等 (友の会)

テ ー マ	主 催	講師・所属等	期 日	参加人数
coderanniコンサート	友の会	会津室内楽団アンサンブル「Coderanni」	4月 1日(土)	211
企画展「自然をうつす」内覧会	福島県立博物館	小林めぐみ (学芸員)	4月28日(金)	25
企画展ふくしま5億年の自然史」内覧会	福島県立博物館	相田 優 (学芸員)	7月14日(金)	35
企画展「発掘ふくしま4」内覧会	福島県立博物館	森 幸彦 (学芸員)	10月 6日(金)	30
友の会 映画祭 (午前:「アマゾン大冒険」、午後:「天地明察」)	友の会		10月28日(土)	203
企画展「山水憧憬」内覧会	福島県立博物館	小林めぐみ (学芸員)	1月12日(金)	43
友の会総会	友の会		3月17日(土)	11

(18) 復興応援パートナー事業

テ ー マ	主 催	講師・所属等	期 日	参加人数
ちいさな黄色い手紙プロジェクト	会津大学短期大学部	会津短期大学他	11月 4日(土) ～23日(木・祝)	185
映画会「地球交響曲 第8番 (ガイアシンフォニーNo.8)」 映画会「ドキュメンタリー映画 新地町の漁師たち」 トークライブ「新地町の漁師たち」を語る	福島県立博物館	山田 徹 (映画監督)	2月24日(土)	23



実技講座「三島の編み組み細工」



東日本大震災を考える②
対談「歌と能—鎮魂はいかにして可能か」



考古学講座「縄文土器を作ろう！」



館長講座 北のはやり歌①「リンゴの唄」



美術講座「仏像のキホン」



ミニミニ博物館



親子でやすらぐ子守唄コンサート



博物館でも読み聞かせ



博物館でも読み聞かせ 2

(2) 学校・文化施設との連携

各種学校および文化施設との連携を図りながら、次の事業を展開した。

県内外の学校団体や文化施設主催団体が訪れた際の学習効果をさらに高めるために、新たに学習支援のためのプログラムを開発した。学習支援班が電話の受付を担当し、各団体からの相談対応をしながら、目的ニーズに応じた効果的な学習プログラムをプロデュースした。

ア. 展示室での自主学習

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、発達段階や見学の目的などに応じた2種類のワークシートを準備している。


(ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)

常設展示室の展示資料を見る際のポイントを与えるように設問形式で構成されており、資料を観察しながら設問に答えられるように「考える」ことを重視したものになっている。難易度により3種類のシートがあり、当館ホームページからダウンロードできるようになっている。団体利用する学校等は事前に学校で印刷・配布し、事前学習を踏まえて当館を見学できるような形になっている。

(初級編)

福島県立博物館 見学のしおり

福島県の12の秘宝を探せ! — 初級編 —



【見学の約束】

- ◆展示室は教室と同じです。勉強する場所ですから静かにし、走り回ったりしません。
- ◆資料を長く保存するために、展示室にさわることができません。
- ◆展示室では資料を汚さないようにするため飲食はできません。
- ◆展示室で写真撮影をする時にはフラッシュをオフにします。
- ◆筆記用具は鉛筆を使います。マジック・サインペン・ボールペンは使えません。

福島県は、関東地方から東北地方への入口、また東北地方から関東地方への出口として、道徳や船を使った交通の中心地のひとつでした。このような福島県の特徴は縄文時代から見ることができ、福島県はいつの時代も東北と関東地方の両方の橋渡しをする地域として、さまざまな文化や情報が行き来する重要な場所であったことがわかります。

県立博物館には、福島県内の貴重な資料がたくさん展示されています。その中でも福島県のようなすぐ分かる12点を展示室で探してみよう。

(来館日) 平成 年 月 日 ()

(学校名)

(氏名)

1

博物館見学のしおり (入門編)

(イ) 博物館探検シート

小学校高学年から中学生向けに作成されており、常設展示を構成する6つの大テーマに沿うかたちで、展示室内の主要な資料を題材に取り上げている。当館ホームページからダウンロードすることができるようになっているため、見学学習の目的に応じて選択できるとともに、事前の課題意識を持って児童・生徒が来館できるような形になっている。また、小学校低学年向けには「展示室探検ビンゴ」を作成した。

○学習プログラム実施状況

- ・講堂・視聴覚室においてのレクチャー
31回 1614名
- ・総合展示室においてのレクチャー
30回 1253名
- ・体験学習室においてのレクチャー
22回 847名
- ・企画展示室においてのレクチャー
24回 1046名

始・古代のワザに挑戦 (考古分野)」「化石にふれてみよう (自然分野)」「紙すきハガキづくり (民俗分野)」「昔の道具体験 (民俗分野)」「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史分野)」の5つの団体体験学習プログラムを準備している。特に、「昔の道具体験」は小学校3年生の授業と連動した内容となっており、実施回数、人数とも増加した。

○体験学習プログラム実施状況

「原始・古代のワザに挑戦 (考古分野)」	13回	218名
〔	・勾玉づくり	10回 179名
	・火おこし	3回 39名
	・石器で切ってみよう	0回 0名
「化石にふれてみよう (自然分野)」	2回	45名
「紙すきハガキづくり (民俗分野)」	0回	0名
「昔の道具体験 (民俗分野)」	13回	452名
「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史分野)」	0回	0名
合計	28回	715名

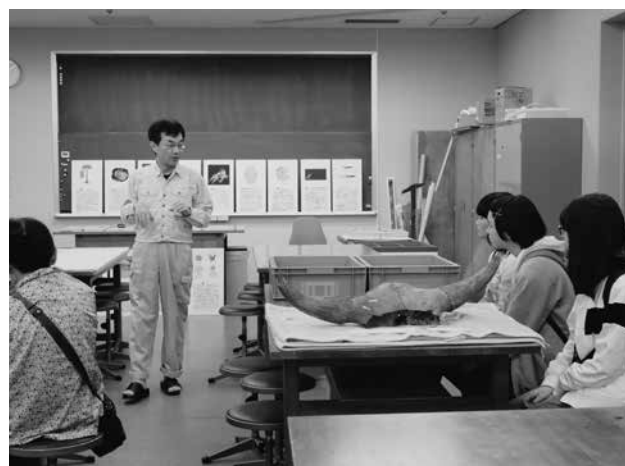
(公民館研修等を除く)



博物館探検シート (縄文)

イ. 団体体験学習プログラム

児童・生徒が博物館の資料を用いながら体験学習をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効である。当館では、入館団体の多様なニーズに対応すべく、事前申込制で「原



体験学習「化石にふれてみよう」



体験学習「原始・古代のワザに挑戦 火おこし」



体験学習「昔の道具体験 火をつかう道具」



学習プログラム「フタバスズキリュウの不思議」



体験学習「昔の道具体験 石臼体験」



学習プログラム「会津のむかし レクチャー」



体験学習「昔の道具体験 道具の観察」



学習プログラム「土器をスケッチしよう」



美術部とのコラボ

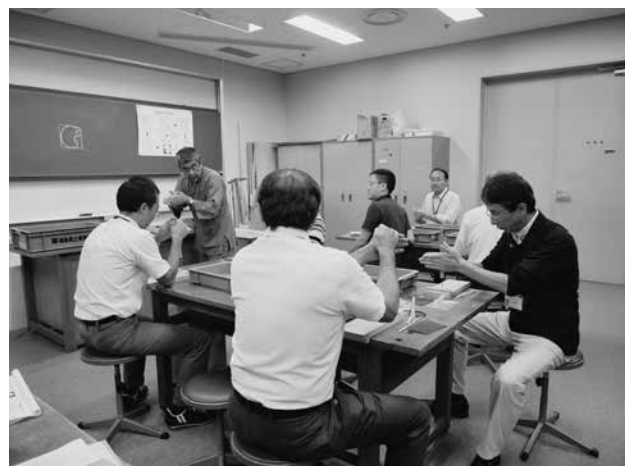


博物館を利用した学校教育プログラム研修会

ウ. 指導者向け研修

学校教育・生涯教育関係者を対象に博物館利用指導者研修会を実施していたが、平成29年度から主に教職員の博物館利用促進を図るために、博物館を利用した日常授業と博物館見学を組み合わせた学習プログラムの取り組み方、さらに個別の体験学習、日常授業を進めるうえでの参考情報などを提供する研修会として内容を一新し、博物館を活用した学校活動の充実をねらう講習会として「博物館を活用した学校教育プログラム研修会—小学校社会科：会津地方の古墳時代をどう教材化するか?—」と題して実施した。

今年度は、「古墳時代」をテーマに取り上げ、8月18日(金)に8名の参加者による実施した。



博物館を利用した学校教育プログラム研修会2

平成29年度 博物館を活用した校教育プログラム研修会

時間	内容	場所
10:00~10:10	開講式・オリエンテーション	視聴覚室
10:10~10:30	研修1「当館における学校団体活用プログラムの概要」	視聴覚室
10:30~11:30	研修2「教科書分析/発掘調査成果からの補足事項【巨大古墳と豪族・大和朝廷と国土の統一】」	視聴覚室
11:30~12:00	研修3「展示資料の活用ポイント」	展示室
— 昼 食 —		
13:00~13:45	研修4「児童対象プログラム【会津の古墳時代を探ろう】体験」	視聴覚室
13:55~15:25	研修5「体験学習メニューの実際：勾玉作り」	実習室
15:25~15:50	博物館活用に関する意見交換	実習室
15:50~16:00	閉講式・修了証授与	実習室

定員30名

エ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で学習用具・教材等の貸出を行っている。

○学習用具・教材等の貸出実績

- ・実体顕微鏡 2台
特定非営利活動法人 Wunder ground
- ・実体顕微鏡照明装置 2台
特定非営利活動法人 Wunder ground
- ・実体顕微鏡用接眼レンズ(×10) 2組
特定非営利活動法人 Wunder ground
- ・実体顕微鏡用接眼レンズ(×20) 2組
特定非営利活動法人 Wunder ground

オ. ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、学校等教育機関の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当している。

ゲストティーチャー実施一覧

月日	講師	分野	内容	実施先	科目
6月14日	田中 伸一	歴史	会津から世界へ～見つけよう宝人	会津若松市立東山小学校	総合的な学習の時間
9月13日	小林めぐみ	美術	地域に根ざす日本の伝統文化を学ぶ	会津若松市立第二中学校	総合的な学習の時間
9月27日	高橋 充	歴史	ガイドダンス	福島県立医科大学	芸術と文化
10月 3日	川延 安直 小林めぐみ	美術	絵画資料から見る幕末の政治・社会	会津坂下町立坂下中学校	社会
10月 4日	川延 安直	美術	博物館と美術館①	福島県立医科大学	芸術と文化
10月10日	高橋 満 田中 伸一	震災	震災遺産に学ぶ震災の記憶・記録と防災	福島県立南会津高等学校	総合的な学習の時間
10月11日	川延 安直 小林めぐみ	美術	絵画資料から見る幕末の政治・社会	会津坂下町立坂下中学校	社会
10月11日	高橋 充	歴史	檜枝岐文書の世界	福島県立医科大学	芸術と文化
10月11日	相田 優	自然	環境教育～自然に学ぶ	慈光第二幼稚園	行事
10月13日	相田 優	自然	環境教育～自然に学ぶ	会津慈光こども園	行事
10月18日	内山 大介	民俗	妊娠と出産をめぐる民俗	福島県立医科大学	芸術と文化
10月25日	内山 大介	民俗	死と葬送をめぐる民俗	福島県立医科大学	芸術と文化
11月11日	田中 伸一 大里 正樹 猪瀬 弘瑛 栗原 祐斗	震災	被災地フィールドワーク	福島県立会津高等学校	総合的な学習の時間
11月15日	猪瀬 弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県①	福島県立医科大学	芸術と文化
11月22日	猪瀬 弘瑛	自然	化石の宝庫・福島県②	福島県立医科大学	芸術と文化
12月 6日	高橋 充	歴史	伊達政宗からの手紙	福島県立医科大学	芸術と文化
12月13日	民俗 分野	民俗	昔の道具	会津若松市立城北小学校	社会

カ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。平成29年度は5校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験してもらった。

○職場体験受け入れ実績（児童・生徒のみ）

- 福島県立若松商業高等学校
（2年生：4名） 3日間
- 会津若松市立第四中学校
（2年生：4名） 2日間
- 会津若松市立第一中学校
（2年生：5名） 2日間
- 三島町立三島中学校
（2年生：1名） 2日間
- 北塩原村立第一中学校
（2年生：3名） 1日間



職場体験 解説員の受付体験



職場体験 民俗分野 紙すき体験のやり方

キ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施している。平成29年度は県内出身および県内大学に在学する学生11名を受け入れた。演習「体験学習メニューの企画立案」では、新しい体験学習メニューを企画した。実際に実施することを想定しながら、プレゼンテーション形式で発表したのち積極的な意見交換を行うことができた。

実習期間 8月22日(火)～8月27日(日)

実習生所属大学一覧

No.	大 学 名	人数
1	茨城大学	1
2	神奈川工科大学	1
3	東北芸術工科大学	1
4	東洋大学	1
5	長岡造形大学	1
6	新潟大学	1
7	盛岡大学	1
8	山形県立米沢女子短期大学	2
9	立命館大学	1
10	立正大学	1
合 計		11

福島県立博物館 平成29年度博物館実習日程・内容

月日	時 間	内 容	担 当	場 所
8月 23日 (火)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:00～ 9:10	実習生紹介	学習支援班	事務室
	9:10～ 9:50	オリエンテーション	学習支援班	第2会議室
	10:00～12:00	事業の概要・館内施設見学	学芸課長・学習支援班	視聴覚室・管理棟
	— 昼 食 —			
	13:00～13:30	博物館の資料と調査研究	資料整理・保存班	第2会議室
	13:30～14:00	博物館の広報普及活動	広報班	第2会議室
	14:00～14:30	博物館の展示	展示・企画班	第2会議室
	14:40～16:00	常設展・企画展の自由見学	学習支援班	展示室
16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第2会議室	
24日 (水)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	歴史資料の取り扱い	歴史分野	第2会議室
	— 昼 食 —			
	13:00～15:50	民俗資料の取り扱い	民俗分野	第1収蔵庫ほか
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班	図書室
16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班	第2会議室	
25日 (木)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	自然資料の取り扱い	自然分野	実習室
	— 昼 食 —			
	13:00～15:50	資料の保存	保存科学分野	実習室
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理・保存班	図書室
16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班	第2会議室	
26日 (金)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	美術資料の取り扱い	美術分野	第2会議室
	— 昼 食 —			
	13:00～15:50	考古資料の取り扱い	考古分野	実習室・第2収蔵庫
	16:00～16:30	図書資料の整理・登録	資料整理班	図書室
16:30～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班	第2会議室	
27日 (土)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	演習①体験学習メニューの体験	学習支援班・考古分野	実習室
	— 昼 食 —			
	13:00～16:20	演習②体験学習メニューの企画立案	学習支援班	実習室
16:30～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第2会議室	
28日 (日)	8:50～ 9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班	第2会議室
	9:10～12:00	演習③体験学習メニューの企画立案・発表準備	学習支援班	実習室
	— 昼 食 —			
	13:00～15:50	演習④発表・意見交換	学習支援班	実習室
	16:00～16:30	実習を終えて(感想・意見交換)	学習支援班	第2会議室
16:30～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班	第2会議室	



博物館実習「美術資料の取り扱い」



博物館実習「考古資料の取り扱い」

(3) 生涯学習・研究支援

ア. 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物、および博物館資料に関連した図書を配架。図書は図鑑・事典類、調べ学習への対応、見て楽しむ本の3項目を重視して選定し、入館者が自由に閲覧できる。現在の配架図書数は2,662冊である。

相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場としても利用される。

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し、実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：3件13点 歴史：17件294点

美術：6件12点 民俗：4件16点 計30件335点

ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて、学芸員を講演会や講座に講師として派遣している。

平成29年度の派遣回数は25回であった。

講師派遣一覧

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	主催
1	5月11日	大里 正樹	民俗	地域の魅力を見つめなおそう～身近な地域の伝統的な祭事を学ぶ～	会津坂下青年会議所
2	5月25日	荒木 隆	考古	会津の歴史	磐梯町教育委員会
3	5月26日	高橋 充	歴史	会津三十三観音巡礼歌について	会津坂下町教育委員会
4	6月 1日	高橋 充	歴史	会津三十三観音	東北労働金庫喜多方支店
5	6月 1日	竹谷陽二郎	自然	会津盆地と磐梯山、その生い立ちを探る	会津若松市教育委員会
6	6月 9日	小林めぐみ	美術	茶の湯の歴史と会津本郷焼	会津美里町公民館
7	6月10日	高橋 充	歴史	会津三十三観音と御詠歌	磐梯町恵日寺資料館
8	6月17日	内山 大介	震災遺産 保全チーム	博物館資料としての「震災遺産」～場所・モノ・物語の継承のために～	ふくしま歴史資料保存ネットワーク
9	6月29日	高橋 満	震災遺産 保全チーム	文化庁指定文化財企画・展示セミナー	文化庁
10	7月 5日	高橋 充	歴史	会津三十三観音巡礼歌について2	会津坂下町教育委員会
11	7月 5日	内山 大介	民俗	伊佐須美神社御田植祭の歴史と民俗	会津美里町教育委員会
12	7月 9日	阿部 綾子	歴史	保科家の歴史	猪苗代の偉人を考える会
13	7月28日	荒木 隆	考古	会津の歴史	磐梯町教育委員会
14	8月13日	江川トヨ子 大里 正樹 弦巻 優太	民俗	紙漉き体験	福島民報社
15	8月23日	山口 拡	民俗	忘れかけた年中行事	喜多方市中央公民館
16	9月 2日	内山 大介	民俗	民俗資料の保全をめぐる限界と可能性～福島県における民具の救出を事例に～	人間文化研究機構

No.	月日	講師	分野	演題・内容等	主催
17	10月11日	猪瀬 弘瑛	自然	化石講演会	いわき市アンモナイトセンター
18	10月28日	高橋 充	歴史	伊達政宗	仙台市博物館
19	11月14日	高橋 充	考古	美里大学「資料で読む戊辰戦争」	会津美里町公民館
20	12月 2日	内山 大介	民俗	福島県における震災・原発被災と博物館活動～文化財の救出から「震災遺産」の保全へ～	科学研究費基盤研究(S)「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」
21	1月28日	荒木 隆	考古	石背国建国1300年と国指定史跡上人壇廃寺跡整備事業	須賀川市
22	2月10日	山口 拓	民俗	銭湯で働く人々～浴場業者のライフストーリー	横浜開港資料館・横浜市歴史博物館
23	2月17日	高橋 充	歴史	会津三十三観音と御詠歌	喜多方市教育委員会
24	2月18日	竹谷陽二郎	自然	ミクロの化石からアートへ	NPO法人 wunderground
25	3月 4日	竹谷陽二郎	自然	ミクロの化石からアートへ	NPO法人 wunderground

(4) 博物館友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

ア. 友の会の概要

①発足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

平成30年3月17日に開催した。平成29年度の事業・会務・会計決算等の報告と平成30年度の計画を協議し、承認された。また、各サークルの活動・会計の報告が行われた。

④平成29年度会員数

個人会員：176 家族会員：39
高校生会員：0 賛助会員：5 合計：220名

イ. 平成29年度事業概要

(ア) 研修旅行

秋の研修旅行を実施した。上野の東京国立博物館にて開催されていた特別展「興福寺 運慶」を観覧する企画で、大変有意義な研修旅行となった。春は、最低人員に達せずやむなく中止となった。

○「春の研修旅行」『青森・弘前 歴史と文化、伝統をめぐる旅』（中止）

○「秋の研修旅行」『興福寺 運慶』

研修先：東京国立博物館

期 日：平成29年11月9日(木)

参加者：会員30名

(イ) 会報の発行

第113号・第114号・第115号と3回の会報を発行し会員に配布した。会長のご挨拶、研修旅行の報告、サークル活動の様子や「友の会映画祭」の報告、さらに私のライフワークの紹介など会員の顔が見える紙面作りに努めた。

(ウ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

○友の会会員向け企画展内覧会への参加

4月28日(金)：「自然をうつす」内覧会

25名参加

7月14日(金)：「ふくしま5億年の自然史」
内覧会

35名参加

10月6日(金)：「発掘ふくしま4」内覧会

30名参加

1月12日(金)：「山水憧憬」内覧会

43名参加

○博物館講座への協力

博物館の各種講座へ多くの会員が参加した。

○主な行事

4月1日(土)：会津室内楽団Coderanniコン
サート

211名参加

10月28日(土)：友の会映画祭

午前「アマゾン大冒険」

50名参加

午後「天地明察」

153名参加



秋の研修旅行「東京国立博物館」



「ふくしま 5 億年の自然史」友の会内覧会



「発掘ふくしま 4」友の会内覧会



「山水憧憬」友の会内覧会



友の会映画会

ウ. サークル活動

化石・鉱物探検隊、古文書愛好会の2サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

1. 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数27名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成29年度は次の活動を行った。

- ① 4月16日 西会津町漆窪林道での化石採集
- ② 5月14日 北塩原村大滝での鉱物採集
- ③ 6月11日 下郷町大川右岸での化石採集
- ④ 7月9日 山形県米沢市唐戸屋鉱山での鉱物採集
- ⑤ 8月20日 栃木県西沢金山での鉱物採集
- ⑥ 9月23日 化石・鉱物探検隊第2回成果展への取り組み（構想と作業日程）について協議
- ⑦ 10月1日 郡山市熱海町母成での鉱物採集
- ⑧ 10月7日 塙町西河内 藤田砦業採石場での化石採集（博物館自然史講座への協力）
- ⑨ 10月8日 福島県立博物館実習室での化石のクリーニング（博物館自然史講座への協力）
- ⑩ 12月3日 化石・鉱物研修（鑑定）会の開催
- ⑪ 平成30年3月4日 総会・研修会の開催

2. 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は随時20～25名が参加し、活動を続けてきた。メンバーは5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を用いている。築田家は江戸時代に若松城下の検断（町役人）をつとめた家で、その文書は城下の諸相を伝える良質な資料であり、解読を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。近年では平成26年度から明治元年の公用簿籍（戊辰戦争直後の若松城下の記録）をテキストとし、戊辰戦争から150年の節目を迎える平成30年度に読み終えるのを目標としている。

平成29年度の活動人数は25名で、前年度に引き続き月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に文字・内容の検討を行った。

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

福島県立博物館 平成29年度 広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B 2	企画展「自然をうつす～漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性～」 2,500枚 企画展「ふくしま 5億年の自然史」 2,500枚 企画展「発掘ふくしま4—土中の声に耳をすませば」 2,500枚 企画展「山水憧憬—雪舟・蕪村・応挙水墨の山野に遊ぶ—」 2,000枚 平成30年度企画展「匠のふるさと会津—技と祈りの建築文化誌」 2,500枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・J A・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A 4	企画展「自然をうつす～漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性～」 25,000枚 企画展「ふくしま 5億年の自然史」 30,000枚 企画展「発掘ふくしま4—土中の声に耳をすませば」 30,000枚 企画展「山水憧憬—雪舟・蕪村・応挙水墨の山野に遊ぶ—」 60,000枚 (内30,000枚は新聞折込み) 平成30年度企画展「匠のふるさと会津—技と祈りの建築文化誌」 63,000枚 (内28,150枚は新聞折込み)	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・J A・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所 その他、福島民友・福島民報への新聞折込み(会津若松市内の購読世帯)
博物館だより (博物館の広報誌)	A 4 8頁	3,500冊×4回=14,000冊	県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の国立・県立図書館・大学図書館 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	20×39.4cm 観音折り	45,000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・J A・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
月行事予定表	A 4 (館内印刷)	14,000枚×6回=84,000枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 会津若松市記者クラブ 会津若松市・周辺市町村の観光・広報係 県内主要文化施設
プレス・リリース (企画展の記者発表 などマスコミ向けイ ベント情報の提供)	A 4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

季刊
10月・11月・12月



博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY
URL: <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

126

福島県立博物館

発掘ふくしま4

秋の企画展



驚き連発、考古学の旅!

平成 29 年 10 月 7 日(土)～11 月 26 日(日)

博物館だより126号

イ. 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

展示会	看板 (駅前・博物館周り)	新聞・その他
春の企画展「自然をうつす～漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性～」	○	—
夏の企画展「ふくしま 5 億年の自然史」	○	—
秋の企画展「発掘ふくしま 4—土中の声に耳をすませば」	○	—
冬の企画展「山水憧憬—雪舟・蕪村・応挙 水墨の山野に遊ぶ—」	○	福島民報(1/26)・ 福島民友(1/27)
次年度春の企画展「匠のふるさと会津—技と祈りの建築文化誌」	○ (次年度)	福島民報(3/26)・ 福島民友(3/27)
「会津若松十日市・会津薬市」協賛広告	—	福島民報(1/9)・ 福島民友(1/7)

ウ. ホームページ

当館ではホームページ (URL: <http://www.general-museum.fks.ed.jp/>) を開設し、館の紹

介をはじめ、展示やイベントなどの各種情報、出版物の案内などを発信している。

平成29年度ホームページアクセス件数 (ページ数)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
33,611	41,097	35,952	38,277	42,208	42,650
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
39,279	33,386	29,679	41,674	39,838	45,180
合計					
462,831					

エ. ソーシャル・ネットワーキング・サービス

当館ではより身近で親しみやすいかたちでの広報活動を目指し、平成27年度末(3月25日)よりソーシャル・ネットワーキング・サービス「facebook(フェイスブック)」の公式ページ (URL: <https://www.facebook.com/fukushimamuseum/>) を公開している。週に1～2回程度、展示やイベントレポートを投稿するとともに、春の「けんぱく桜だより」等、季節に合わせた当館の近況の積極的な発信にも努めている。ページのフォロワーは平成28年度末時点の411件(「いいね!」408件)から、平成29年度末で663件(「いいね!」622件)に達し、1年間で新たに200件以上のフォロワーおよび「いいね!」を獲得している。

オ. 記事・放映

新聞・テレビ・ラジオ等のマスコミによる、各種行事の取材に基づいた記事・放映は次の通りである。

(ア) 春の企画展「自然をうつす」

- 福島民報「県立博物館関谷さんの漆作品紹介 今日から企画展」(4月29日)
- 福島民友「漆芸家関谷さんの企画展今日開幕 若松県立博物館」(4月29日)
- 福島民報「関谷さん漆作品展開幕 県立博物館 創作秘話を紹介」(4月30日)
- 福島民友「県博春の企画展 作家が苦労語る」(5月2日)
- 福島民友「自然と向き合い写生 県立博物館企画展で講座」(5月9日)
- 河北新聞「会津の漆芸家関谷さん個展 福島県立博物館」(5月25日)
- 福島民友「名品さんぽ 蒔絵盤 穂波 県立博物館」(5月29日)

(イ) 夏の企画展「ふくしま 5 億年の自然史」

- 読売新聞「南相馬で貝の化石 新種か」(7月13日記事)

- ・河北新報「福島県立博物館の学芸員ら 新種の化石発見か」(7月13日記事)
 - ・福島民友「県内最古、新種の化石か」(7月13日記事)
 - ・福島民報「新種の化石発見」(7月13日記事)
 - ・福島民友「学術的貢献うれしい」(7月14日記事)
 - ・ふくしまFM「キビタンスマイル～ふくしまからチャレンジはじめよう!～」(7月14日放送)
 - ・福島民友「腕足類の化石展示」(7月15日記事)
 - ・朝日新聞「県内最古の化石か 南相馬で見つかる」(7月15日記事)
 - ・福島民報「新種?腕足類の化石展示」(7月15日記事)
 - ・福島民友「腕足類の化石展示」(7月16日記事)
 - ・福島民友「社説 興味と関心の芽を育てよう」(7月23日記事)
 - ・毎日新聞「南相馬の貝化石 新種か」(7月24日記事)
 - ・河北新報「化石が語る福島5億年」(7月31日記事)
 - ・福島民友「[本県の5億年]学ぼう」(8月8日記事)
 - ・福島民報「化石の見方を解説」(8月12日記事)
 - ・福島民友「生きて活動し続ける」(8月16日記事)
 - ・福島民報「南相馬で発見の腕足類化石 新種と特定」(8月24日記事)
 - ・福島民友「新種と特定 名前決定」(8月24日記事)
 - ・ふくしまFM「ここからモーニング」(8月24日放送)
 - ・毎日新聞「腕足類の新種と特定」(8月25日記事)
 - ・河北新報「新種の腕足類 アイノサウエンシスと命名」(8月25日記事)
 - ・福島民友「新種特定 地道な研究」(9月25日記事)
- (ウ) 秋の企画展「発掘ふくしま4」
- ・福島民報「県内の考古学情報発信 県立博物館 きょうから企画展」(10月7日記事)
 - ・福島民友「県内の『考古学』紹介 県立博物館 きょうから企画展」(10月7日記事)
 - ・福島民友「考古学の新知見語る」(10月16日記事)
 - ・福島民報「75遺跡の資料1200点 来月26日まで 県立博物館秋の企画展」(10月18日記事)
 - ・しんぶん赤旗「東北唯一の出土品も 福島の古墳 講演会」(11月8日記事)
 - ・しんぶん赤旗「縄文人に“熱い視線” 福島県立博物館で企画展」(11月12日記事)
 - ・しんぶん赤旗「縄文人ゲノムで講演 福島核DNA 抽出成功を解説」(11月25日記事)
- (エ) 冬の企画展「山水憧憬」
- ・福島民報「きょうから雪舟・蕪村・応挙展 県立博物館」(1月13日)
 - ・福島民友「雪舟の国宝展示 きょうから県立博物館」(1月13日)
 - ・福島民友「おでかけスポット情報 話題の場所 県立博物館冬の企画展 山水憧憬」(1月26日)
 - ・福島民友「新たに雪舟「秋景画」国宝18日まで 県立博物館展示替え」(1月31日)
 - ・福島民報「山水図「秋景」展示開始 県立博物館 雪舟の国宝」(1月31日)
- (オ) 特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展2016」
- ・福島民友「県立博物館 あすから未来展 11日から震災遺産展」(2月3日記事)
- (カ) 特集展「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展2017」
- ・読売新聞(全国)「震災7年 まなざしの軌跡 喪失の象徴を写し取り」(3月7日)
- (キ) 特集展「震災遺産を考える」
- ・福島民友「震災の記憶 後世に」(3月2日記事)
 - ・福島民友「震災の記憶 継承へ」(3月3日記事)
 - ・福島民報「きょうから震災資料展示」(3月3日記事)
 - ・福島民友「段ボールがトイレに」(3月20日記事)
 - ・KFB「ふくしまスーパーJチャンネル」(3月7日取材)
 - ・福島テレビ「サタふく～ふくしま調査隊」(3月7日取材、3月17日放映)
 - ・NHK会津若松「はまなかあいづToday」ほか(3月16日取材)
 - ・ラジオ福島「オレンジ広場」(3月9日放送)
- (ク) 移動展「東北の仕事着コレクション」
- ・夕刊いわき民報「東北各地の“仕事着” 紹介中 来月2日まで開催 県立博物館移動展 市暮らしの伝承郷」(6月6日記事)
 - ・夕刊いわき民報「(ぶらっとカメラ) 丈夫で機能性、デザイン性に富む—市暮らしの伝承郷特別展 東北の仕事着コレクション」(6月7日記事)
 - ・福島民報「東北の仕事着集結 来月2日までいわき 風土に根ざした37点」(6月5日記事)
 - ・福島民友「知恵詰まった衣服 いわき 来月2日まで仕事着展」(6月7日記事)
 - ・福島民友「仕事着の魅力解説 いわき・暮らしの伝承郷」(6月21日記事)

(ケ) その他

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト

- ・京都新聞(京都)「文化、歴史、自然の豊かさ再発見 福島の未来を考えよう」(7月21日)
- ・京都新聞(京都)「福島の現状・課題探る 芸術文化活動からアプローチ 映画監督ら語り合う」(8月6日)
- ・福島民友「震災後の福島伝える 郡山で「文化連携」成果展」(9月7日)
- ・福島民報「震災に負けず活動…写真に 文化連携プロジェクト成果展 18日まで 郡山」(9月7日)
- ・京都新聞(京都)「ソフィア 京都新聞文化会議 京で語る、福島を通じて語る」(9月8日)
- ・福島民報「福島の未来 芸術文化で探る きょうから安積歴史博物館 写真展やトーク」(9月13日)
- ・福島民友「文化財保護の在り方に意見」(10月12日)
- ・大分合同新聞(大分)「ベップ・アート・マンス 2017 福島県の「今」伝える 3会場で写真などの作品展」(11月11日)
- ・福島民報「あぶくま抄・論説 福島の今、未来」(11月26日)
- ・京都新聞(京都)「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 1～17日、京都市内で 山折さんらのトーク、作品展も」(11月29日)
- ・京都新聞(京都)「福島の今 アートで感じて 京の4会場で作品展」(12月2日)
- ・神戸新聞(兵庫)「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展「語りがたきものに触れて」」(12月5日)
- ・京都新聞(京都)「社会へ普遍の問いかけ 震災後の福島見つめる展覧会」(12月9日)
- ・地域創造レター「今月のレポート 京都市 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展「語りがたきものに触れて」」(1月25日)
- ・福島民報「原発避難者や障害者向き合い方を考える 若松でトークイベント」(2月19日)

震災遺産保全事業

- ・福島民報「論説 震災遺産の継承 散逸を防ぐ共感と協力」(6月17日記事)
- ・福島民友「震災遺産を後世に 郡山でシンポ」(6月18日記事)
- ・NHK総合(全国)「明日へつなげよう 復興サポート 震災遺構～みんなでかたりつぐ未来へのメッセージ～」(8月6日放映)
- ・朝日新聞「浜通りの被災地で会津高生徒ら学習」(11月12日記事)
- ・総合報道『POPEYE (ポップアイ)』No.233 (広

告業界誌)「看板の使命—震災復興・街づくりから探る看板の価値—」(2月15日刊行)

- ・福島民報「論説 災害の歴史と教訓 時を超えて語り継ぐ」(11月16日記事)
- ・朝日新聞「福島から今」(2月19日記事)
- ・NHKラジオ第一(全国)マイあさラジオ 明日の人「『考古学で震災を伝える』博物館の取組み」(3月10日放送)

(2) 公聴活動

博物館で開催した次の行事について、利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を中期目標の平成29年度達成度評価の資料とすると同時に、データを分析し、館の事業の改善に努めた。

平成29年度 アンケート実施事業一覧

常設展	
企画展	自然をうつす～漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性～
	ふくしま 5億年の自然史
	発掘ふくしま4—土中の声に耳をすませば—
特集展	山水憧憬—雪舟・蕪村・応挙 水墨の山野に遊ぶ—
	震災遺産展—災害の歴史と東日本大震災— はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展 アートで伝える考える福島の今、未来展 at Fukushima Museums
ミュージアムイベント	玄如節と会津の民謡
講座	館長講座
	歴史講座
	民俗講座
	美術講座

(3) 出版事業

平成29年度は次の出版物を刊行した。

ア. 企画展図録

福島県立博物館企画展図録

「自然をうつす～漆芸家・関谷浩二が挑んだ漆表現の可能性～」	800冊
「ふくしま 5億年の自然史」	1,000冊
「発掘ふくしま4」	1,000冊
「山水憧憬」	800冊

イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第32号 600冊

ウ. 年報

福島県立博物館年報 第31号 400冊

7. 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日(火)である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成24年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の3つの柱からなっている。

1. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。

(1) 文化財・自然資料レスキュー

ア. 平成29年度の活動

(ア) レスキュー作業の体制

前年度から継続して「福島県被災文化財等救援本部」(以下「救援本部、当館は副代表・幹事・事務局」)に参画して活動した。幹事会3回、会議1回。

(イ) 被災資料への対応

震災後から受け入れてきた資料について、整理作業などを継続し、条件が整ったものについては返還した。

警戒区域の再編や解除が進み、住民の帰還が始まる中で、個人所有の資料の調査依頼があった(1件)。

(ウ) 救出された資料の展示公開

- ①当館テーマ展「ふるさとの考古資料6【飯館村】遺跡探訪」(平成28年度～5月14日)
- ②当館テーマ展「託されたおもい 寄贈・寄託の名品たち」(6月10日～7月17日)
- ③当館テーマ展「ふるさとの考古資料7【楢葉町歴史資料館】移動展」(7月1日～平成30年5月20日)
- ④当館企画展「ふくしま5億年の自然史」(7月16日～9月18日)
- ⑤当館企画展「発掘ふくしま4—土中の声に耳をすませば—」(10月7日～11月26日)

(エ) 研修会・研究会への参加

被災資料の保全に関する講演会やシンポジウムなどに参加した。

(オ) 5年間のレスキュー活動紹介パネル展示

震災後5年間の活動の内容をまとめたパネル展示を、当館展示室内の展示ロビー・エントランスホールにおいて行った。

イ. 今後の課題

(ア) 受け入れてきた文化財・自然資料への対応(継続)

(イ) 旧警戒区域からの文化財・自然資料の搬出・保全(継続)

- ①個人所有資料の保全
- ②救出された文化財・自然資料の収蔵・公開施設についての検討

(ウ) 救出された文化財・自然資料の展示公開(継続)

(エ) 今後の災害に備えたしくみづくりや準備

当館での被災文化財等の受け入れ状況

(平成29年度末現在)

受入年度	所有者	資料概要	点数	要因	整理状況	現状
平成23	1 旧相馬女子高校	土器片等	195点	旧校舎収蔵施設の損壊	済み	採集
	2 いわき市の個人	古文書・祭礼道具等	13件 (1509点)	地震による蔵の損壊	未了	受託・一部返還
	3 南相馬市の個人	野馬追甲冑等	12件 (16点)	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	4 南相馬市の個人	文書	1点	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	5 双葉町教育委員会	古文書	253点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	6 南相馬市の神社	棟札・像・文書等	22点	津波による神社の損壊	済み	一部返還
	7 須賀川市の神社	絵馬	109点	地震による神社の損壊	済み	受託・一部返還
	8 須賀川市の個人	雛人形・五月人形等	4点	地震による建家の損壊	済み	受贈
	9 双葉町教育委員会	刀剣・火縄銃	7点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	10 郡山市の個人	近代史料・書籍等	961点	地震による蔵の損壊	済み	返還済み
	11 双葉町の個人（教育委員会寄託）	太刀	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
		十三仏画	1点			
	12 浪江町の寺院	両界種子曼荼羅	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	13 福島市の個人	雛人形・古写真等	17件 (22点)	地震による建家の損壊	済み	受贈・受託
	14 伊達市の個人	土器・石器・凶書・地図	3件 (1647点)	地震による蔵の損壊	済み	受贈
	15 南相馬市の寺院	膳碗漆器	48件 (79点)	原発事故避難により管理不能	未了	受託
	16 会津工業高校	陶磁器	8点	地震による損壊	不要	返還済み
17 南相馬市鹿島歴史民俗資料館	植物化石標本	62件 (66点)	地震による収蔵施設の損壊	済み	返還済み	
平成24	18 浪江町の個人	書跡	2点	原発事故避難により管理不能	不要	返還済み
	19 富岡町	16ミリフィルム	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	20 南相馬市の個人	化石標本	約400点	地震による収蔵施設の損壊	済み	受託
	21 大熊町教育委員会	考古資料（落合B遺跡）	4943点	原発事故避難により管理不能	済み	受託
考古資料（棚和子遺跡）		10箱				
和鏡		1点				
平成25	22 浪江町教育委員会	棚塩地区公民館地図	1点	地震・津波による建物損壊	不要	返還済み
	23 葛尾村の寺院	仏像・仏画・経典等	5件 (604点)	原発事故避難により管理不能	済み	返還済み
	24 双葉町教育委員会	清戸迫横穴壁画模写	1点	原発事故避難により管理不能	不要	受託
	25 双葉町教育委員会	フタバクジラ化石他	27件	原発事故避難により管理不能	済み	受託
	平成28	26 浪江町の個人	大型民具	21点	地震による建物損壊、解体予定	済み
27 南相馬市小高区		石仏	5点	津波被害による処分予定	済み	採集

(2) ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

ア. 民謡 会津磐梯山と玄如節

- (ア) 日 時 平成29年 6月24日(土)
13時30分～15時
- (イ) 会 場 エントランスホール
- (ウ) 参加者数 79人
- (エ) 共 催 玄如節顕彰会
- (オ) 内 容

玄如節は、即興の掛け合いで唄うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。今回のイベントでは、会津や全国各地の民謡を歌と踊りをまじえて披露し、最後に来館者の方々から募集した玄如節の歌詞を即興の歌で披露した。

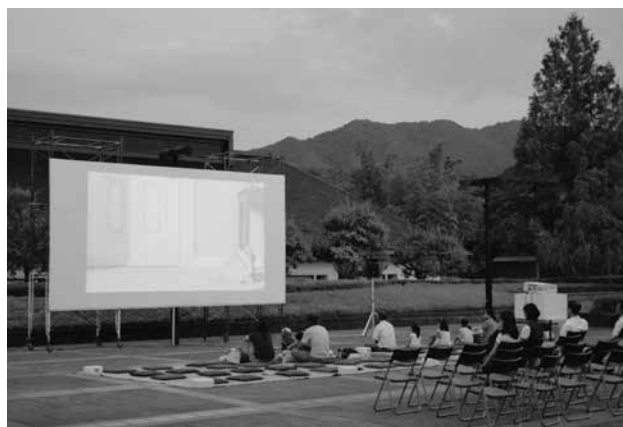


民謡 会津磐梯山と玄如節

イ. 夏休み子ども野外映画会「ペット」

- (ア) 日 時 平成29年 7月17日(月・祝)
19時～21時 ※博物館閉館後
- (イ) 会 場 前庭
- (ウ) 参加者数 40人
- (エ) 内 容

ミュージアムイベントとして前年に引き続き野外映画会を開催した。幅広い年齢層に楽しんでいただく映画として「ペット」を上映した。開放的な雰囲気の中で映画を味わえる野外映画会として楽しんでいただいた。



夏休み子ども野外映画会 ペット

ウ. 会津磐梯山・市民盆踊り大会

- (ア) 日 時 平成29年 8月15日(火)
19時～20時30分
※博物館閉館後
- (イ) 会 場 前庭
- (ウ) 参加者数 130人
- (エ) 共 催 会津磐梯山盆踊り保存会
- (オ) 内 容

博物館前庭に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大震災でやむなく生命を奪われてしまわれた方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。



会津磐梯山・市民盆踊り大会

エ. 夏休みナイトミュージアム

- (ア) 日 時 平成29年 8月19日(土)
17時30分～19時
※博物館閉館後
- (イ) 会 場 常設展示室
- (ウ) 参加者数 78人
- (エ) 講 師 相田・高橋満・大里・栗原・佐藤

(オ) 内 容

いつもと違う雰囲気の中、真暗な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。例年参加申込み者数が多いため、一昨年度から定員を20名増員した。



ミュージアムイベント ナイトミュージアム

オ. ハワイアン in けんぱく

(ア) 日 時 平成29年 8月26日(土)
13時30分～15時

(イ) 会 場 講堂

(ウ) 参加者数 130人

(エ) 出 演

モハル・ハワイアンズ
フラ・ホニ・ケ・アロハ (辻フラスクール)
メグミフラスクール
ポボレファ
マハロヌイフラスタジオ
ウクレフレンド

(オ) 内 容

前年度より開催時期を早めて夏の暑い時期にハワイアン音楽を聴いていただき、いつもとは少し違った博物館に親んでもらった。福島県内で活躍する多数の出演者の協力もあり、参加者に楽しんでいただいた。



ハワイアン in けんぱく

カ. 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」
コンサート～ものがたりの音楽～

(ア) 日 時 平成29年 9月18日(月・祝)
13時30分～15時

(イ) 会 場 講堂

(ウ) 参加者数 275人

(エ) 出 演 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」の皆様

(オ) 内 容

会津地域の室内楽普及を目的として、平成23年7月に音楽教育学研究者の峯岸創によって設立された楽団による演奏。第1部「懐かしの映画音楽」第2部 朗読と管弦楽による音楽物語「窓ぎわのトットちゃん」第3部「劇・絵画の中のクラシック」と3部構成で行われた。また、学芸員が第2部から第3部の間に「博物館ワンポイントレッスン」のコーナーを設定し、企画展「発掘ふくしま4」の見所を紹介した。音楽好きのお客様にも博物館を身近に感じていただくよい機会になった。

キ. クリスマス・ジャズ・ライブ

(ア) 日 時 平成29年12月17日(日)
13時30分～15時

(イ) 会 場 エントランスホール

(ウ) 参加者数 191人

(エ) 出 演 羽賀秀樹氏 (ギター)、
眞鍋 伸氏 (ギター)

(オ) 内 容

毎年恒例となっている12月のクリスマスコンサート。音楽好きの方々にも博物館に親んでもらう機会とするために実施しており、毎回好評を博している。今回は会津地方在住のジャズ音楽演奏家2人による、ボロディン原曲「ストレンジャー・イン・パラダイス」などのジャズ音楽、「川の流れるように」など歌謡曲に加

え、「ホワイト・クリスマス」などのクリスマスソングも交えて約15曲演奏して頂き、0歳から大人まで幅広世代の方に楽しんで頂いた。



クリスマス・ジャズ・ライブ

ク. 会津の彼岸獅子

- (ア) 日 時 平成30年3月11日(日)
13時30分～15時
(イ) 会 場 エントランスホール
(ウ) 参加者数 161人
(エ) 出 演 本滝沢獅子舞保存会
(オ) 内 容

会津の春を彩る風物詩として有名なのが、春のお彼岸に三匹の獅子が舞い踊る「彼岸獅子」。通常は地区ごとに無病息災、五穀豊穡を祈って舞われるが、地区外の方々にも「会津の文化」として親しんでいただくために、県立博物館では彼岸に先駆けて館内での実演を開催した。特に本滝沢獅子舞保存会は後継者育成のために小中学生を踊り手として活動を行っている。立派な舞に感嘆していた観客は、獅子頭を外したあどけない踊り手の姿に驚くとともに、大きな拍手を送っていた。



会津の彼岸獅子

ケ. 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」 コンサート～懐かしい歌 心の旅&管楽器の魅力Ⅱ～

- (ア) 日 時 平成30年3月25日(日)
13時30分～15時
(イ) 会 場 講堂
(ウ) 参加者数 286人
(エ) 出 演 会津室内楽団「アンサンブル・Coderanni」の皆様
(オ) 内 容

9月に大変好評を博したコンサートを閑散期の3月に実施することで、博物館に足を運んでいただくきっかけづくりとして開催された。第1部「懐かしい歌 心の旅」第2部「管楽器の魅力Ⅱ」の2部構成で演奏された。今回も学芸員が「博物館ワンポイントレッスン」として、開催されている特集展「震災遺産を考える」から展示資料の紹介と春の企画展「匠のふるさと会津」から見所や関連イベントの詳細について紹介した。

8. 次世代ミュージアム機能

第2期中期目標で目標設定している次世代ミュージアム機能に関して、東日本大震災による震災の共有と継承、福島県における新たな文化事業の創出と定着を達成するため、2件のプロジェクト活動を行った。

(1) はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト ア. 事業の趣旨

平成23年3月11日の東日本大震災、その後の東京電力福島第一原子力発電所事故により福島県内には津波・地震による被害に加え放射線汚染被害、さらに、そこに由来するコミュニティの分断、風評被害が発生し、今なお多くの局面で復旧・復興が急がれている。

この状況から一步でも前進するため、福島県立博物館と福島県下の各地域の博物館、文化事業に携わる大学、NPOなどの諸団体が連携し文化活動の支援を行うことを目的に、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトを平成24年にスタートした。

平成24年度は、地域への愛着を象徴するような文化財の活用配慮し復興につながる文化的事業の継続的な展開をめざした。

平成25年度は前年度の実績を踏まえ、事業をさらに発展させるとともに、福島県立博物館と地域との協働、他分野との連携・融合、地域へのアウトリーチを積極的に推進した。

平成26年度は、震災後4年目の福島に必要な文化的な事業を、各団体との協議の上で計画し、福島県の文化の豊かさの再認識、福島県の現状の共有と発信を柱に実施した。

平成27年度は、震災・原発事故からの時間の経過と共に際立つようになった県内各地域が抱える問題・課題の差異に留意しながら、それらの解決につながる文化的なアプローチとなることを目指した。

平成28年度は、避難の長期化により地域の文化の衰退・断絶の恐れが強まる中、文化芸術による復興につながるプロジェクトを継続実施し、あわせて、県内外での震災の記憶の風化に対するため、震災・事故の記憶の作品化とそれら成果による発信・交流事業に力を入れた。

福島県を地理的に区分する「はま・なか・あいづ」は、それぞれの地域の文化や自然の特徴を生み、福島に多様な豊かさをもたらすもの。平成23年以降は、同時に、震災と原発事故による影響の差異を生み出すものともなった。豊さ

と課題。福島が大事にし、向き合わなくてはならないそれらを多くの方と共有することを目的に、平成29年度は7つのプロジェクトを実施した。

イ. 組織

1. 主催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

構成団体：南相馬市博物館、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター、福島大学芸術による地域創造研究所、いいたてまでの会、NPO法人喜多方市民活動サポートネットワーク、はじまりの美術館、事務局：福島県立博物館

2. 協力団体：

南相馬市国際交流協会／朝日座を楽しむ会／NPO法人まちづくりNPO新町なみえ／NPO法人西会津ローカルフレンズ／NPO法人Wunder ground

3. 実行委員会委員長：赤坂憲雄（福島県立博物館長）

4. 事務局：福島県立博物館

ウ. 実施期間

1. 実施期間：

平成29年4月3日～平成30年3月31日

2. プロジェクト活動期間：

平成29年4月30日～平成30年3月3日

エ. 参加アーティスト

約20人

オ. 主な活動エリア

1. 福島県内：南相馬市、浪江町、大熊町、双葉町、いわき市、飯舘村、福島市、郡山市、須賀川市、喜多方市、会津若松市、西会津町、三島町、他

2. 福島県外：京都府京都市、大分県別府市

カ. 助成

平成29年度文化庁地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業

キ. 事業内容

1. 福島交流・発信プログラム

はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの成果を活用した成果展を、県内外の歴史的建造物、文化施設、コミュニティスペース等を会場に開催。震災と復興について広く共に考え体験の場を創出するとともに、県内外諸団体との連携の構築を図った。これまでの成果となる震災・原発事故を記録した作品の整理作業、これまでの活動をまとめた記録集の

作成も行った。

【1】成果展

- 芸術文化で伝える考える福島の今、未来 in KORIYAMA (2会場)
- アートで伝える考える 福島の今、未来 in FUKUSHIMA × FUREアーカイブ事業成果展 第1期～第3期 (1会場)
- アートで伝える考える 福島の今、未来 in BEPPU (4会場)
- はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト成果展 語りがたきものに触れて (4会場)
- アートで伝える考える福島の今、未来 at Fukushima Museum (1会場)

【2】トークイベント

- 芸術文化で伝える考える福島の今、未来 in KORIYAMAトークイベント+標葉せんだん太鼓公演「文化でつなぐふるさと」など、22件開催。

【3】成果物

- 語り合う希望 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトトーク集 (750部)
- 岡部昌生フロッタージュプロジェクト記録集 (1000部)

2. 震災の記録・継承プログラム

暮らしの記憶プロジェクト

福島県沿岸部の津波被災地に残る流失家屋の基礎の撮影記録と元住人からの聞き取りによって東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故により失われた暮らしの記憶をとどめ伝えるプロジェクト。

形式：調査・制作

担当作家：安田佐智種

3. 震災の記録・継承プログラム

避難の記憶プロジェクト

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故により浪江町は二本松市に役場機能に移し、町立の小学校も二本松市に仮校舎を開校した。避難とそれがもたらした事象、取り組みの記憶を残し伝えるプロジェクト。

形式：調査・制作

担当作家：赤間政昭

4. 福島の今を伝えるプログラム

福島祝いの膳プロジェクト

多様な自然環境、歴史に育まれた福島。はま・なか・あいづ各地域の食材・郷土食のリサーチを通じて、原発事故で大きく損なわれた福島の食文化の再興を目指すプロジェクト。リサーチを県内各地で数回実施。

形式：調査

担当作家：中山晴奈

5. 福島の今を伝えるプログラム

震災・大事故と文化財を考えるプロジェクト
東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故により多くの文化財も被害を受け、レスキュー活動が行われた。土地の歴史やアイデンティティと深く結びつく文化財。震災・大事故が起きた時にそれらにどう向き合い、対処するのか。文化財関係者への聞き取り調査と記録・公開を行った。

形式：調査

担当作家：藤井光

6. 福島の今を伝えるプログラム

岡部昌生フロッタージュプロジェクト

南相馬市、石川町、飯舘村、大熊町などで、フロッタージュの技法により震災の記録、原発事故に至った福島の近代史を掘り下げる活動を続けてきたプロジェクト。

形式：調査・制作

担当作家：岡部昌生

7. 福島の今を伝えるプログラム

福島写真美術館プロジェクト

写真家・美術家らの映像・画像による福島の現状の記録にとどまらず、その撮影、調査過程において、地域との連携を生み出しているプロジェクト。

形式：調査・制作

担当作家：土田ヒロミ、岩根愛

全事業の参加者：21,226人



成果展（京都）の様子



成果展（郡山）でのトークの様子



調査・撮影の様子

（2）ふくしま震災遺産保全プロジェクト

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれにとまなう津波・原発事故は、福島県内に甚大な被害を及ぼした。未だに多くの方々が避難生活を余儀なくされ、一方で復興や除染工事等により地域の景観は大きく変わりつつある。当館では平成26年度から28年度まで文化庁芸術振興費補助金の採択を受けて、県内の資料館や研究会とともに実行委員会を組織し「ふくしま震災遺産保全プロジェクト」を推進してきた。大震災を契機に起こった様々な出来事を歴史として共有し未来へ継承するため、震災を物語る資料を「震災遺産」と位置付けて、その保全や県内外での展覧会・シンポジウム等のアウトリーチ活動を行った。平成29年度からは当館の事業として、引き続き「震災遺産」の保全や発信を行っている。

1. 震災遺産保全チームの組織

前年度まで活動母体として組織してきた実行委員会は解散したが、博物館内では引き続き「震災遺産保全チーム」として分野横断的なプロジェクトチームを編成し、震災遺産の保全活動を進めて

いる。平成29年度は民俗2名・考古1名・歴史3名・保存科学1名・自然2名の学芸員が参画し、計9名で活動を行った。当館の事業として行う最初の年度であったため、博物館事業として今後進めていくに当たっての活動理念や組織編成、活動方針やその将来像などについてチーム内で協議した。併せて当事業を将来に渡し専属的に担う学芸員として歴史（災害史）専門の学芸員1名の採用についてチーム内及び館内で検討し、年度内に職員募集を実現した。

2. 震災遺産の調査・保全

前年に引き続き県内における震災遺産の調査や資料収集を進めたが、主な事例として以下のような活動を行った。避難所関係では、東日本大震災発生から数カ月間避難所として利用された福島市のあづま総合体育館に残された関連資料を受贈した。避難所の運営にかかわる資料が中心で、避難者名簿や救援物資の管理に関わる文書、避難所の行事予定やボランティアの受け入れに関する資料、提供された食事のメニューなどが含まれる。また震災から半年後にいわき市の久之浜第一小学校校庭につくられた復興商店街「浜風商店街」での資料調査を進めた。前年度に商店街の全店舗が移転し、平成29度末には建物が解体されたため、商店街の横断幕や応援メッセージの書かれた壁面、現地に展示されていた町並み模型などを受贈した。また南相馬市小高区にある半杭牧場の牛舎には、家畜によって齧られた痕跡のある柱が現在も残されている。震災後に警戒区域となったために住民は避難を余儀なくされ、置き去りにされた牛が餌の代わりに木柱を齧り、やがて餓死した。原発事故により引き起こされた重大な出来事として後世に継承するために、当館では柱のレプリカ製作を進めている。平成29年度は現地調査や聞き取り調査と型取り作業までを終えている。

さらに県内における震災遺産関連施設の視察調査も併せて実施した。平成28年に三春町に開設された福島県環境創造センター内にある交流棟（愛称・コミュタン福島）の展示をはじめ、川内村で個人が設置した震災・原発事故を伝える資料館「感がえる知ろう館」、さらに白河市でNPO法人が設置するアウシュヴィッツ平和博物館とその敷地内に建てられている原発災害情報センターなどを視察し、設置者や職員に設立経緯や展示・活動内容等についての解説を受けた。

3. 他団体・諸機関との連携・協力

また、震災遺産の保全や普及活動については、県内外の諸団体・諸機関との連携も進めている。

例えば、ふくしま歴史資料保存ネットワーク主催（当館後援事業）で行われたシンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝える－歴史・文化・震災遺産の保全と活用の今」（於：郡山市民プラザ）や、科学研究費基盤研究（S）「災害文化形成を担う地域歴史資料学の確立」等が主催したシンポジウム「被災地フォーラム新潟」（於：新潟大学）などに参加し、震災遺産保全活動に関する報告やミニ展示を行った。さらに福島県文化振興財団が主催した平成29年度文化財保護指導者研修会（於：福島県立博物館）や、文化庁指定文化財企画・展示セミナー（於：東京国立博物館）では、当チームのメンバーが研修の講師として参加して震災遺産保全活動に関する講義を行った。

また資料の保全に関しては県内の市町村による取り組みが本格化しており、近年ではその活動への協力依頼が増えてきた。富岡町ではアーカイブ施設の設置に向けた検討を進めており、「富岡町アーカイブ施設検討町民会議」に当チームのメンバーが参加しているほか、同様に震災遺産の保全活動を進めている大熊町や双葉町においても、当チームのメンバーが会議へ出席したり現地での資料調査に参加するなど、相互に協力・連携を進めている。また科学研究費基盤研究（A）「防災と被災地復興の基盤を形成する地域災害資料・情報学の構築」（代表：白井哲哉筑波大学教授）により行われた台湾九二一地震関係施設に関する視察調査にもメンバーが同行した。台南市の国立台湾歴史博物館で開催された特別展「地震帯上の共同体：歴史の中の日台震災」の見学や、台中市の九二一地震教育園、南投市の車籠埔断層保存園區などの震災関連施設の視察を行った。さらに、福島県が進めているアーカイブ拠点施設の整備に向けた会議等への出席や、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの受託事業である同施設の資料収集に関するワーキンググループへも参加し、相互協力を図っている。

4. 普及事業の実施

学校現場における震災・防災学習についての依頼も増えており、前年度までのプロジェクト活動による学校連携事業を引き継ぐ形で活動を進めている。例えば福島東高校の2年生が総合学習の一環として来館した際には、震災遺産に関する講座と資料見学にあたっての解説を行った。南会津高校で行われた「課題探求力養成講座」ではゲストティーチャーとしてメンバーが講師を務め、震災遺産に関する講義とミニ展示を行った。また会津高校が進める「復興と未来を担うグローバルリーダー育成事業」と連携し、同校が主催する「被災

地フィールドワーク」にメンバーが講師として随行して被災地での高校生の学習を支援したり、それをもとにした生徒による研究発表会にも参加した。

また特集展「震災遺産を考える－災害の歴史と東日本大震災－」を平成30年3月3日（土）から4月11日（水）を会期として開催したほか、関連行事として展示解説会やワークショップ「段ボールトイレを作ろう」を実施した。詳細は「展示事業」の頁に記載する。

9. 連携事業

福島県立博物館では、各種団体が主催する事業のうち、本県の文化・教育そして東日本大震災からの復興に寄与する事業に参画し、他機関と連携しながら活動を進めている。

(1) 磐梯山ジオパーク推進事業

ア. 事業の趣旨・経緯

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立、平成27年にはユネスコの正式な事業となった。平成29年5月現在、ヨーロッパと中国を中心に35ヶ国127地域が加盟。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパークは、保全はもとより資源の活用による地域の振興を図ることを目標にしている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では平成30年3月現在43地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち8地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。

福島県立博物館は、ジオパークの拠点施設として磐梯山ジオパーク協議会設立当初から協議会に参画し、館の正式な連携事業と位置づけて進めている。ジオパーク推進事業における当館の役割は次のとおりである。

- 地域研究の推進と学術成果の収集による最新の研究成果の提供
- ジオパークの説明媒体（ガイドブック、解説板など）の制作・監修
- ジオパークとしての教育プログラムの開発と提供
- 住民や児童への普及活動のための講師派遣
- ジオガイド養成のための講師派遣
- ツアーの拠点としてジオパークに関する情報提供
- ジオパーク普及のための各種イベントの開催

イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、ガイド団体などの民間団体、文化・教育施設が加わっている。事務局は3町村の商工観光課が中心となり、北塩原村自然環境活用センターに置かれている。

磐梯山ジオパーク協議会組織

区分	機関・団体名
行政団体	猪苗代町
	磐梯町
	北塩原村
	福島県企画調整部地域振興課
	福島県会津地方振興局
	環境省裏磐梯自然保護官事務所
商工団体	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
	北塩原村商工会
観光協会	猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
	裏磐梯観光協会
民間団体	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
	裏磐梯エコツーリズム協会
文化・教育施設	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	福島県立博物館
	国立磐梯青少年交流の家
オブザーバー	林野庁会津森林管理署
	福島県喜多方建設事務所

ウ. 活動

平成29年度は次の事業を実施した。

1. ジオパーク関連の大会・学会・研修会参加

日本ジオパーク全国大会（男鹿半島）など 15件

2. 研究支援

(1) 大学や研究機関との連携

立教大学等によるフィールド調査および猪苗代町立吾妻中学校フィールド学習への同行など 4件

3. 啓発活動

(1) フォーラム・シンポジウム

第8回磐梯山ジオパークフォーラム in 猪苗代町 1件

- (2) 専門家を招聘した講演会
日本ジオパーク委員会委員中川和之氏など
3件
- (3) 一般向けジオツアー
「地質の日ジオツアー」など
2件
- (4) 出前講座
磐梯大学講座など
6件
- (5) 出前授業
猪苗代町立千里小学校など40件

4. 広報活動

- (1) イベント参画
観音寺川桜まつりなど
16件
- (2) 新商品開発
磐梯山ジオカレー&岩なだれカレー販売開始など
3件
- (3) メディアへの情報発信
Facebook更新など
4件

5. ガイド養成

- (1) ガイド研修
英語講師による英語ガイド実践講座など
7件

11月14日に猪苗代水環境センター・猪苗代町各地で開催されたガイド研修で、当館専門員の竹谷陽二郎が「猪苗代湖の成り立ち」に関する講演および野外ジオサイトでの解説を行った。参加者数は10名。

6. ツアー解説媒体制作

- (1) ジオサイト解説看板設置
猪苗代町 J R 猪苗代駅駅舎内 1基
- (2) ジオパークガイドブック
エリア詳細版パンフレット全種類英文化



11月14日ガイド研修 野外ジオサイトでの解説

(2) ふくしまサイエンスぷらっとフォーム

科学の普及を目的として、平成20年に福島大学が中心となり、産官学民の様々な機関や個人が参画して結成された組織。これまで科学普及活動は、ほとんど学校教育の理科を通じて行われてきた。ふくしまサイエンスぷらっとフォーム (spff) では、多様な分野・業種の人々が集まって、市民全体を対象として、大小様々の科学イベントの開催、企画、情報活動、広報活動に取り組んでいる。特に、平成23年3月11日震災以降、復興支援活動と科学理解活動の密接な連携を模索している。福島県立博物館もこのプロジェクトに平成22年から参画して活動している。

ふくしまサイエンスぷらっとフォーム連携機関一覧
(平成30年3月現在)

所 属 機 関
福島大学
福島県商工労働部産業創出課
ふくしま森の科学体験センター (ムシテックワールド)
郡山市ふれあい科学館 (スペースパーク)
磐梯山噴火記念館
福島県ハイテクプラザ
福島県農業総合センター
福島県環境創造センター
福島県林業研究センター
福島市子どもの夢を育む施設 こむこむ
(株) 福島製作所
日東紡績(株) 福島工場
日東紡績(株) 富久山事業センター
NECプラットフォーム図株式会社 福島事業所
福島県商工会連合会
福島県鉄工機械工業共同組合
(有) 西坂製作所
福島県立博物館
いわき明星大学エネルギー教育研究会



11月14日ガイド研修
「猪苗代湖の成り立ち」に関する講演

所属機関
福島県商工会議所連合会
(株)坂本乙造商店
福島県立図書館
ふれあい科学館支援チーム
福島県男女共生センター
(有)アビスタ
福島県立テクノアカデミー郡山
日本ベクトン・ディッキンソン(株)
相馬市教育委員会
一般社団法人産業サポート白河
一般社団法人りょうぜん振興公社 霊山こどもの村



サイエンス屋台村 in 会津若松

平成29年度に spff が中心となり実施した活動は表のとおりである。このうち、『野外講座「化石をさがそう」・自然史講座「化石標本をつくろう」』は福島県立博物館が spff と共催し、「spff サイエンス屋台村 in 会津若松」は福島県立博物館を会場に実施した。このほか、spff を窓口とした県外の団体と連携した活動や、視察・研修および研究活動を実施した。これらの事業は、公益財団法人福島県学術教育振興財団による助成「震災後の県内のレジリエンス教育プログラム開発と教育資源の保存・活用事業 3」をもとに実施した。



サイエンス屋台村 in 会津若松
「化石に名前をつけよう！」

平成28年度ふくしまサイエンスぶらっとフォーム実施主要事業

No.	名 称	期 日	会 場
1	サイエンスフェスティバル	5月3～7日、7月15～17日	郡山市ふれあい科学館
2	わくわくサイエンス	7月30日、10月1日	福島市こむこむ館
3	教員のための博物館の日 子供が喜ぶ授業作り	8月1日	ムシテックワールド
4	農業総合センターまつり	9月8～9日	福島県農業総合センター
5	あつまれっ！ハイテクプラザ2017	9月10日	福島県ハイテクプラザ
6	おもしろ科学びっくり箱	9月17日、10月15日、10月29日	郡山市ふれあい科学館
7	野外講座「化石をさがそう」自然史講座「化石標本をつくろう」	10月7～8日	東白川郡塙町、棚倉町、福島県立博物館
8	TORIKAWA科学教室	10月7日	福島市立鳥川小学校
9	そうそう子ども科学祭2017	10月7日	福島県立テクノアカデミー浜
10	親子ものづくり広場	11月4日	喜多方プラザ小ホール
11	あきのおはなしかい「たねのふしぎにせまる！かがくのおはなし会」	11月4日	福島県立図書館
12	ムシテック祭り	11月17～18日	ムシテックワールド
13	spff サイエンス屋台村in会津若松	12月24日	福島県立博物館

(3) 福島芸術計画 × Art Support Tohoku-Tokyo

ア. 事業の趣旨・経緯

福島芸術計画 × Art Support Tohoku-Tokyo は、平成24年より、福島県、東京都、アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）の三者が共催し、地域の団体と協働してアートプログラムを実施している事業。

文化芸術に触れる機会や地域コミュニティの交流の場をつくり、文化芸術による地域活力の創出と心のケアという視点から復旧・復興を支援している。

福島の未来を担う子どもたちが、ふるさとの自然や文化を体験し、心豊かに成長していくこと。

福島県ならではの多様な文化を、地域の隔たり無く分かち合い、もう一度その素晴らしさを互いに見直すこと。

福島の現状や未来のことを考え、創造する場を持つこと。

福島の宝や人の思い、そして大切な何かをつなぎ・つたえていくこと。

そうした動きが、福島の復旧・復興に向けて大きな力になるとの考えから活動を続けている。

イ. 組織

1. 主催 福島県／東京都／アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）
2. 運営委員会構成団体 福島県文化振興課／福島県立美術館／福島県立博物館／アーツカウンシル東京／NPO法人Wunder ground
3. 事務局 NPO法人Wunder ground

ウ. 事業内容

福島芸術計画 × Art Support Tohoku-Tokyo では、平成29年度、学校連携をテーマとした事業を福島県立博物館と福島県立美術館がそれぞれ企画運営して実施した。

福島子ども芸術計画（アートで広げる子ども未来プロジェクト）

小池アミイゴの誰でも絵が描けるワークショップ わたしの好きな柳津

講師：小池アミイゴ（イラストレーター）

企画運営：福島県立博物館、特定非営利活動法人Wunder ground

企画運営サポート：江畑芳

【ツアー+ワークショップ】

- 第1回 只見線体験+柳津探検
平成29年11月11日(土)12時～15時
- 第2回 描いてみようワークショップ
平成29年11月13日(月)14時～16時
- 第3回 描いてみようワークショップ
平成29年11月15日(水)14時～16時

- 第4回 ワークショップ
平成30年1月20日(土)
- 第5回 ワークショップ
平成30年1月21日(日)

第1回の集合場所と第2回～第5回の会場：
斎藤清美術館

参加費 無料

定員 第1回のみ定員20名

申込 第1回のみ要申込
(申込先：柳津町中央公民館)

対象 柳津町放課後子ども教室所属の児童
ワークショップは当日参加可（申込不要）

第1回 … みんなの町を走る只見線（会津宮下駅→柳津駅）にちょっと乗って体験。
その後は、柳津の好きなトコを発見に行こう！

第2回 … アミイゴさんと柳津の好きなトコを探して描くワークショップ

第3回 … アミイゴさんと柳津の好きなトコを探して描くワークショップ

第4回 … アミイゴさんと柳津の好きなトコ探すワークショップ

第5回 … アミイゴさんと柳津の好きなトコを伝えるワークショップ

主催：福島県、東京都、アーツカウンシル東京
（公益財団法人東京都歴史文化財団）
特定非営利活動法人Wunder ground

共催：斎藤清美術館

協力：柳津町中央公民館



ワークショップの様子1



ワークショップの様子2



成果展の様子

(4) ふくしま歴史資料保存ネットワーク

地域の歴史や文化を伝える歴史資料などの記録保存を進め、災害時には救出・保全をはかり、後世に伝えることを目的に、平成22年11月に発足した。現在の代表・事務局は福島大学（行政政策学類 阿部浩一教授）。近年は、古文書整理・撮影作業を福島大学で定期的に行いながら、歴史資料の保存を趣旨としたさまざまな催しを企画・支援している。

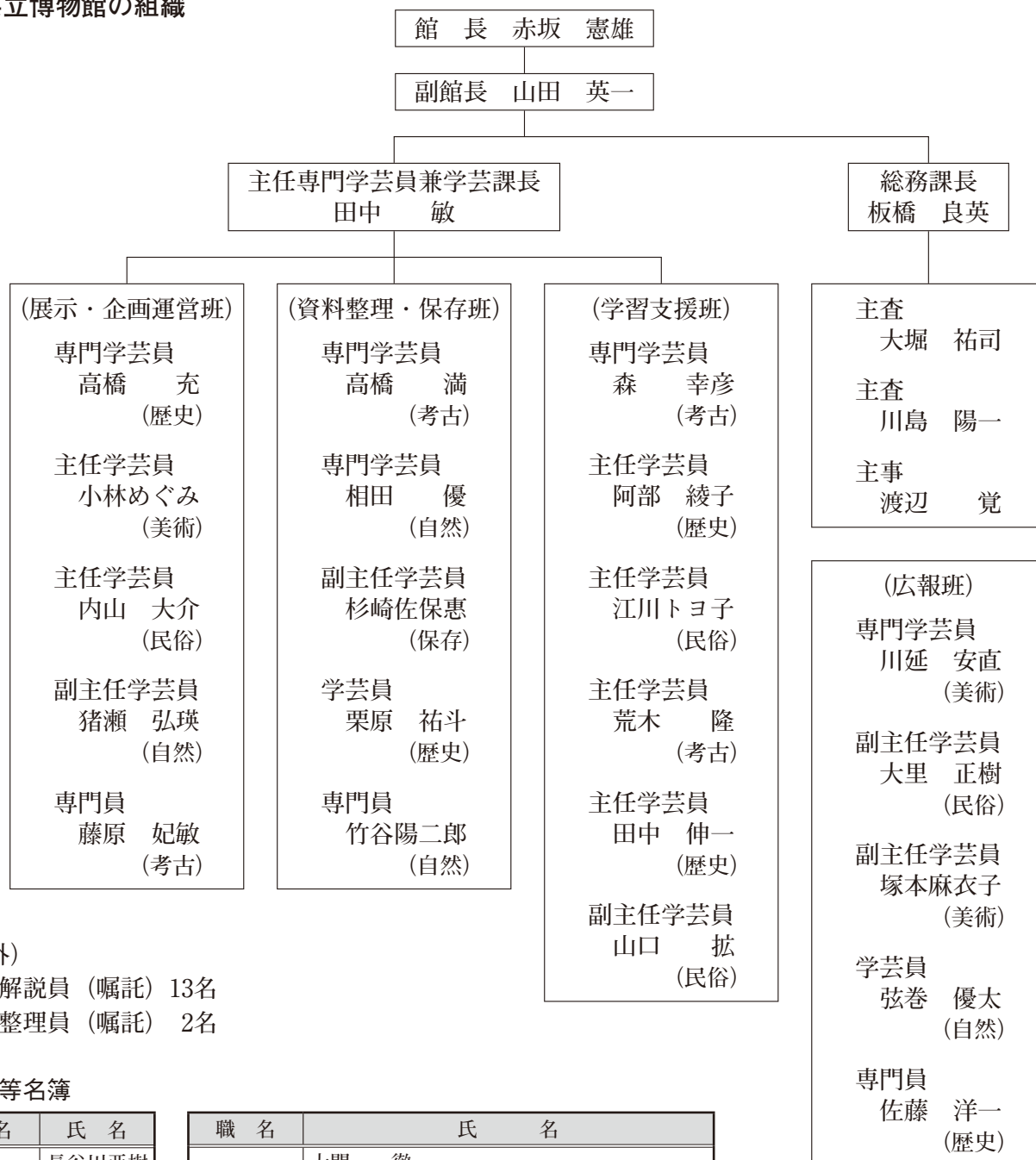
平成29年度には、当館で震災直後から保管していた個人所蔵の古文書の一部の整理・撮影作業を、福島大学で継続して実施した。またネットワーク主催のシンポジウム「ふくしまの未来へつなぐ、伝える」（郡山市 6月17日）に当館学芸員が参加し、震災遺産に関する報告や展示を行った。

II 管理運営

1. 組織・職員

(平成29年4月1日現在)

福島県立博物館の組織



(定数外)

- ・展示解説員 (嘱託) 13名
- ・資料整理員 (嘱託) 2名

嘱託員等名簿

職名	氏名
展示解説員	長谷川垂樹
	前田 知香
	岩崎 萌
	権野 未帆
	綱 真奈美
	富田 陽介
	小池 美奈
	穴澤由美子

職名	氏名
展示解説員	大関 徹
	荒井奈津姫
	古川 晴代
	佐藤 聖華
	及川 敏康 (平成29年11月1日～)
	武田 裕太 (平成29年7月12日退職)
資料整理員	長澤 宏子
	石川 真帆
臨時事務補助員	大竹耕太郎 (平成29年12月1日～)
	加藤 史織 (平成30年2月15日～3月20日)

2. 予 算

平成29年度は、下表のとおり予算を執行した。

平成29年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				8,413
	使 用 料			8,413
		行政財産使用料		374
			建 物 使 用 料	374
		教育使用料		8,039
			博 物 館 使 用 料	8,039
財 産 収 入				1,706
	財 産 売 払 収 入			1,706
		物品売払収入		1,706
			そ の 他 物 品 売 払 代 金	1,706
諸 収 入				533
	雑 入			533
		雑 入		533
			雑 入	533
		合 計		10,652

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
教 育 費				152,440
	教 育 総 務 費			3,301
		事 務 局 費		3,301
			報 酬	2,200
			職 員 手 当	420
			共 済 費	79
			賃 金	602
	社 会 教 育 費			149,139
		博 物 館 費		149,139
			報 酬	22,701
			共 済 費	3,534
			報 償 費	744
			旅 費	3,215
			需 用 費	41,665
			需 用 費 (食 糧 費)	1
			役 務 費	7,146
			委 託 料	68,261
			使 用 料 及 び 賃 借 料	1,334
			備 品 購 入 費	457
			負 担 金、補 助 及 び 交 付 金	56
			公 課 費	25
		合 計		152,440

3. 委員会の開催

(1) 運営協議会

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関である。

ア. 運営協議会委員

学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者10名に委嘱している。平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	鈴木 充子	いわき市立長倉小学校長
	和田 節子	飯舘村立飯舘中学校長
	副会長 加藤 知道	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	会長 杉 昭重	(公財)福島県文化振興事業団理事長
	鈴木 静人	いわき市中央公民館長
学識経験者	佐藤彌右衛門	合資会社 大和川酒造店代表社員
	長尾 修	県立博物館友の会幹事長
	秋月 淳子	会津若松市教育委員会委員
	大友 靖子	家庭教育インストラクター連絡協議会理事
	山口昂太郎	公募委員

イ. 会議

第1回 平成29年6月8日(木)

議題

- ①会長・副会長の選出について
- ②平成29年度事業計画について
- ③中期目標の達成状況について

第2回 平成30年2月15日(木)

議題

- ①平成29年度事業の概要について
- ②平成29年度実績中期目標（12月末現在）について
- ③平成30年度事業計画について

Ⅲ 利用状況

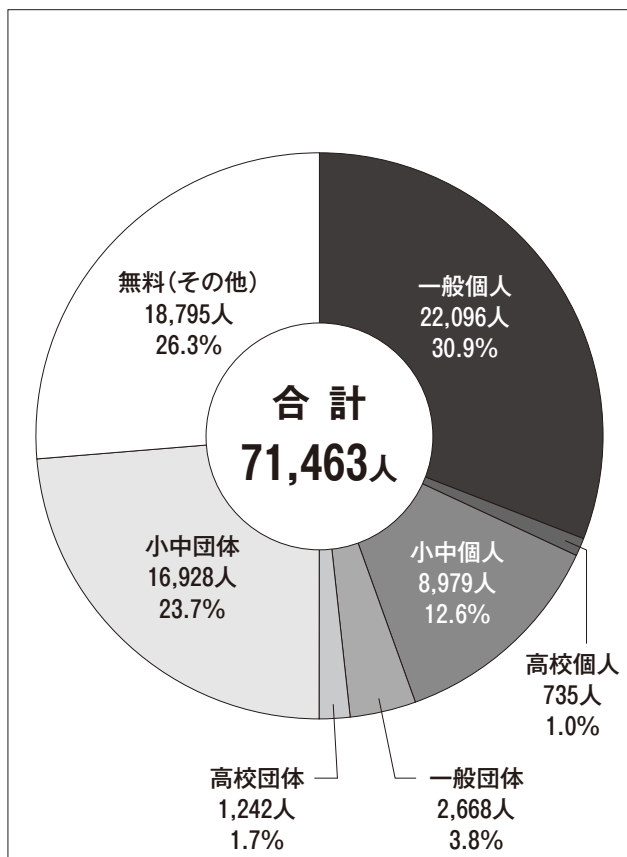
1. 入館者統計

(1) 平成29年度入館者統計

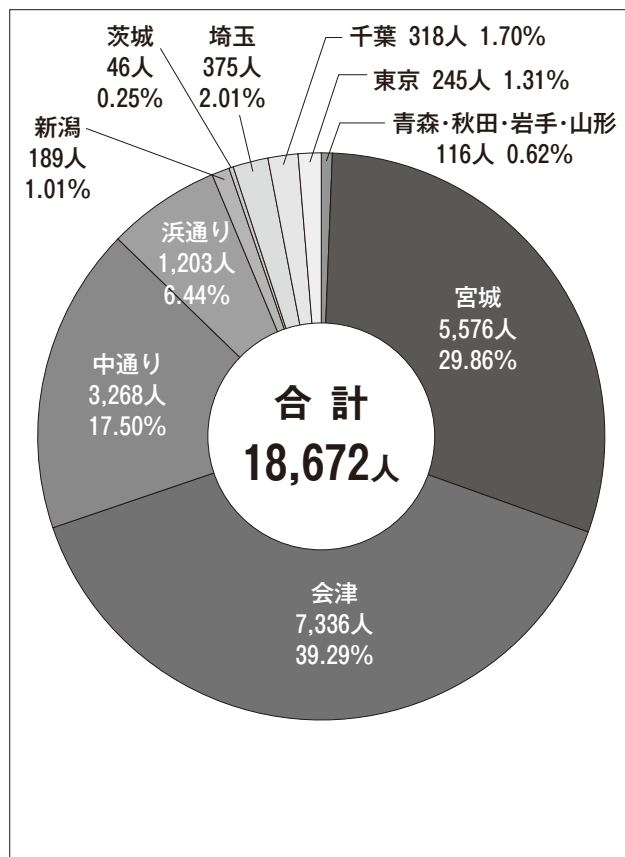
月別区分別入館者数

月別	常設展				企画展			合計	構成比
	日数	有料 人数	無料		日数	有料 人数	無料 人数	人数	
			小中高校生 人数	その他 人数					
4	26	1,355	2,063	1,309	2	202	91	5,020	7.0%
5	27	1,252	3,435	1,563	27	922	846	8,018	11.2%
6	25	1,009	7,199	1,518	4	167	211	10,104	14.1%
7	26	1,181	823	893	14	721	538	4,156	5.8%
8	29	2,220	908	2,394	29	2,069	1,341	8,932	12.5%
9	26	1,529	4,656	1,556	16	667	1,301	9,709	13.5%
10	26	1,221	2,258	1,647	21	491	1,722	7,339	10.3%
11	26	1,213	612	1,421	23	814	714	4,774	6.7%
12	22	480	298	1,777				2,555	3.6%
1	23	522	102	1,294	16	1,522	276	3,716	5.2%
2	24	679	286	502	16	1,490	408	3,365	4.7%
3	26	916	223	2,636				3,775	5.3%
合計	306	13,577	22,863	18,510	168	9,065	7,448	71,463	100.0%

入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

入館者の推移（年度別・月別）

（単位：人）

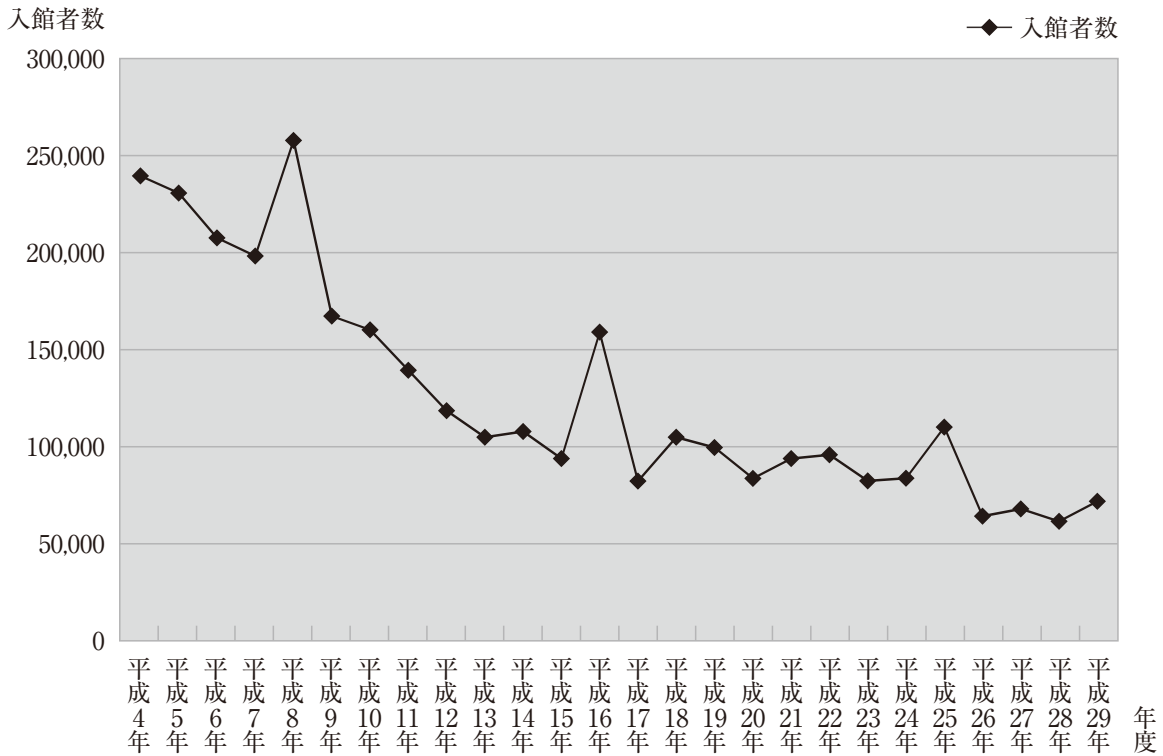
区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	日数	日平均	月平均	累計
61年							31,758	49,868	8,860	6,531	13,614	11,850	122,481	133	921	20,414	122,481
62年	25,919	48,367	17,831	23,356	40,749	24,259	27,099	27,082	5,548	4,010	7,653	7,878	259,751	297	875	21,646	382,232
63年	20,561	35,853	14,823	22,651	32,396	20,198	29,648	21,234	4,512	4,959	6,350	4,405	217,590	296	735	18,133	599,822
元	25,699	52,872	20,356	18,456	31,127	18,248	26,832	16,058	3,369	4,048	6,986	4,873	228,924	299	766	19,077	828,746
2年	22,750	50,265	19,043	24,050	34,218	17,008	34,201	18,482	2,303	3,813	5,982	7,115	239,230	299	800	19,936	1,067,976
3年	22,851	52,723	23,592	20,340	33,257	21,882	21,851	15,682	3,618	8,675	7,006	6,530	238,007	298	799	19,834	1,305,983
4年	16,637	56,983	23,841	22,800	37,431	20,334	18,565	17,592	4,028	5,073	9,096	7,606	239,986	297	808	19,999	1,545,969
5年	17,975	50,452	29,319	21,138	28,490	18,285	20,022	15,629	6,989	4,993	9,137	8,640	231,069	293	789	19,256	1,777,038
6年	15,320	38,693	20,737	12,328	25,837	16,551	28,034	19,857	7,839	4,732	9,197	8,742	207,867	296	702	17,322	1,984,905
7年	16,571	42,832	28,622	15,340	23,785	16,428	20,252	15,096	2,048	2,701	7,631	7,160	198,466	298	666	16,539	2,183,371
8年	12,433	40,138	18,185	9,725	21,495	15,879	64,772	50,811	9,473	3,141	6,700	5,616	258,368	294	879	21,531	2,441,739
9年	13,521	39,844	22,279	8,036	15,803	13,082	26,015	10,290	2,125	2,111	7,578	6,686	167,370	295	567	13,948	2,609,109
10年	14,922	34,430	24,933	9,541	16,208	13,794	18,431	9,061	2,395	3,218	9,770	3,575	160,278	295	474	13,357	2,769,387
11年	13,456	30,999	23,659	9,051	13,607	12,175	15,696	7,937	1,582	2,714	4,795	3,676	139,347	294	393	11,612	2,908,734
12年	10,539	21,341	18,775	7,127	13,184	12,794	15,609	8,120	1,801	829	5,353	2,897	118,369	301	393	9,864	3,027,103
13年	8,473	20,267	16,475	5,682	8,451	13,423	12,192	5,825	5,797	1,412	3,836	2,818	104,651	303	345	8,721	3,131,754
14年	8,028	19,242	17,211	4,706	14,702	19,901	10,688	5,265	1,078	1,196	3,183	2,386	107,586	306	352	8,966	3,239,340
15年	4,899	13,884	12,884	8,732	10,630	12,525	13,000	7,693	1,665	1,235	3,733	2,734	93,614	302	310	7,801	3,332,954
16年	8,770	19,287	16,768	20,318	34,732	35,813	11,227	5,440	2,192	855	2,019	1,690	159,111	302	527	13,259	3,492,065
17年	8,440	14,548	12,008	7,507	7,157	8,787	11,972	4,374	926	1,159	2,815	2,262	81,955	305	269	6,830	3,574,020
18年	7,019	11,381	14,151	5,246	10,548	13,405	25,464	9,029	1,989	1,468	2,928	2,058	104,686	310	338	8,724	3,678,706
19年	7,419	12,271	25,016	6,808	7,148	10,084	12,495	8,261	1,938	1,627	2,943	3,290	99,300	306	325	8,275	3,778,006
20年	6,521	10,730	13,011	7,401	8,582	10,326	11,388	6,798	1,558	1,037	2,193	3,730	83,275	306	272	6,940	3,861,281
21年	7,977	13,060	11,912	7,356	14,280	16,864	9,211	6,761	1,383	1,127	1,815	1,850	93,596	306	306	7,800	3,954,877
22年	11,669	15,085	16,283	10,472	11,658	9,513	8,522	6,280	1,637	1,947	1,796	694	95,556	293	326	7,963	4,050,433
23年	2,292	6,582	4,990	5,557	11,047	15,972	9,465	6,399	3,159	4,280	7,087	5,218	82,048	305	269	6,837	4,132,481
24年	8,940	9,350	6,912	7,532	12,764	10,702	10,683	6,438	2,316	1,551	3,173	3,040	83,401	306	273	6,950	4,215,882
25年	6,523	11,722	25,363	9,013	20,966	12,299	11,802	4,025	2,736	1,617	1,463	2,309	109,838	309	355	9,153	4,325,720
26年	4,972	7,374	7,677	4,250	5,845	7,457	4,549	8,878	3,815	1,036	3,765	4,121	63,739	309	206	5,312	4,389,459
27年	5,215	12,117	10,507	3,520	4,873	7,621	5,375	4,543	1,552	2,492	4,502	5,173	67,490	309	218	5,624	4,456,949
28年	5,006	7,101	9,290	4,037	5,551	14,131	5,014	2,792	1,082	886	2,512	3,671	61,073	303	202	5,089	4,518,022
29年	5,020	8,018	10,104	4,156	8,932	9,709	7,339	4,774	2,555	3,716	3,365	3,775	71,463	306	234	5,955	4,589,485
平均	11,817	26,058	17,308	11,169	18,240	15,144	18,099	12,699	3,246	2,818	5,312	4,627	143,421	296	490	12,271	

利用状況

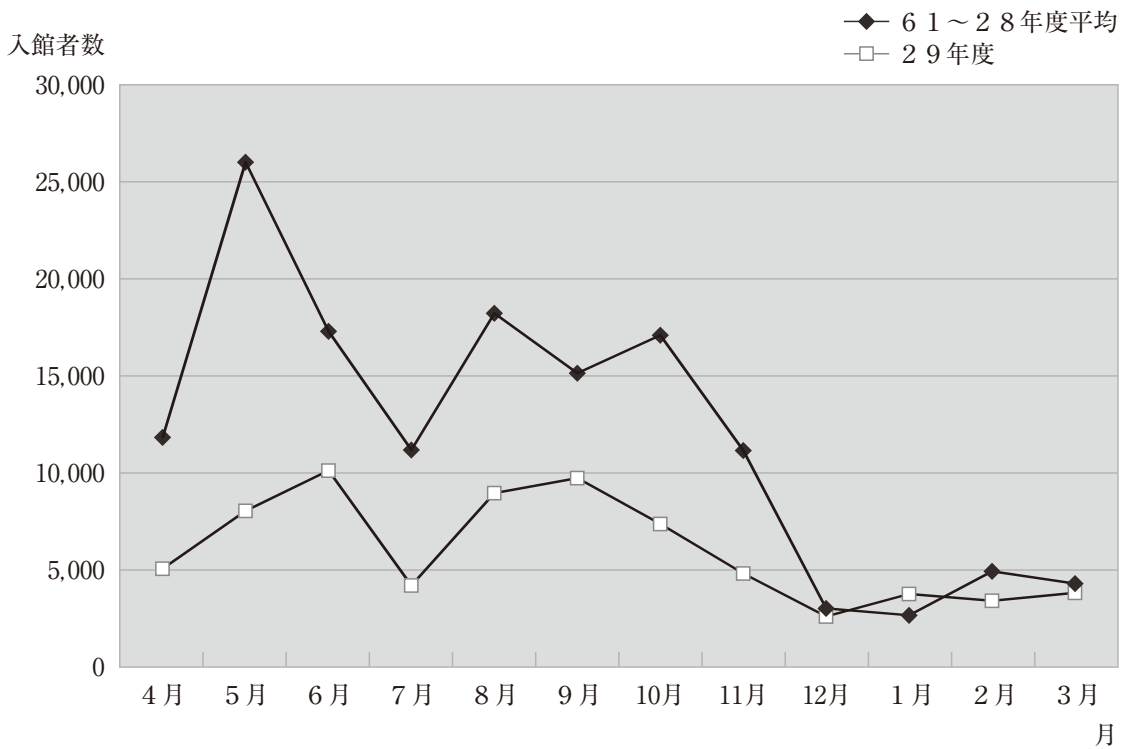
入館者数の推移グラフ（年度別月別）

利用
状況

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	亜欧堂田善とその系譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま 鉱山のあゆみ	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘 ふくしま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346

利用
状況

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
7	探検 貝化石ワールド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木の匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875
8	福島の山岳信仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄文たんけん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～ 9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発掘 ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブ スター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713

企画展入館者数

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
17	古い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540
19	樹と竹	19. 7.21～19. 9.17	52	1,987	44	429	619	3,079
	わくわく！化石大集合	19.10. 6～19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19～20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香山	20.10.11～20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10～21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17～22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26～22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9～22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8～23.11.27	43	4,908	28	188	0	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18～24. 3.31	36	2,523	21	271	0	2,815
	計		79	7,431	49	459	0	7,939
24	小さなもの集まれ	24. 4.1～24. 5.13	38	4,264	82	493	875	5,714
	恐竜時代のふくしま	24. 7.14～24. 9.17	54	6,985	128	4,055	2,648	13,816
	会津の寺宝	24.10. 6～24.11.25	44	6,668	16	72	872	7,628
	計		136	17,917	226	4,620	4,395	27,158
25	八重の桜	25. 4.17～25. 7. 3	46	13,146	130	5,462	875	19,613
	対決！恐竜展	25. 7.27～25. 9.16	46	9,948	273	5,033	2,648	17,902
	考古学からの挑戦	25.10. 5～25.12.1	50	1,955	11	85	872	2,923
	計		142	25,049	414	10,580	4,395	40,438
26	東北・風土・人・暮らし	26. 4.19～26. 5.18	26	1,094	30	102	360	1,586
	アイヌの工芸	26. 7.19～26. 9.15	52	2,841	62	531	702	4,136
	みちのくの観音さま	26.11. 1～26.12.14	38	6,441	18	73	1,419	7,951
	計		116	10,376	110	706	2,481	13,673
27	ふるさと会津の人と四季	27. 5. 2～27. 6.21	44				5,992	5,992
	被災地からの考古学	27. 7.18～27. 9.13	51	1,518	39	221	362	2,140
	相馬中村藩の人びと	27.10.10～27.11.29	38	1,406	8	34	317	1,765
	計		133	2,924	47	255	6,671	9,897
28	大須賀清光の屏風絵と番付	28. 4.23～28. 6.12	45	2,254	14	201	555	3,024
29	自然をうつす	29. 4.29～29. 6. 4	33	1,291	45	620	483	2,439
	ふくしま5億年の自然史	29. 7.15～29. 9.18	59	3,457	138	2,037	1,005	6,637
	発掘ふくしま4	29.10. 7～29.11.26	44	1,305	455	1,475	506	3,741
	山水憧憬	30. 1.13～30. 2.18	32	3,012	42	209	433	3,696
	計		168	9,065	680	4,341	2,427	16,513

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
武家の文化	600	1	0	0	1	3	1	0	0	1	0	0	1	8	4,800
ふくしまの顔	500	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	1,000
陸奥の古瓦	400	0	0	1	0	1	0	2	3	2	0	0	0	9	3,600
鉱物の世界	400	1	0	0	1	1	1	3	2	2	1	0	1	13	5,200
縄文の四季	500	0	1	1	1	1	1	4	2	0	0	0	1	12	6,000
まちの成立とにぎわい	500	2	0	0	1	2	3	0	1	0	0	1	0	10	5,000
垂欧堂田善とその系譜	1,000	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4	4,000
太古の生きものたち	500	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	3	1,500
日本の音色	800	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	800
シルクロード紀行	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
縄文絵巻	800	2	1	1	1	1	3	4	5	0	0	0	0	18	14,400
浜通りの仏像	500	1	0	1	0	3	2	1	0	0	0	1	0	9	4,500
ふくしま鉱山のあゆみ	800	1	0	0	0	0	3	2	2	1	1	2	0	12	9,600
マンガ文化の源流	1,000	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	0	0	3	3,000
恐竜のあるいた道	500	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	500
定信と文晁	1,000	0	1	0	2	2	1	0	1	0	0	0	0	7	7,000
明治はじめて物語	500	0	0	0	2	4	3	0	1	1	2	0	0	13	6,500
稲とくらし	800	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	5	4,000
東北からの弥生文化	800	1	0	1	0	0	0	1	3	0	0	0	1	7	5,600
会津の自然史	800	1	0	0	9	9	15	1	0	0	1	0	0	36	28,800
玉堂と春琴・秋琴	1,100	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	1	4	4,400
げんき・病・元気	800	0	1	0	3	3	0	0	1	0	1	0	0	9	7,200
村芝居の世界	900	0	0	0	0	3	1	0	0	0	1	0	0	5	4,500
探検員化石ワールド	800	0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	1	4	3,200
海のまくあけ	800	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	2	1,600
福島1000年時のかたち	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	900
いにしえの木匠	600	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3	1,800
福島の山岳信仰	800	0	1	1	3	6	1	2	0	0	0	1	2	17	13,600
地震・火山・津波	500	0	0	0	0	1	1	2	0	0	1	0	1	6	3,000
近代子どもの世界	900	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	1	5	4,500
縄文たんけん	900	1	0	0	1	1	0	1	2	1	0	0	0	7	6,300
日本の魚学・水産学事始め	500	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	500
染める	600	1	1	0	0	1	2	0	1	0	0	0	1	7	4,200
遠澤と探幽	1,300	1	0	1	0	0	1	0	0	0	6	4	0	13	16,900
戦国の城	800	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天の絹絲	1,300	0	0	0	3	8	1	0	0	0	0	0	1	13	16,900
日本の美	800	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	800
氷河時代	700	0	0	0	4	5	2	0	0	0	1	0	0	12	8,400
新弥生紀行	1,100	0	0	0	1	1	0	3	0	0	0	0	0	5	5,500
生の中の死	900	0	1	0	2	4	1	2	1	2	0	1	2	16	14,400
豊かなる世界へ	600	0	0	1	1	6	0	0	0	1	0	0	0	9	5,400
集古十種	1,100	1	1	0	3	4	1	2	1	1	1	0	1	16	17,600
海獣パレオパラドキシア	600	0	1	1	4	6	3	0	0	1	0	0	0	16	9,600
英雄たちの系譜	500	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	500
食と考古学	500	0	1	1	0	2	4	2	0	0	0	2	0	12	6,000
肖像にみる福島を築いた人々	900	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	5	4,500
武者たちが通る	400	0	1	0	1	2	3	2	0	0	0	0	0	9	3,600
発掘ふくしま3	600	1	1	1	1	0	0	3	4	0	0	1	1	13	7,800
笑いの想像力	1,000	0	1	1	1	1	1	0	0	0	1	0	0	6	6,000
老い	1,000	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
婚礼	800	0	0	2	0	0	0	0	1	0	1	0	0	4	3,200
馬と人との年代記	800	0	0	1	3	1	0	0	2	0	1	0	0	8	6,400
布の声をきく	700	1	2	0	3	5	1	0	0	0	1	3	2	18	12,600
徳川将軍家と会津松平家	600	5	7	5	4	6	11	1	6	3	5	8	4	65	39,000
樹と竹	600	3	0	0	1	2	0	1	2	1	0	0	0	10	6,000
わくわく！化石大集合	400	4	0	1	8	6	9	0	1	1	2	0	0	32	12,800
会津磐梯山	1,000	0	0	1	2	2	2	0	2	0	1	0	0	10	10,000
遠藤 香村	1,500	0	0	1	0	1	1	0	0	0	2	9	0	14	21,000
岡本太郎の博物館	1,000	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1,000
千少庵と蒲生氏郷	500	1	2	1	2	2	3	0	3	2	4	0	0	20	10,000
漆のチカラ	800	0	2	0	2	2	1	2	0	0	1	1	0	11	8,800
福島出土偶	500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
保科正之の時代	1,000	1	4	4	2	3	7	0	6	0	2	3	2	34	34,000
小さなもの集まれ	500	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	500
恐竜時代のふくしま	500	1	0	0	7	8	10	1	0	1	1	0	1	30	15,000
会津の寺宝	1,000	3	2	0	0	8	6	3	2	1	0	0	2	27	27,000
八重の桜	2,000	0	1	0	0	1	2	2	2	1	0	0	2	11	22,000
対決！恐竜展ガイドブック	300	0	1	0	4	4	7	0	0	0	0	0	0	16	4,800
恐竜展2011 ポプラディア完全ガイド	500	0	0	0	2	2	1	0	0	0	0	1	0	6	3,000
恐竜博2011 公式図録	2,000	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2,000
考古学からの挑戦	900	2	0	0	1	4	4	1	1	0	0	1	2	16	14,400
アイヌの工芸	1,000	0	0	0	2	3	1	0	1	0	0	2	0	9	9,000
被災地からの考古学1	200	2	1	1	0	0	1	2	4	0	2	1	0	14	2,800
相馬中村藩のらびと	700	1	2	0	1	7	2	2	1	0	1	0	0	17	11,900
大須賀清光の屏風絵と番付	700	2	4	0	1	0	2	2	3	0	3	0	1	18	12,600
しぜんをうつす	900	45	84	37	3	2	0	0	0	0	3	5	0	179	161,100
ふくしま5億年の自然史	600	0	0	0	57	139	90	16	4	1	4	1	4	316	189,600
発掘ふくしま4	900	0	0	0	0	0	0	87	99	6	4	1	5	202	181,800
山水憧憬	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	89	95	1	185	185,000
紀要(数量)		4	7	9	2	6	7	20	13	3	7	4	7	89	
紀要(金額)		3,820	6,400	13,160	1,400	6,160	8,220	24,740	10,560	2,320	8,900	5,860	6,220		97,760
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	0	0	0	0	1	5	2	0	1	2	0	2	13	16,900
福島の古墳	1,200	3	3	0	1	2	2	3	3	3	2	1	2	25	30,000
福島の化石	1,500	0	0	1	1	2	1	1	0	1	0	0	0	7	10,500
戦時下の福島	800	1	0	0	0	4	1	2	0	0	0	0	0	8	6,400
福島の年中行事	1,100	0	0	2	1	1	1	0	0	1	2	0	2	10	11,000
ガイドブック	300	5	5	6	5	11	8	1	9	1	0	1	4	56	16,800
手引き(小)	700	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	2	1,400
常世原田遺跡	600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ふくしまの農具	1,000	0	0	0	1	0	2	0	0	1	1	0	0	5	5,000
ふくしまの古文書	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報告書(数量)		8	8	7	5	7	12	2	12	5	17	7	8	98	
報告書(金額)		7,200	11,400	8,600	4,600	7,200	13,200	2,200	14,900	6,600	27,200	14,100	9,500		126,700
絵葉書	50	35	18	19	0	2	6	16	18	27	2	9	6	158	7,900
クリアホルダー	200	1	3	3	1	3	0	2	8	1	6	5	0	33	6,600
勾玉セット	200	26	0	51	17	32	9	0	0	23	0	0	20	178	35,600
文化の力	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ポケットミュージアム	1,000	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1,000
一筆箋	350	2	1	1	0	2	1	4	1	2	5	4	1	24	8,400
齋藤清絵はがきセット	350	3	8	0	0	4	0	6	2	5	12	2	1	43	15,050
体験学習材料費	100							41					20	61	6,100
合計		177	180	167	189	382	281	258	239	108	204	177	116	2,478	1,706,810

利用状況

IV 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年3月25日 条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条及び地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品（以下「展示品」という。）を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成9年条例第52号）

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成11年条例第93号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成15年条例第53号）

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成25年条例第119号）

この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成28年条例第53号）

この条例は、平成28年4月1日から施行する。

附 則（平成30年条例第46号）

この条例は、平成30年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

区 分	普通観覧料の額 （一人当たり）		特別観覧料の額	年間観覧料の額 （同一人が有効期間内に利用する場合）
	個人	団体		
一般（大学生を含む。）	270円	210円	その都度知事が定める額	3,300円の範囲内で知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者			その都度知事が定める額	1,980円の範囲内で知事が定める額
中学生、小学生及びこれらに準ずる者			その都度知事が定める額	1,320円の範囲内で知事が定める額

備 考

- 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいい、「年間観覧料」とあるのは年間利用に係る普通観覧料及び特別観覧料をいう。
- 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

（昭和61年3月25日 条例第31号）

（設 置）

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会（以下「協議会」という。）を置く。

（組 織）

第2条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、10人以内とする。

（委員の任命及び任期）

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

（会長及び副会長）

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

（会 議）

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

（庶 務）

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

（雑 則）

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成24年条例第43号）

1 この条例は、平成24年4月1日から施行する。

2 この条例の施行の際現に改正前の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命されている福島県立博物館運営協議会の委員は、その残任期間中は、改正後の福島県立博物館運営協議会条例第3条第1項の規定により任命された福島県立博物館運営協議会の委員とみなす。

福島県立博物館条例施行規則

（昭和61年3月25日 教育委員会規則第5号）

（休館日）

第1条 福島県立博物館（以下「博物館」という。）の定期的休館日は、次のとおりとする。

1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（次号において「休日」

という。)に当たるときを除く。

- 2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。
- 3 1月1日から同月4日まで
- 4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。
(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。)第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額(引率者にあつては全額)
3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者(前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。)は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあつては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあつては10日前までに観覧料免除申請書(様式第2号)を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書(様式第3号)を交付するものとする。

(観覧料の返還)

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

- 1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額
- 2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書(様式第4号)に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

(博物館資料の特別利用)

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

(教育長への委任)

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(昭和63年教委規則第9号)

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則(平成4年教委規則第14号)

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則(平成7年教委規則第15号)

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則(平成8年教委規則第16号)

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則(平成8年教委規則第20号)

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則(平成12年教委規則第16号)

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則（平成30年教育委員会規則第7号）

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立博物館	観覧券 (観覧者の区分) (金額) 福島県立博物館
--	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第1号の2（第3条の2関係）

(表)

年間観覧券 福島県立博物館

(裏)

(交付番号)	(観覧者の区分)
(有効期間)	
御利用に際して	
1 福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。	
2 下記に署名された御本人以外の方は使用できません。	
3 御購入後の紛失等による再発行はいたしません。	
(氏名)	(学名)
(学校名)	(学年)
福島県立博物館	

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及び代表者の氏名
観覧料免除申請書

年 月 日 印

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円※		※ 円※		
上記のとおり承認してよろしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号
年 月 日

様

福島県立博物館長 印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
注 意 事 項				
観覧料	免除率	免除金額	円	
円				

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
申請者 氏名又は名称及び代表者の氏名
観覧料返還申請書

年 月 日 印

次の理由により観覧料を返還してください。

観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の 区分及び金額	区 分	人 数	金 額	円
	合 計			
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返 還 率	返 還 金 額	返 還 の 根 拠	
※ 円※		※ 円※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	
受 付 月 日	・	・	決 裁 月 日	・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。
- 3 前項に規定するもののほか、課長は、課の事務を点検する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(主任主査その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成6年教委規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則（平成13年教委規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年教委規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第8号）

この規則は、平成25年4月1日から施行する。

附 則（平成25年教委規則第11号）

この規則は、公布の日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。

3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

2 展示委員は次の任務を遂行する。

（1）展示計画原案の作成

（2）展示計画作成のための基礎的資料の収集

（3）展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
- ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
- ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
- ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。

2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。

3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事 長	1名
会 計	2名
幹 事	若干名 (各サークルの代表者は、本会の幹事となる。)
監 事	2名

2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 補欠のため任ぜられた役員は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

- 2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。
- 3 幹事長は、本会の会務並びに実務を主となって処理する。
- 4 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。
- 5 監事は、本会の会計を監査する。
- 6 会計は、本会の会計業務一切を主務とする。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

- 2 役員会は、必要のつど会長が招集する。
- 3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。
- 4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

- 1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)
- 3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)
- 4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)
- 5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)
- 6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)
- 7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)
- 8 この規約は、平成27年3月26日から施行する。(第6条、第8条第3項・4項関係)
- 9 この規約は、平成28年4月1日から施行する。(第6条第1項関係・第8条3項関係)
- 10 この規約は、平成30年3月17日から施行する。(第6条第1項・第8条第6項関係)

V 施設の概要

1. 建築概要

<p>設計者 (株)佐藤武夫設計事務所</p> <p>工事監理 福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所</p> <p>施工者 建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株)</p> <p>共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備)工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備)工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)</p> <p>面積 敷地面積 37,269.6 m² 建築面積 10,986.23 m² 延面積 11,071.44 m² 1 階 9,980.45 m² 2 階 1,090.99 m²</p> <p>建築事業費 6,451,641 千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739 規模 地上2階</p> <p>最高の高さ 20.6m 最高の軒高 13.6m 地域地区 住居地域 風致地区第1種</p>	<p>構造 主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭</p> <p>外部仕上げ 屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャストコンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ</p> <p>内部仕上げ (エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ(総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井(講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ(第1・3・6収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12m/m 壁 杉板厚12m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12m/m 本実張(第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第4収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12m/m 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板(第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板</p> <p>工期 着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日</p>
---	---

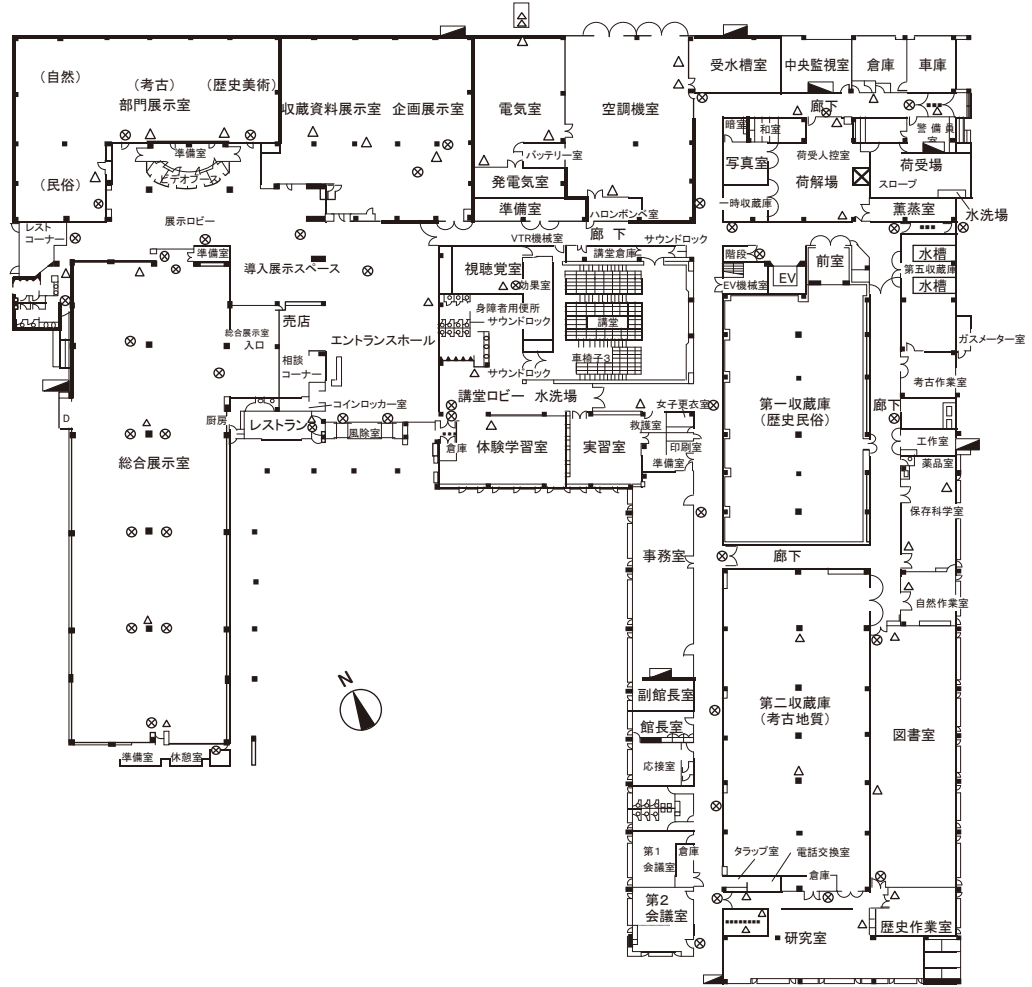
施設の概要

2. 設備

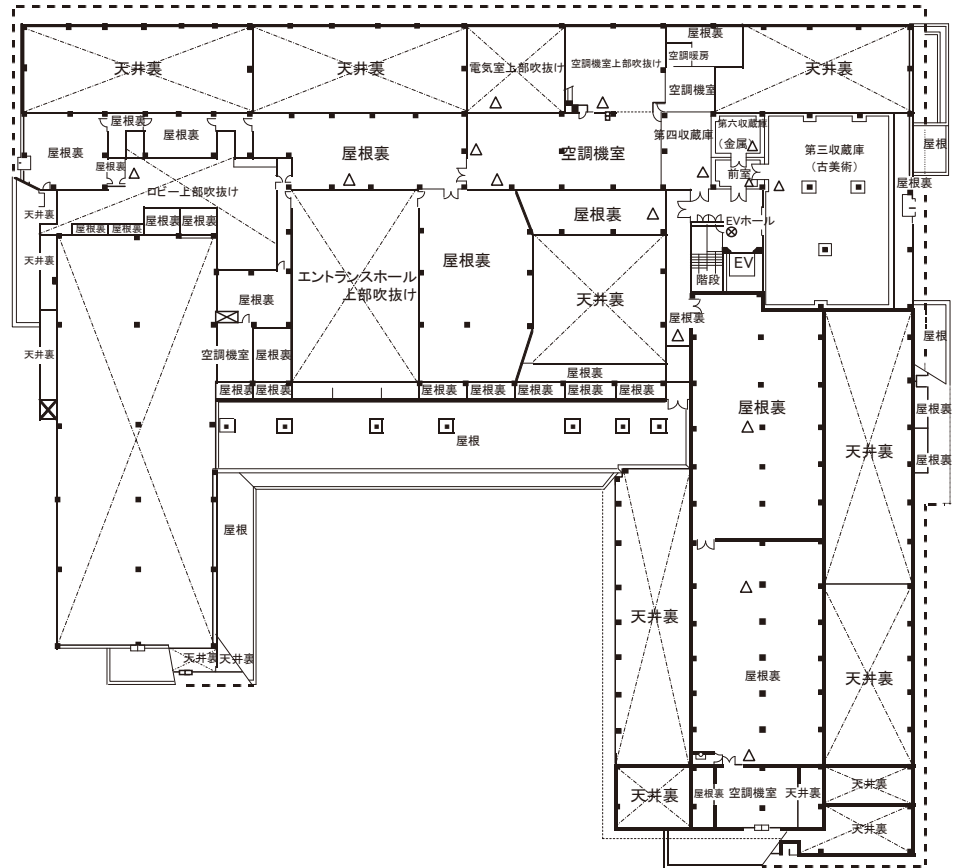
<p>電気設備</p> <p>1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用)1575KVA (冬季用)400KVA</p> <p>2. 非常用電源 発電機 3相3線式6.6KV 50Hz 400KVA 蓄電池 密閉型アルカリ AH-PE200AH86セル</p> <p>3. その他 電話設備、インターホン設備、TV共同視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放送設備、ITV監視設備</p> <p>4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック</p> <p>空調設備</p> <p>1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファンコイル ユニット方式</p> <p>2. 熱源設備 ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2 ガス焚鉄セクショナルボイラー (396.00Kcal/H) 水冷式チーリングユニット(120RT)</p>	<p>衛生設備</p> <p>1. 給水 市水道 受水槽：50m³</p> <p>2. 消火設備 (屋内)スプリンクラーとハロン消化設備の併用、(屋外)野外消火栓</p> <p>昇降機設備 備油圧式エレベーター定格荷重：3 t 1基 油圧式リフト 定格荷重：2 t 1基</p> <p>融雪設備 ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組み合わせにより自動運転または手動運転。</p> <p>監視設備 分散形総合監視制御システムにより、受電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。</p> <p>電話設備 電子交換外線3回線 内線64回線</p> <p>火災報知設備 受信盤P型1級 60回線(自火報)33回線(防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、排煙区画8系統、平面地図盤(照光式)により表示</p> <p>防犯設備 電波センサー・電子サイン・ITVを必要箇所に設置し、監視制御システムと併用</p>
--	--

3. 平面図・各室一覧

1 階平面図



2 階平面図



各室面積表

室名	面積(㎡)	備考	室名	面積(㎡)	備考
収蔵スペース 2,294.8 (㎡)			応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
工作室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用(1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース 788.3 (㎡)			機械スペース 1,253.1 (㎡)		
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
情報処理室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース 2,815.1 (㎡)			ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース 2,507.54 (㎡)		
教育普及スペース 693.1 (㎡)			エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース 719.5 (㎡)			その他	1,202.64	
事務室	166.1		計	11,071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10. 31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場 2 台分）（～9. 3. 19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13. 1. 9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12. 16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11. 20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16. 1. 8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12. 17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17. 3. 18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10. 4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～3. 17） スプリンクラーヘッド交換工事（～3. 17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～3. 23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～3. 23）
平成19年 2月21日	ウォシュレット取付け工事（～3. 19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～3. 24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～12. 25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22. 2. 26）
2月17日	企画展示室改修工事（～3. 29）
11月16日	中央監視システム更新工事（～23. 4. 25）
11月26日	空調熱源機器改修工事（～23. 4. 22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～4. 25）
平成27年 9月 1日	冷房暖房設備改修工事（～11. 24）
平成27年 9月 2日	シャッター撤去・新設工事（～10. 15）
平成28年 9月13日	冷却塔外改修工事（～29. 3. 10）
平成29年11月 1日	非常用電気設備触媒栓交換修繕（～12. 27）

5. 沿革

《開館にいたるまで》

昭和52年 5月13日	文化を考える県民会議の設置
6～ 8月	文化に関する県民意識調査の実施
昭和53年 1月24日	文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
7月26日	第 1 回文化振興会議開催
昭和54年 2月 2日	文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
3月19日	文化施設等整備基金条例制定
4月 1日	福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
2月24日	福島県美術品等取得基金条例制定
昭和55年 4月 1日	福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
昭和56年 1月26日	県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
2月 3日	県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
昭和57年 2月18日	県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
昭和58年 7月30日	建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所） 展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
昭和59年 6月 8日	建設工事契約（株）清水建設仙台支店・（株）会津土建・（株）秋山建設による共同企業体
7月 7日	県立博物館建築工事着工（～61. 3. 25）
7月10日	展示工事委託契約（株）トータルメディア開発研究所・（株）乃村工藝社・（株）丹青社による共同企業体

7月13日	展示工事着工（～61.9.10）
昭和61年 3月25日	県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
3月31日	県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
4月 1日	県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
10月 1日	展示解説員19名採用
10月18日	県立博物館開館

《開館してから》

昭和61年11月28日	登録博物館の指定（第10号）
昭和63年 8月21日	入館者50万人達成
平成元年 3月10日	友の会設立
平成 2年10月 7日	入館者100万人達成
平成 4年 3月31日	日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
平成 5年 4月 1日	展示解説員22名となる
平成 7年 5月 5日	入館者200万人達成
平成 8年10月 5日	開館10周年記念式典を催す
平成12年10月15日	入館者300万人達成
平成13年 1月25日	博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
平成14年 3月25日	博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
平成15年 3月24日	博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
3月28日	高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催
3月31日	高橋富雄館長退任
4月 1日	赤坂憲雄が県立博物館長に就任 前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年 4月 8日	赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成17年 5月 6日	入館者350万人達成
平成18年 9月29日	博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
平成19年 7月	福島県立博物館の使命を策定し公表
平成19年 7月21日	当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹 一列島の文化 北から南から一」を開催
平成20年 7月19日	磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
平成22年 6月26日	県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶ—ふくしまの森林文化—」を開催
平成23年 3月11日	宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館
平成24年 5月15日	「福島県被災文化財等救援本部」が発足。当館は、福島県教育庁文化財課、福島大学、福島県文化振興財団とともに幹事として参画。8月～11月にかけて、東京電力福島第1原発事故による警戒区域内に所在する双葉町歴史民俗資料館、富岡町歴史民俗資料館、大熊町民俗伝承館に収蔵されている資料の梱包、搬出、一時保管場所への搬入作業を実施。
平成25年 5月17日	2013年NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」を開催
11月27日	「博物館ニュース」創刊から400号達成
平成27年 5月 2日	福島県立博物館と福島県立美術館が美術館移動展示「ふるさと会津の人と四季—福島県立美術館名品展—」を共催
平成28年10月15日	博物館開館開館30周年記念式典を開催 開館30周年記念特集展「収蔵庫からこんにちは」を開催
平成29年 3月26日	福島県財務規則の改訂により博物館資料「震災遺産類」追加される

VI 利用案内

● 開館時間

午前 9 時 30 分～午後 5 時（最終入館は午後 4 時 30 分まで）

● 休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内メンテナンスのために臨時に休館することがあります。

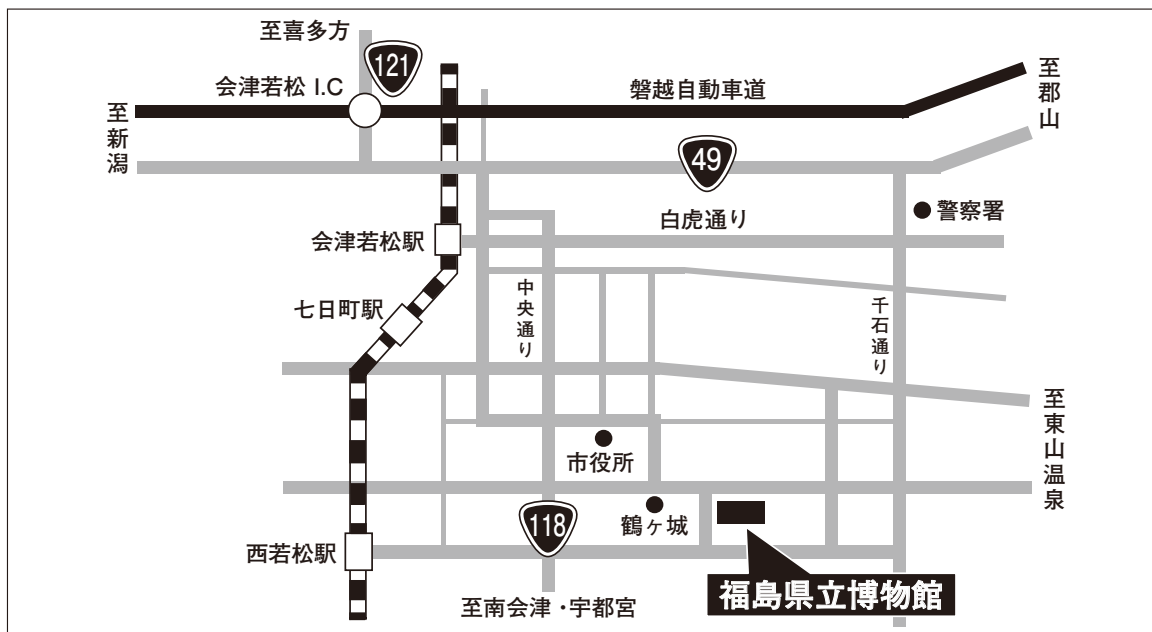
● 観覧料

- ◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金
一般・大学生270円（210円） 高校生以下は無料
- ◎企画展 そのつど定めます。
- ◎年間パスポート（常設展・企画展を何回でもご覧いただけます 購入日より1年間有効）
一般・大学生1,500円 福島県立博物館が主催する展覧会のみ有効です。
 - ★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は申請により減免措置を受けることができます。
 - ★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料。
また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。
 - ★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は常設展のみ無料。
 - ★展示室以外の入館は無料。

● 常設展無料開放日

5月5日(子供の日) / 8月21日(県民の日) / 9月18日(敬老の日) / 11月3日(文化の日)

● 交通案内



◎会津若松駅より約 3 km

◎市内バス利用の場合

- ①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三の丸口下車徒歩 1 分
- ②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三の丸口下車徒歩 1 分

● 体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

● 講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第32号

平成31年2月15日 印刷

平成31年2月15日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

印刷 株式会社 アポロ

〒965-0044 会津若松市七日町14-7

TEL (0242) 22-5139

この年報の本文は再生紙を使用しています。





福島県立博物館